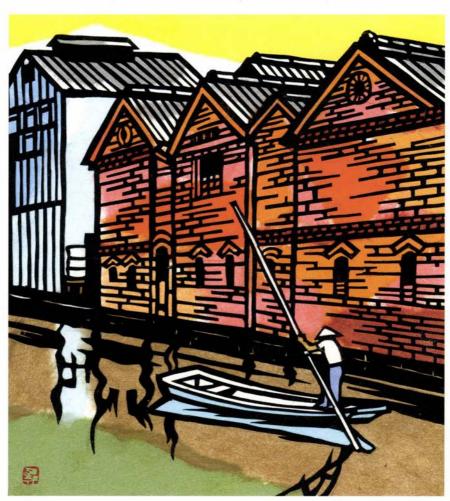
川柳塔



No. 984

五月号

創刊大正十三年 通巻九八四号 東成二十年五月 一日発行(毎月一日発行)

日川協加盟

暑中見舞広告募集

的にご 込み のアピール スと掲載料は 本 のほど、 ます。同 誌七月号に掲載する暑中見舞広告を募 利 用 をお願いする次第です。広告の及び誌上名刺交換の場として、 よろしくお願い申し上げます。 人・誌友ならびに各句会 口%頁 左記のとおりですので、 000円 広告の (川柳会) お

積極 スペ 申

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

あらゆる印刷物の事なら、まずお電話を……。 あなたの思いをかたちにします。

★団

体

0

几

種とい

氏名・住所・電話番号

など

掲

載

%頁

Ξ,

000円

② 半 1

貞

000円

4

頁

八二

000

円円

少3頁

六 次

000

円

③ 2/3 頁 たします。

原稿締切

5月23日

543-

0052

大阪

市天王寺区

2 大 道 1

号 | 室 一

四

ti

花野ビル

 $_{\rm E}^{\rm T}$

6 7 7

9

4

9 社

111 0

柳

塔 3

美 研

〒530-0022 大阪市北区浪花町9番4号 TEL (06) 6372-1178 FAX (06) 6372-1196 E-mail: bikenart@wonder.ocn.ne.ip

ふかし芋

河内天笑

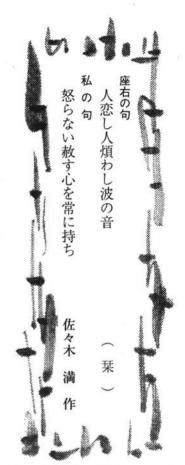
も回りました。南海高野線の窓ガラスは割れているし、 センチ位のふかし芋五本。とび上がる程嬉しかったので ふかし芋を頂きました。今の私の親指くらいの太さで15 座席シートは靴磨き用にあちこち切り取られていました。 の農家へ飛び込みで着物と食糧を交換して貰うべく何軒 るのがやっとの事で、私を連れて和歌山県の橋本市辺り 女の知り合いをあちこち走り回って僅かな食糧を調達す 時27未婚)の勤めていた乾物屋も焼け出されたが、彼 心細さに打ち拉がれて何も出来ずにいました。長姉 頃父は体調を崩し、二人の兄達が未だ復員していなくて 鎹でつなぎトタンで囲って雨露を凌いでいました。その に掘った防空壕とその上に拾い集めた焼け残りの材木を を私ごとで恐縮ながら書かせて下さい。 ておきたい、知って頂きたいひとりの姉の優しかった事 今に至っていますが、どうしても一つだけことばに残し そんな或る日のこと、近所の知り合いから紙に包んだ それは終戦間もない秋のこと、生家真向かいの疎開地 これまでいろいろなお方の親切や優しさをいただいて

食べました。

「四人の姉と私で一本ずつ分け合って頂きました。

「の人の姉と私で一本を手渡して「はよ食べ」。私はあれ、おいしかったやろ、姉ちゃんのんもお食べ。」姉はん、おいしかったやろ、姉ちゃんのんもお食べ。」姉はない。四人の姉と私で一本ずつ分け合って頂きました。

富美子姉はその年の十二月十五日に風邪で寝付き翌年に月四日夕方帰らぬ人となりました。医師によれば栄養正月四日夕方帰らぬ人となりました。「姉ちゃんの優しさを貰うて僕は元気に生きてます。お芋さんおおきに」とこれを言いたかったのです。「姉ちゃんので」とこれを言いたかったのです。「姉ちゃんので」とこれを言いたかったのです。に」とこれを言いたかったのです。に」とこれを言いたかったのです。お芋さんおおきに」とこれを言いたかったのです。お芋さんおおきに」とこれを言いたかったのです。お芋さんおおきに」とこれを回復させる。



川柳塔 五月号目次

題字・中島生々庵/表紙きり絵・前田 尋「柳 川」

水煙抄 自選集 温故知新 柳塔 柳塔誌通巻千号に寄せて 柳塔の川柳讃歌 ふかし芋 (53) 小島 木 河 河内天 Ш 津川 蘭 笑 選 選 笑 歩 計 : : : : : 52 51 48 4 2 1 47

檸檬抄

高瀨霜石·

木本朱夏共選

 $\widehat{77}$ $\widehat{76}$ $\widehat{72}$

80

麻生路郎句抄

愛染帖

新家完司

選

:

誹風柳多留

篇研究

45

川柳塔誌通巻千号に寄せて

川端一歩

来年二〇一〇年の川柳塔まつりは、川柳塔来年二〇一〇年の川柳塔まつりは、川柳塔のたいと思ったが、決意は三日坊主で終った。この機会にと意を決して、神谷凡九郎さんから頂いた『川柳雑誌』三〇六号から四さんから頂いた『川柳雑誌』三〇六号から四さんから頂いた『川柳雑誌』三〇六号から四さんから頂いた『川柳雑誌』三〇六号から四さんから頂いた『川柳雑誌』三〇六号から四さんから頂いた『川柳塔まつりは、川柳塔

大〇長、(秦千長) まで 路良労当の差更言を が事など全部コピーをした。 「川柳とは何か」の本と、大八先生の『麻生 路郎物語』を読めば充分だと思っていた。 しかし、今回先生の随筆や講演会などのコ ピーを読んで自分の偏狭さを恥じた。その中 ピーを読んで自分の偏狭さを恥じた。その中 ピーを読んで自分の偏狭さを恥じた。その中 に珠玉のことばが多く鏤めてあった。しか 上生々庵先生はそれは「川柳人として、或い は社会人としての人間を陶冶するという意味 での愛の鞭である」、と言われた。

	Ы	١	1		!	■編集	五月冬	柳界展望	各地柳	四月木	■エッセー	■エッセー	7	秀可監賞	初歩教室		一路集	
	外国の孫が遊	私の句	児が追えば鳩	座右の句	1	編集後記(ひとこと/岡本	五月各地句会案内	公望	各地柳壇(佳句地十選/山本義子)	四月本社句会	セー 川柳と俳句	セー 川柳の眼 …	了一水煙抄	一同人吟	発室「セールス」…	\「楽器」	木 (「リボン」	/「 雲 」
	外国の孫が遊びに来てという		児が追えば鳩は歩いて逃げるなり			昇)			日本義子)									
	奥					希久子‧冨美子‧光久…				i	:: 井	:: 太	高	板	… 鈴	: 平	矢	:: 小
7,1			豆			富美				İ	上	田	橋	東	木	尾	倉	西雄
T.	時					子					桂		岳	倫	公	菜美	五月	雄々
	•		秋)		n	光久					作	昭	水	子	弘	選	選	選
	雄							:	:	:	::	::	:	::	::	::	::	:
		1	•	***************************************		116	114	113	96	92	90	89	88	86	84	83	82	82
		2.800			0		0 () .		0	-		0)反	=

)近く選挙があるらしい。 自分の意志と反対)私は一八八八年七月十日生れだと、書きも)私は他人よりもうまい句を作ろうなどと言 後したいと思う。 川柳塔誌通巻千号は宝の山である。 なるのではないか。 を思うと、人間の弱さにつくづくと嫌にな に一票を投ずる人たちのいかに多いことか 登攀するにも等しい精進を続けようではな いだ。私達はアルピニストが岩山の絶壁を)難しいからと言って捨ててしまえばおしま 考える人となりたまえ。)作句は趣味であっても選は慰みにすべきも る。折詰はもらってよろしい、温泉へ行っ することが出来ない。 し、言いもしているが、私自身それを証明 葬むることは恐るべき罪悪である。 ある。他人の優れた労作をヤミからヤミに のでなく厳粛に慎重に真剣にすべきもので るだけ忠実であるだけである。 う野望を持ったことは一度もない。ただ川 に投票しなさい。とすれば今よりも清潔に てよろしい。その代り一票は自分の思う人 柳ひと筋に溶け込んで、自分の思想に出来 (新春雑感 後頭言

路郎忌を前にして、先生の箴言をもう一度



河

内

笑

選

米子市 木

酒吞みの家系に吞まぬ父がいた 罪のない酒をうらんだ依存症

この花とこの陽の中に居る至福 平凡な望みで生きて来て米寿

野の花のように自分を咲いて来た

いただいた命おろそかにはしない

坂

上

のり子

火が走りあっと言う間に灰の森 シドニー

うす味の中に一品きかす味 南極も氷どんどん融けている

欲張らずていねいに日々過ごしたい あの歳になれば学歴より気品 お抹茶の出番ないまま色香あせ

ライバルもわたしも土俵際にいる 赤ちゃんの掌の中にある宇宙船

弘前市

髙

瀬

霜

石

相部屋のよしみで見せる脛の傷

村 富美子

寝ころべば運が空から降ってくる くたびれた親父が映る洗面器

自叙伝に嘘がないとは嘘である

SMAPの五人目の名が出て来ない 膝がくがく下山に欲しいすべり台

豊中市

安

藤

寿美子

花菜漬つまみ冷酒を飲んでます セーターは春物下着冬のまま

寒いけどダイヤのように春の雪 そうか私ふられたんかと引き下がる

隠そうとすれば相手に隠される 格好よく見せず飾らぬ方がい 正直に言えば関係深くなる いい人を演じて今日も疲れきる

選択肢自分で決めるくせつける

会う前に先入観で決めつけぬ

春 木 郎

鳥取市

唐津市 市 丸 晴

年金の暮らし歩幅を狭くする B 面 の昔話に和む老い

洗濯物干せば杉山から花粉 野次馬の居ない喧嘩は続かない

振り向けば逃げたチャンスが笑ってる

宇宙ゴミ魔女の箒も手に負えぬ

市

加

島

由

婆ちゃんが喜ぶ足の太い嫁 春眠を覚まし北上する桜

子も親も思うようにはなりません 五月晴れ僕は今日から素老人

母さんは嫁とやり合うから元気 神桜も振り向く仲のよい夫婦

鳥取県 佐 伯

え

P

雨だれがのどかに唄うドレミファソ

鎌をとぐ手元を春がのぞきこむ

ひ孫に童話 語る時間は惜しまない

戦中戦後生きて不景気なんのその

新手詐欺逆手にとってあぶりだす 大山さま拝む背すじが伸びてくる 河内長野市

Ш

尚

富美子

不平不満ためてお肌が荒れている 貯め過ぎるとお金は毒を持つらしい 政治不信マグマを溜める飯茶碗

> 失敗をバネにチェンジをためらわず どの色で咲いても美しい余生

貯めないでぱっと撒きます給付金

大阪市

古今堂

蕉

子

アナログですもう自慢にはなりません 貸した金取りに手ぶらで行けぬ人 カギかっこ春をゆるりと閉じこめる

嘘をつく仮面時々被らはる 業平と小町が先祖だといいな

謎解きが出来ないままに目を逸らす 言い訳をしながら手抜き料理出す 大阪市

滾る血はまだこれからと立ち上がる 乗せられて演じたワルが身についた 金持ちでないからオヤジ気前いい

脇役の霞草には棘がない 向い風うまく掴んで空翔ける

ホイッスル鳴らして春が走りだす 米子市

政

尚

日枝子

坂の上から東京の方を見る 唄える歌を手帳に書いてもって出る

味噌汁に結ばれている三世代 望み叶った後が少うしおそろしい 人蹴った足が病んでる詫びている

> 裕 之

坂

好き嫌い言わずに食べてきたメタボ 図星ではないがドキッとさせられる 残像を刻む白菜真っ二つ サヨナラと言ってトイレでまた出逢い 母さんの口癖だったケセラセラ 磨りガラスの中なら本音言えそうだ メロンパン君のやさしさ信じよう 螺旋階段下りてめまいをしてる猫 瑞雲が流れて春がてのひらに 心だけはいつも晴れマークでいたい 明日雨降るかと膝にきいてみる 啓蟄へごきぶりそっと顔を出す 雪だるま春には涙もろくなる 年金へボーナスですか給付金 国会討論露天風呂から見ています 政権はどっちとっても金はない 愛犬を抱いて老母を叱りつけ 安い店探す時間も金のうち あの人は仰山買うたカードだナ 春日和五体天まで伸ばしきる チョコのお返し期待しています 和歌山市 寝屋川市 神戸市 八尾市 太 上 村 両 地 上 Ш 田 ミツ子 登美代 無 とし子 限 空っぽの両手で夕陽受け止める 計報とや高いとこから落ちてくる 踏まれてもふまれてもまだ影法師 受かったと電話向こうも涙声 幾万の甲種合格不帰の人 もぞもぞと動くものあり悩む古希 怒るとき怒ってないとなめられる 原点は貧乏芯はゆるがない 余生万歳もう怒らない威張らない ゆっくりと明日が見えるあたりまで 正論を譲らぬ老いた靴である 入る気がないのに自動ドア開く 年上のサクラがひとりはしゃぎすぎ 打ち易いボールで打診するあなた 父の癖も母の癖も確と持つ ブロッコリー作者の名前貼ってある わたくしの場合涙腺から老いる 僕の持つ諭吉殿には明日は無い 立つ位置は中道よりもやや左 ママチャリを操りながら古希の坂 人混みで詩集売ってるホームレス 河内長野市 藤井寺市 松山市 太 坂 髙 上 橋 田

宏

臣

扶美代

淳

司

思い出し笑いをしてる春の宵 腹の立つ時もにっこりしてしまう いつ死ぬやわからん言うてよう遊び もも色にハート膨らむ春が好き 君が代はうたうが国旗出せへんな あっさりと私の好意無にされる 念入りに掃除ヘルパーさんを待つ 模様替えして新しい季節待つ 花便り届き今年も逢いにゆく 花柄で包む疲れたマイハート 頼られて少し大人の顔になる 目標はほんのり色香ある白寿 好奇心うずうずしてる今が旬 サクラサク便り待ってる預金帳 痛み止め飲めば痒みが追ってくる 古家ががたがたみしりよく軋む おくりびと後期高齢者であふれ 銀行のおまけ日用品ばかり コーヒーも緑茶も飲んでまだ眠 春うらら御伽噺が騒ぐ森 線を引いて無難なお付き合い 高石市 大阪市 富山市 大 浅 森 島 内 野 田 朝 ひかる 房 明 子 子 子 鈍感で助かった事数多あり 見つからぬように隠したとこ忘れ 道の駅外国産も紛れ込み ほいほいと出掛けしんどいとも言えず しんどさが気にならない日気になる日 擦れ違う人にも会釈する墓参 魂の森林浴をしています 大根の花大好きで穫りのこす 孫の瞳のナゼナゼナゼの虹の彩 つつみこむ空気が好きで寺めぐり 遠方の友にたけはら味香り 標準木ひらく桜の心意気 並んでまで買いたい物は何も無い 舌下錠すこうし眠くなってきた 不景気を余所目にパッと咲く桜 行間を埋めに来たのは杉花粉 体温をたしかめながら生きてます プライドを一枚二枚脱いで春 前向きに歩けあるけと天が言う またしても命のかけら歯が抜ける まだ色気ちょっぴりあってややこしい 大阪狭山市 藤井寺市 竹原市 矢 石 髙 野 原 田 淑

子

梓

ちょっと酔いまわってるから発泡酒 特別の便箋で書く人が出来 とろとろと夢は気長に煮込みます 自分史の余白諦めないと書く 上向いてへいこら下向いて威張る 削っても削ってもまだ皮下脂肪 逆ろうて関白の座を追い出され お言葉に甘えましょうか給付金 兄の傘まだかさ立てに三回忌 捨てられるゴミの運などふと思う 展望台より見える我家は豆の粒 見守ってやろうひと花咲かすまで まっすぐに歩く運命かも知れぬ 今更ともまだまだともと白髪染 春愁か毬がちっとも弾まない 歳よりも若いだなんておべんちゃら 妻という許容範囲で跳ねている 色とりどりパンジー達の笑い声 着外と知りつつ駄馬のひた走る 一行のメモに展開する波乱 しい夜景に記念日がはずむ 東かがわ 吹田市 市 市 矢 穴 清 小 倉 吹 JII III Ŧī. 尚 玲 てるみ 月 士: 子 このごろの犬人間のメシ食わず リセットをするにはすこし遅すぎる 殴ったらやっぱり殴り返される ナメクジウオも笑う人間の殺し合い こわあい顔して笑わせる睨めっこ 踏んだり蹴ったり禁じ手つづく隅田川 躓いてひと皮むけた顔になり 触れないで只今孵化をしています 狂うのは嫌だが認知症も嫌 年なりの元気はあると信じたい どうせなら笑って脳を活性化 遠い日の指切り忘れられたまま 愛猫が日なたの匂い持ち帰る 縄のれん昭和の匂いただよわせ 春なのに恋の女神に無視される 恋風がわたしの気持急き立てる 遊歩道風と一緒にウォーキング 喫煙者特別室をあてがわれ 順不同同級生の数が減る ケータイがあって気楽な待ち合せ 天気図の縦皺消えて春になる 羽曳野市 岸和田市 大阪府 米 雪 好 澤 本

俶

子

珠

子

専

平

電話ボックスある路歩む万歩計 永らえてこころの襞がまた増える 今日を謝し明日を祈り暦剥ぐ ボロボロの辞書を大事にしています 侍がコールドゲーム勝ち取った 水を金で買う時代です次空気 ローン消え残尿感も今は無し 妻の隠す埋蔵金はハテ何処に 泣く子居て怒る子が居た遠い幸 わだかまり手っとり早く溶かす酒 独り旅好きな私のベレー帽 夜遊びの言い訳選っている歩幅 里帰り方言戻る餅を焼く 小遣いをくれる形で出る懐炉 リストラの風が笑いを消しに来る 再起する足に似合った靴探す 神様は旅路の涯を知らさない もくれんへ春のいぶきを深呼吸 左手を添えた握手があたたか 母の駅姉も私も通り過ぎ 傘寿からローカル線に乗りかえる 弘前市 大阪市 茨木市 米子市 出 門 JII 藤 本 原 井 脇 花 晶 正 匠 雄 子 他人事の話に自分混ぜておく 記念日を共に忘れた振りをする 駅名も知らずに降りる途中下車 母さんは起床ラッパを二度鳴らす 旅人の肝を方言軽く撫で 屁理屈へ喝を入れられ目が覚める 散りかけの梅は疲れた色で咲き 無い知恵が湧き出し嘘が出来上がる 手作りのチョコに好きだと喋らせる 幾何模様蜘蛛のおろした定置 結論が出ずいらだちを隠せない 美辞麗句罠ともしらず引っかかる マンホール道路大きな呼吸する 空席へスーッと横から来て座る うろたえたのは神様の方でした 春はまだ道草しつつやって来る 空想で手をつないでる片思い クラス会病気自慢の歳になる 旅に出た気分で寄った道の駅 マフラーをスカーフに替え街へ行く かぐや見た地球金環酔い痴れる 鳥取市 砂 川市 伊 大 有 達 橋 沢 郁 政

良

夫

麗

腹立てぬ年寄りばかり長寿国 ありがたや今年も老母と花吹雪 眼差しが左右で違う苦労人 漆黒のドレスに包む白い肌 夜空見てあした着る服考える ゴクゴクと両目瞑って水を飲む 選挙より誇大広告ジャンボくじ おっちゃんと呼ばれたらしいお師匠さん 枝豆をビールのアテに植える父 和のお膳国連ほどの多国籍 大阪の雪を待ってた園児たち 心頭の怒りおさえて丁寧語 支持率にどつかれ慣れた厚い 目ぢからで補っている骨密度 値切られて耐えてなんぼの小商 石投げる水平線にとどくまで にこにこと握手で枷をはめられる 上巻の余韻で下巻買ってくる 読みかけのページに挟むうしろ髪 落丁のように突然夏になる 下茹でをしておく来週の予定 つら 大阪市 堺 京都市 Vi 一田市 市 榎 北 高 柿 島 野 花 本 啓 舞 哲 和 夢 男 夫 子 熱の出た深夜妖怪さんに逢う 強がりでわがままなまますぐ米寿 葱坊主春はタクトを振る季節 白昼夢醒め現世に舞い戻り ひまがあり過ぎても知恵の輪は解けぬ この世とは不平不満を言えるとこ 七癖の一つのように嘘をつく お隣と比べなければいい亭主 よく言えば個性ともいう変な癖 誤字脱字修正液が甘やかす 金のいる話と知って先に酔い 形見には絣の財布小銭入れ 遺産分け何もないから仲が良い 九十八歳母は見事に往生す 黄水仙母が植えたと知って咲き この世では生きるも死ぬもエライコト 帰るのを待つように母眼を閉じる 電話口食い付くように長話 皺のないひなを飾って心満つ 転ばずに歩くお祈りして出かけ 大声で好きだと言えるラブソング 鳥取市 大阪市 西脇市 七反田 # 近 藤 成 佳 順

好

子

子

高速化ブルートレイン灯が消され 大食いも特技になれば人気者 寝坊して雨戸を遠慮がちに開け 民謡が流れ産地を確かめず 冬眠中新聞だけは取りに出る モナリザも少し垂れ目になり給い 自分では自分の魅力気付かない 米寿生き八十八年分の 恵まれた五体をいつも持て余す おふくろの教科書にない生き上手 旅館でも体重計に乗ってみる よく出来た造花クスクス笑ってる 幸せの形でアルツハイマー眠る プロポー 百均のネックレスとは気付くまい ご近所と互助精神を温めあう 七色の音を奏でる洗濯機 朝夕の読経こころの糧となり ブランド品自己満足に浸るのみ 一次会で舞台の裏を聞かされる 一択なら認知症より癌選ぶ ズした日は少し酔っていた 国分寺市 藤井寺市 東大阪市 尼崎市 野 Ш 鈴 佐 一々木 田 木 崹 耕 13 満 さお 勝 治 作 手抜きした庭雑草に攻められる 年金の城で安住するつも トラウマと同居している春うらら 次の世を担って芽吹くランドセル 泣かれたら折れるしかないのが男 戯れに犬に吠えたら吠えられた ばか陽気蓬を踏んで土手を行く 孫が来る上等の肉買っている 待ち疲れ選挙ダルマも眼を閉じる 寝たきりの母笑うたという電話 方言にころりと負けた仲直り せめてなら輪ゴム程度の融通を 勇ましい軍靴の中にある悲哀 タンゴジャズ父が歌えば演歌調 今日もまたテレビの番をして過ごし 高齢の母の様子で決める旅 正義漢ぶってテレビにだけ吠える 言い訳をするほど疑惑深くなり 薀蓄を聞かされ飲んでいるワイン の振りして夫婦肩が凝り 間近失くしたくない好奇心 和歌山市 豊中市 市 福 村 江 本 上 見 英 玄 見

也

清

子

東かがわ市	Ш	崎	ひかり	西予市 黒 田 茂 代
内情が裸にされる通夜の席				特攻平和会館懺悔深くなる
倖せは母の最後に会えた事				その写真死にゆく顔と思われず
順風満帆踊り歌った日もあった				若者の遺書の字がみな美しい
七十年生きた証の背の丸さ				特攻の秘話淡々と解説者
しみじみと先に逝くなと夫言う				特攻悲話胸奥にまだ渦巻いて
東かがわ市	伊	勢	八重子	大洲市 中居 善信
聞いてない振りしてみんな知っている				白州次郎へ俺も譲らぬ物がある
許す事覚えて心の波を消す				泥臭い生きざまですがこれが僕
ホロ苦い春を見付けた蕗のとう				ど田舎のここが私の現在地
ふり向けば数え切れない我慢坂				爺と婆が切り盛りしてる村が痩せ
夢よりも真実を見る目が欲しい				米も野菜もこんなにあるに不況とや
松山市	宮	尾	みのり	高知県 小 澤 幸 泉
そっと手を添える言葉は無いけれど				日の丸と赤旗掲げ五月晴れ
うぬぼれが過ぎて乾きに気がつかぬ				長老の舌がだんだんもつれだし
タレントの弔詞どこかが嘘っぽい				どうしても許せぬ罪が胃を荒らす
亀は亀うさぎに一度勝ったとて				叱りつけ眠れぬ夜が長すぎる
イメージと違うあまりに下手な文字				長寿本読んでその気にさせられる
松山市	古手川	Ш	光	唐津市 山 口 高 明
冠雪の石鎚山に見る威厳				本堂の甍一枚喜捨の善
おしゃべりなスズメに今朝も起される				礼拝の僕に光背ふり灌ぐ
不景気の中にほくほく顔もいる				加齢臭なんと嫌いな日本語
砂漠化が進む地球も人間も				節介の序でと苦役引き受ける
うぐいすの初音を聞いた墓参り				丑年の兄が案外慌でもの

生かされて米寿峠の陽を拝む 井 F. 勝 視 今日のこともう忘れてる日記帳 黄砂から思わぬ洗車させられる 髙 野 宵

草

士の子に生まれずに良かったナ

歩かない老いはいよいよ歩けない

誕生日いつもと同じ老い二人 奥行きは知らず間口で価値を決め

唐津市 坂 本 蜂

朗

ずーっと底擬餌を承知で食らい付く 妻や児の風除けに耐えぬく背中

公園のベンチに猫を待つ媼

給付金の陰にうごめく消費税 喇叭飲み始めた友と距離を置 野良猫と老女ばかりの目立つ街 唐

津市

桶

輝

夫

選挙戦怒号哀願入りまじり

絵馬堂の裏に叶わぬ札の山 省エネの視点がずれる嫁姑

百均で一つ買うにも迷ってる

熊本市

永

田

俊

子

あの角を曲りゃよかった夢ひとつ 世相読む折り目正しい新聞

長生きはしたけど光るものがない 札束へ澄んだ瞳が濁り出す 目礼をしてすれ違う杖と杖

突然の旧友と話す点と線

わが庭もカメラに残す雪化粧 早春の息吹き求めて風邪を引く

一世からチェンジをしたい衆議院

熊本県

岩

切

康

子

フリーマーケット待望の品手に入れる 足元に気をつけてねと福寿草

空腹になると言葉が荒れる彼 エレベーター故障が欠席の理由

黒一点混じり嬌声凄まじい 側近が虎視眈眈と狙う椅子

時効まで逃亡したい借用証 キッチンで利き酒好きな割烹着

応接間眠ったままの広辞苑 フェロモンで根回しをする薬指

黒石市

佐

藤

古

拙

変だなあ慥かにここに置いたはず 接続詞勿体ぶって変声期

煙草の輪ゆっくり吐ける場所捜す

土筆にょきにょき尻目に塾通い

花

黒 石市

相

馬

アナログと格差をつけているテレビ半分こ妻が大きい方をとる	と,旨生にして、	終るかと思えば続くご挨拶	弘前市 福	オペタイム待ちに待つタイムオーバー	待つ手術検査検査と疲れ果て	針小棒大くどい説明オペ中止	食事でき挿入管を忘れてる	わくわくと嬉しい食事待つ至福	弘前市 櫻	立ち並ぶ銚子にからみつく本音	神の手をどうにか掴む救急車	雨が降る地図をなぞって行く旅よ	砂浜の団塊族は貝になる	言い訳はよそうよ雨は止んでいる	平川市 小	コンビニで売って居ませんジャッパ汁	うまい酒あって長生きしています	税金が国の血となり肉となり	何時までも若さを保つコラーゲン	飛び出すな走る車がかみつくぞ	十和田市 阿
			士						庭						寺						部
			慕						順						花						
			情						風						峯						進
受津片	・パ	凮		ha										201						1	
受話器から古里を嗅ぐ国訛り津軽三味一途に生きている音色片減りの靴で微罪を積み重ね	パンのみに生きると濁る心の眼	風の子の遊びを拒むアスファルト	弘前市	年金日支払いものが待っている	税金のように割り当て寄付が来る	献立の苦労を知った妻の留守	少子化でお客がいない縄電車	肉筆の手紙は脈の音がする	弘前市	青空に眩しいばかり辛夷花	街路樹の柳も芽吹く春の宵	どの庭も連翹咲いて里の春	給付金刺身を買うと里の人	給付金白神の里真っ先に	弘前市	春の雲終着駅は始発駅	スタートは長靴になる農夫です	備忘録手に明日からは二度の職	足跡を読まれて悩む冬兎	シナリオにこだわるぼくは忘れ下手	弘前市
り音ね	こうと とここと こうこう こうこう こうこう こうこう こうこう こうこう	の子の遊びを拒むアスファルト	弘前市 髙	年金日支払いものが待っている	税金のように割り当て寄付が来る	献立の苦労を知った妻の留守	少子化でお客がいない縄電車	肉筆の手紙は脈の音がする	弘前市 須	青空に眩しいばかり辛夷花	街路樹の柳も芽吹く春の宵	どの庭も連翹咲いて里の春	給付金刺身を買うと里の人	給付金白神の里真っ先に	弘前市 今	春の雲終着駅は始発駅	スタートは長靴になる農夫です	備忘録手に明日からは二度の職	足跡を読まれて悩む冬兎	シナリオにこだわるぼくは忘れ下手	弘前市 相
り音ね	こうとは、ということである心の眼ンのみに生きると濁る心の眼	の子の遊びを拒むアスファルト	щ	年金日支払いものが待っている	税金のように割り当て寄付が来る	献立の苦労を知った妻の留守	少子化でお客がいない縄電車	肉筆の手紙は脈の音がする		青空に眩しいばかり辛夷花	街路樹の柳も芽吹く春の宵	どの庭も連翹咲いて里の春	給付金刺身を買うと里の人	給付金白神の里真っ先に		春の雲終着駅は始発駅	スタートは長靴になる農夫です	備忘録手に明日からは二度の職	足跡を読まれて悩む冬兎	シナリオにこだわるぼくは忘れ下手	
り音ね	こっとは、ここでは、ここでのみに生きると濁る心の眼	の子の遊びを拒むアスファルト	巾高	年金日支払いものが待っている	税金のように割り当て寄付が来る	献立の苦労を知った妻の留守	少子化でお客がいない縄電車	肉筆の手紙は脈の音がする	須	青空に眩しいばかり辛夷花	街路樹の柳も芽吹く春の宵	どの庭も連翹咲いて里の春	給付金刺身を買うと里の人	給付金白神の里真っ先に		春の雲終着駅は始発駅	スタートは長靴になる農夫です	備忘録手に明日からは二度の職	足跡を読まれて悩む冬兎	シナリオにこだわるぼくは忘れ下手	相
り音ね	こった。たれていているの眼ンのみに生きると濁る心の眼	の子の遊びを拒むアスファルト	市髙橋	年金日支払いものが待っている	税金のように割り当て寄付が来る	献立の苦労を知った妻の留守	少子化でお客がいない縄電車	肉筆の手紙は脈の音がする	須郷	青空に眩しいばかり辛夷花	街路樹の柳も芽吹く春の宵	どの庭も連翹咲いて里の春	給付金刺身を買うと里の人	給付金白神の里真っ先に	今	春の雲終着駅は始発駅	スタートは長靴になる農夫です	備忘録手に明日からは二度の職	足跡を読まれて悩む冬兎	シナリオにこだわるぼくは忘れ下手	相馬

害
育森県
松
Щ
芳
生

朝納豆食べていのちの封を切る 新天地探すタンポポ風に乗る 無人駅一番列車の人を恋う

分水嶺振り向けば森病んでいる

恋もする爆発もする酒も飲む

さいたま市 田

敏

ユニクロは春になっても混んでいる

時々は噴火をせねば忘れられ

連休の僕を待ってた登山靴 親と子の描く未来図にずれがある

植え捨ての球根太い芽を出 した

税申告頭も鈍り眼もかすみ 潮満ちるようには句想浮かばない

ダムになる郵便受けが目に残り 東京都

朝の水五感スイッチオンにする

背が縮み孫娘にも見おろされ 娘五十わが母に似た安堵感 癌だとて落込まれない親ゆずり 医者行きの予定先ず書くカレンダー わが余生介護と菊と句作りと

さいたま市

星

野

育

子

握手した数が私の宝物

肩の力抜けば自然とい

子守唄夢の向こうに母の笑み 乗り継いだ駅に歴史が刻まれる

横浜市

小

野

給付金理屈はいらぬえびす顔 雪国に運んだ雪で雪祭り

八百長の罰金元はとれている 献金を返しておくという疑惑

助手席の妻は寝てるか食ってい

る

叔母だけが義父を語れる人になり

目薬と仲良しになる花粉症 万歩計今日の調子が見えてくる 父親の話が長い親子酒 冠婚葬祭で年金三月分 立つ鳥に学び身辺整理する 回復し幸せは今家事が出来

日高市

根

岸

方

子

義父の忌にロシアの地図をじっと見る

食を抜いて悲しい義父偲ぶ

ようこそ柳人 陽明門は春

播

本

充

子

普段着でおこし下さい 五周. 年

通院のために更新する免許

東京都

岸

原 悦

子

清

犬山市 金 子

横浜市

菊

地

政

勝

足枷が外れ方向定まらず

忙しく忙しくして飛ばすウツ 梅薫る心も少し軽くなる

春蘭の奥ゆかしさに憧れる

今日もなおバージョンアップして歩む

飛ぶチャンスけつまずいても懲りぬ夢

花粉症花植え替えもままならず リフォームと野菜づくりで活見出す

涙する喪主の濃すぎる赤い紅

よく喋る人で二拝を忘れてる

ひと眺めしてから出掛け庭に春

JII

遡

行

丁寧な言葉で距離を遠くする 人間の我が儘聞いて曲る枝 風邪を移すと困るので休みます 人間をなまくらにする全自動

大いなる力に委ね生きて行く

犬山市

吉

田

幸

また借りが出来た我まま押し通し

犬山市 関 本 かつ子

正直な顔を知ってるコンパクト 御立派な墓を泣かせる三代目 愛知県 早

牛丼も食えなくなった派遣切り

信号の緑待てないのはイラチ 総理殿働く場所を若者に 国中が貧乏だった頃の夢 突然か予想通りか大不況 肌くすみ茶色はとても着られない

餌を狙う鷺は動かずチャンス待つ 落ち着けと帽子の裏に書く暗示

可児市

板

Ш

まみ子

梅一輪挿した窓辺はもう春だ お裾分け向う三軒風温

元気かと問われ少うし口ごもる

眼を閉じて早春の音捉えよう 議員族生活苦など知らぬでしょう 教え子のK大教授定年とか 心底は計り知れないあの笑顔

岡県

薗

H

獏

沓

遠花火見ているような株上下

生きているそれだけで良い妻介護 長生きは不義理が良いと教えられ 足早に忍び込まれる物忘れ 老いた身に薬が効かず酒が効く 辻褄の合わぬ言い訳聞かされる

川崎市

Ξ

浦

き

82

17 -

化粧品嘘と知りつつ五十年 朝食を旨いと食べる幸せよ 若者のドラマに無理な我慢の字 自画像のバックの色に迷ってる 真面目の字未だ大事に抱いている 猫ばなれ出来てないのは私です ウーロン茶で酔ったふりする花の下 憎めない忘れ上手なおばあちゃん 他人だと思えば腹も立たぬ人 目覚ましを止めて狸寝したい 日の丸を掲げてCHANGE出来る人 健康のコツ控え目にお裾分け 老いてなお気骨漲る顎が良い 朝一は拳を握り胸を張る 松明の歓喜が滾る二月堂 よく動く手足と口が宝です わたしだけの桜吹雪の中に立つ 神様がたより甘えてばかりい マイペースメトロノームは外しとく 夫と子に期待しないが沁み着いた (参拝暦二十五年 る 春 (息災延命) 亀岡市 京都市 京都市 京都市 井 坪 桝 井 宅 上 本 満 森 宏 子 子 生 突き止めて知りすぎた悔い抱いている ショパンからの手紙ピアノが読んでくれ 周平の描く日本が本棚に(蝉しぐれ) 月曜火曜絹ごし豆腐胡麻豆腐 節約が死語になってるゴミの山 スポーツ記者敗者の背にもペンを持て 日本海瞽女も芭蕉も見たしぶき ライバルが隣ちょっぴりやせ我慢 娘には反面教師だったかも 大学で大麻栽培習うて来る 日本鰻も台湾鰻も同じ顔 木の匂う土壁の家にあこがれる キッチンに胴体着陸しています さくら咲いてますチリメンジャコ食べてます 木造平屋建から桜見に行かん 憲法のいろは並べて春五月 余命いくばく死にもの狂いで生きなけり 警察とオレオレ詐欺との知恵比べ 筆箋また飲もうだけ書いてあり 切を思い出にする桜かな 長岡京市 大阪市 大阪市 大阪市 谷 Ш 板 Ш P 端 田 東 葉 倫

子

義

子

損ばかりしてきたみたい几帳面 まっ白な時間に悩む二日酔

Vi

大阪市

井

丸

昌

紀

ダウン症瞳が愛を受けとめる ほんわかと萌える彬の百日紅列島の緑前線北にのび

バスツアー杖を頼りにルンルルン

近

藤

正

わかる人にわかればいいと過ごしてる

ソマリヤへやみくもに行く自衛艦 腹癒せにガザ虐げるイスラエル

大阪市 小 泉 ひさ乃

満開へそよ風待っているさくら

ときめいた話夫に言えません 自惚鏡わてと一緒に歳をとる

褒められた後にお金のいる話

発言に波紋広がる永田町

戦場で生死を分ける運不運 大阪市

出 本 峰

露助如きに降参せよという非情 同胞を護って兵の体当り 砲弾尽き砲兵大尉自決する 戦場の修羅場ヨーチン頼られる

川久保 子

大阪市

春嵐さって桜の芽がふくれ

身ぎれいに生きて行こうと髪染める

美人でなくていい長生きしたいから

限りある命だ今日も笑わねば

反省の形忘れる事にする

大阪市 松

足冷える齢のせいかと友と言う 爪切って少し気持が晴れました

菜の花に見とれてウォーク足とめる 小鳥たち何食べてるの堤防で 毎日のお医者通いで元気です

尾

美しい歩み真似たが直ぐもとに

コート脱ぎカバー出来ないやや肥満

原

田

貧乏神我家素通りしてほしい 欲無限神の戒め大不況

念願の就職決まりやっと春

柳右子

星占いいま暫くは冬景色

風下が好き野性では生きられず 小心と下心とのミニバトル 三世代鍋の景色が暖かい

下調べ効いて余裕の息をつく

義理人情絡まり我を見失う

大阪市

福

尚

末

吉

生きる道問うも己に訊けと母 わが飛行妻なる基地で整備され

可憐なり悩みを笑みで包む妻

衣食ともわが家の掟自己管理 大阪市

奥

村

Ŧī.

月

イケメンで無いが運には強い夫 減給で夫帰宅が早くなる

杖ついた夫を頼り生きている

この不況神も仏も知らぬ顔

薄給で炊事洗濯僕の役

大阪市

田

定

子

大阪市 神夏礎 子

どの顔の総理が出てもボロが出る 美智子妃の帽子だんだん小さくなり

達観の顔雛さまと比べてる

我慢して心の広い人にされ

したたかな鴉マンション睨んでる 大阪市

平

嶋

美智子

おちこむ日大きな夕日元気くれ 不都合なく暮れ行く今日をありがとう

満天の星に子供の頃思う

迷いから抜け出す道を捜さねば 百均店退屈しのぐ良い所

大阪市

伊

藤

博

吹雪く日も登校の列半ズボン 潮時と目配せをして立ち上がり

ごめんやで端切れ五箱をごみに出す しっぽ持ち焦がさぬようにめざし焼く

風邪なおる前触れなのか酒うまい

大阪市 榎 本 日の出

中流と言われた昔懐かしい 流れてる川が相手をしてくれた 金粉を浮かべて悩み飛ばしてる

舌もつれ上手な嘘が出てこない ストレスをほぐしてくれる本に会い

> 年毎に笑顔も癖も母に似る まん中で主役張ってる丸い鼻

言い訳をしながら今日も自己嫌悪 生きているなんだかんだと言いながら

ゴム風船泣く子の手から空へ逃げ 大阪市

中

村

叡

子

お松明火の粉を浴びて祈る加護

おくりびと荒れたこの世に清流を 一人居の電話不快なベルばかり

玄関に亡夫の靴とサンダルを 大好きな蛸焼の蛸歯が残し

古稀までは働くと言う友が居る 定年を迎えた妻と暮してる

半年毎検査しましょと医師が言う 政治家にお灸を据える日が近い

努力せず五福もとめて生きてます

大阪市

中

村

れんげ

これ内緒言ってみんなにふれている 人の機微わかることへのむずかしさ

発言のチャンス失い乾く喉 関白が定年料理腕を上げ 人気者言われる裏にある孤独

大阪市 熊 代 菜

月

-21

大阪市

江島谷

勝

弘

厭なこともう忘れよう丸い月 牛しゃぶに胡麻だれお酒よう進む このたれ目誰のせいやと孫が聞き ご利益が少しは欲しい寺の旅 鏡よ鏡老いにやさしくしておくれ 光合成できる植物ものすごい キャンプイン先ずは神社で祈る虎 ほどほどの程がわたしを悩ませる 瀬戸内の春を賑わすさくら鯛 生きる道亡夫の加護がほしくなり 目覚しに頼んでぐっすりと眠る 目くじらを立てた鏡の顔を見る 春日和陽気な風に若やいで 湯けむりの誘いにのって旅プラン たれ流す赤字を知事が止めに入り 信長さえ願掛け勝 メモ帖に齢を忘れたスケジュー ふる里の匂いがしてる豆ごはん 一人旅地図を片手に風まかせ 病のお陰でタバコやめました った桶狭間 大阪市 大阪市 ル 池 津 西 H 浦 村 JII F. 志華子 清 更 治 實 鶯の鳴く里山はきょうも晴れ 毎日を自分のために笑わねば 老いふたり今夜は造りで済ます食 途中下車気儘な旅に出て見たい 勝ち負けは言わず二人の仲温 競いあう相手も居ない日向ぼこ 子育ての旅の終着駅に居る ひな人形飾りながらの独り言 雪情報ふるさとの事母の事 社会との絆強めるボランティア ランランの初夏ときめいてすみれ色 パソコンのマウス世界のパスポート 妻の門叩いて家事の教え乞い 多少とも多めに持たす親ごころ セーターの胸ふっくらと娘が育ち 寝たきりの童女のひとみ春を待つ 丸い背に風もまあるく吹いてくれ 一病を大事に八十路年かぞえ ママの見栄だけでピアノの塾通い カーネーション母は巨岩のまま果てる 和泉市 和泉市 池田市 大阪市 栗 伏 横 西 見 岡 Ш 田 洛 雅 捷 子 酔 也 明

堺 市 大久保

胸張って歩けと影に諭される

アルバムに貼れぬ写真の遠い思慕

あきらめた心の底でもがいてる

足下のこんな近くに青い鳥

悔いのない汗のひと日へ手を合わ

す

市

荻

野

像

Ш

最高と思った時もある女房

妻だから理想求めて腹が立つ

妻出かけやっと自分を取り戻す

遊女ほど甘くおまへん妻の膝 カカ天下ぐらい許そう楽隠居

堺 市 Ш 本 *

銭

春の音遊びの虫が目を覚ます

誉められた力仕事も遠くなり 冷やかしてその気になって骨董市

様子が変猫の家族が増えてい ええ年で困った短気治らない る

堺 市 和 田

つづや

楽しみな讃岐で蕎麦を喰わされる 日に二度は血圧計にお目通

凡凡と妻の笑顔で足りる日々 縁側で閑中閑のたばこ吸う

物欲しく優先席の前で立つ

のん子

ネオンから赤提灯の定年後

堺

市

奥

時

雄

ジョギングに出かけたはずが千鳥足

ナンマイダ唱えながらもアワビ焼く ハゲ叩きお咎めのない三歳児

寄ると酒遺影の親父飲みたそう

堺

市

源

田

八千代

菜の花に白魚鰆春旨し

喘ぎつつ百段登る宮の坂

校庭に若葉が香る二重唱 大恐慌しんどい時代負うオバマ

不況風に煽られている鯉のぼ

h

堺

市

志

田

千

代

早い目に来て隅っこの席をとる 究極のエコ熊さんは穴ごもり

捨てんでと手編みセーター言うのです 本流でないがメダカもフナもいる

出不精に風の噂も通り抜け 條畷市

目立つよう黄色いリボンつけてある 拝むより見とれています仏さま 字画では天下も取れるいい名前 二杯目を飲むとそろそろ口すべる

赤い灯が紳士の尻尾つかんでる

修

吉

岡

吹田市 瀬 戸

形には見えぬ男尊女卑に燃え

名も知らぬ小鳥の軽さ美しい つややかな雑草春を歌います

雨風は手すりを黒く塗って去る 春眠の名残り私も起きにくい

吹田市 大 谷 篤

振りむけばだれも後についてこず 春が来てはかなきものに触れてみる

口紅をかえて弥生の風を聴く

楽しみがひとつあるから頑張れる ロゼワイン空けて可愛い魔女になる

吹田市 野 下 之 男

貴方まで口が軽いと叱られ る

もう五分許して欲しい夢の床 女子アナは何故か好きです野球場

水を得た魚も居るぞクラス会 吹田市

太

田

昭

待つ人は同じ顔する戎橋

席を蹴り啖呵を切った日を悔いず 職を終えおひまでしょうと使われる

皮下脂肪この不景気で食い潰す 底辺に慣れて奈落の底知らず ワンウェーの道を辿ってゆく意固地

子

鬼の首取って困った後始末 傍目にも損をしている一本気

目も耳も病んで気がつく大切さ

人並の暮し四季折り折りの花 出し抜けにジョーク転げる春うらら

政治家を叩けば埃りたんと出る 高槻市

宝くじ当った一万乾杯だ 仏像を盗んで拝む変な奴

出来もせぬ夢を抱いてあの世まで 日は西に身辺整理急がねば

母さんと豆を撒く日はもう来ない

少しずつ春の音する散歩道

主役にも憧れているかすみ草

思い出をつまみに友と飲んでいる

コタツから首だけ出して指図する

本 義

高槻市

杉

昭

木 下 子

要るものがあまりないのに物が増え 考えを切り替えて胸軽くなり もう少し勉強しろと天の声

ありがたい誘うてくれる友がいる

吹田市

春風に乗ってちょっぴり若返る

吹田市 須

磨 活

恵

倉

武

史

Z

高槻市 指 宿 千枝子

うとうとを起こされここは何処ですか うとうとの蚯蚓シャベルへにょろり跳ね うとうとの呪縛が解けて命萌 うとうとと夢と現のいま狭間 M

高槻市

左右田

泰

雄

花のある温い便座は個室です

何一つ気に病むことの無い気楽

早耳のうわさ雀が騒がしい

優しさとふれて素直な顔になる

安心という止り木に身をまかす

吹く風も春の音色をたなびかす

高槻市 安 田

忠

子

御神渡り氷の諏訪湖出遭いたい

入院は神がくれたと思っとく

絶好調過信しすぎた落し穴

狂言のやり取り粋な能舞台 書類整理結局場所を替えただけ

憎しみも呆けの二文字いと哀れ 気の荒い爺もやんわり孫の笑み 高槻市

執

行

稲

子

訓読みでオレオレ息子バレました 無愛想も許す気になる子沢山 フォークダンス若さが跳ねる手の温み

> 辞書繰って怪しい記憶確かめ る

高槻市

佐

甲

昭

言い足りぬままで別れた駅がある

トラブルをわきまえている車間距離

迷ってる内に格差に取り込まれ

ロボットに牛耳られてる世が見える

躊躇いに負けて迷いの道を行く

乾杯のひとことビール泡も消え 関槻市 極楽の近道さがし迷ってる 裏街道の信号いつも青らしい

逆らわず気ままに生きる老いの知恵 愛の鞭罪にならないほどで止め おふくろの味に出会った縄のれ

春一番おめでた続きとぶお金

子

金利より高い振り込み手数料

胃を切った友八十三乗り越えた 気晴らしに刺しただなんて許せるか 高槻市 井 上 照

古い友山村あとに娘を頼る

同居して親の権威がうすれい

<

スクープを焦ったペンがエラーする

一次会へ誘って友の胸ほぐす 高槻市

富 H

美

義

村 動 弘

峯

宮務め母が待ってる雪囲い	初蝶の舞う日待たれる夜長かな	介護師の着衣できめる職位かな	一本の梅紅白を染め分ける	薄氷を踏む心地よさ冬を読む	豊中市	セーターの編み目に母の息遣い	七光りの余熱が競う永田町	ビル風にセットの髪をいけずされ	相乗りで払うふりするしみったれ	花束の処分に困る出演者	豊中市	ふる里は不思議素直になる私	いかなご煮る春の香りを漂わせ	トレモロが春を奏でるマンドリン	春の音符奏でていますツクシンボ	三寒四温なくて一気に春が来る	豊中市	病院の梯子お陰で友が増え	やんちゃ知事向かう所に敵はなし	もうろうのあの顔世界馳けめぐり	問題を抱えた議員皆世襲	果てしなく騒ぎ絶えない永田町	高槻市
					坂						藤						松						生
					上						井						尾						田
					髙						則						美智代						義
					栄						彦						代						-
真心で叩けば開く胸のドア	迷ってる私を包む広い胸	不器用な指で貴方を掴めない	雑踏の中へストレス置いてくる	果てし無い興味が老いを若くする	富田林市 大 橋 鐘 造	息子にもたまには贈るチョコレート	脳トレのゲーム催眠剤になる	こだわったばかりに友に逃げられる	様々に変る雲みるふたり連れ	天国へゆくカーナビを探してる	富田林市中井アキ	花粉症黄砂粉まで重なって	春一番枯木に花を咲かすでしょう	慰めも愚痴も手紙で古き友	雨降れば春の息吹きが聞えそう	青春は耐えに耐えたよ戦時中	脚豊中市 山 門 夕 ミ	レバニラに慣れもの足りぬ嵯峨豆腐	春うらら遠くから友来る予感	ふる里をテレビに見つけ旅ごころ	失敗を包んだ母のオブラート	たらの芽をあっさり揚げて香る春	豊中市 水 野 黒 兎

温暖化豌豆の花真っ盛り	明日の命定かではない喜寿同士	飾らずに手ぶらで見舞い出来る仲	不況風起死回生の知恵しぼる	二十五年目よろこんで作句する	寝屋川市 富	やれば出来るよ仮免取れた孫	善悪を隠すつもりの無いマスク	神仏も金魚もおやすみのタイム	母の倍生きて恋しい母の膝	母さんが逝った勿体ない若さ	寝屋川市 平	稜線のふくらみを見る雨上り	先送りばかりしている春帽子	食べず嫌い旬の味にもそっぽ向く	少しずつ同志になってきたふたり	痛点にふれてきたのは言葉尻	寝屋川市 籠	無位無冠ふる里をなお恋しがり	率直な意見に吹き矢とんでくる	真っ白い日記にこころ覗かれる	寒つばき母のおもざし抱いて咲く	友許すのは敵許すより難しい	富田林市 片
					Ш						松						島						岡
				12	ルイ子						かすみ						恵						智恵子
夢のあるニュースばかりを期待する	松明の炎へ祈る二月堂	摩周湖の神秘な霧へ酔い痴れる	賽銭の行方神にも分からない	背広より父さん似合うナッパ服	羽曳野市	去年なら軽うく跳べた水溜り	お番茶ですませる友と刻忘れ	道連れといつかはぐれるちぎれ雲	恐いものみたさ覗いているカルテ	傷口を逆撫でにする他人の目	羽曳野市	愚問愚答にも莫大なる歳費	先が不安で給付金使えない	WBC私も俄か野球ファン	啓蟄やわたしもさっと布団出る	蕗はこべ春のマーチに乗ってくる	子 羽曳野市 徳	地上絵の秘密とことん追うロマン	野良猫は日溜りが好き子を舐める	サクラサクしばらく心ぽっかりと	躍り食い哀れ白魚のど辷る	お頭つきちりめんじゃこの二万匹	寝屋川市
					酒						吉						徳						森
					井						Ш						山						
					-						寿						みつこ						
					壺						美						ح						茜

人しぶり姉妹が集う梅見頃 不況でも明日に希望をつなぎたい 陳列のブランド品は買わず見る 手作りの孫のケーキはとろりとけ しゃぼん玉消えて余情を追いかける	東大阪市 焼き魚目線はなおも水の中 焼き魚目線はなおも水の中 焼き魚目線はなおも水の中 焼き魚目線はなおも水の中	羽曳野市ではいかんいかんと句作する世渡りへ作り笑いがうまくなる世渡りへ作り笑いがうまくなるを当のこと言わぬのも思いやりない。	間れとは怖い受精卵取違え 性入れ値にゼロひとつ足す骨董屋 は行金狙う商魂知恵較べ がはながった酔っ払い ではいではいる。 ではないる。 ではないる。 ではないる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではない。 ではないる。 ではないる。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではな。 ではない。 ではな。 ではなな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな	羽曳野市
	米	吉	安芸田	永
	田	村	田	田
	水	久 仁 雄	泰	章
	昇	雄	子	司
回復をなった。	家付きの ・ ではなっ ・ でいます。	休チウンの雪降なった。	思 喋 胸 少しず	
回復を約束するか爪の色ハイチーズ或る日入れ歯を写されるみれが一を迎える門灯つけに起きへルパーを迎える門灯つけに起き	東大阪市 久 米家付きの娘が守る鬼瓦 手ぶらでも提げて行きますこの笑顔 手ぶらでも提げて行きますこの笑顔 一目ぼれ萩のお湯呑二ツ買う	東大阪市 笠 井のの日いつもより早よ目が覚めるいち日が予定時間で治まらずいち日が予定時間で治まらずいち日が予定時間で治まらず	思い切り太陽吸いたくて手ぶら 吹りたい時はしゃべれる人が居る胸のほてり悟られまいと背を向ける胸のほてり悟られまいと背を向ける	東大阪市 北 村
約束するか爪の色 - ズ或る日入れ歯を写される - ズ或る日入れ歯を写される訪問歯科に救われる	魚 顔	阪市 言う	京市 るみ中	北

リフォームへ妻も変えたい倦怠期朝霧の立ちて旅路の金鱗湖南布岳の見え隠れして春の雲菜の花の咲くや由布院夫婦旅	大方市 一宮 山 久 では、 一次 では、	なカープン戦始まり町は活気づく お土産の雑穀米はモチモチと お土産の雑穀米はモチモチと おり取ける かんしょう かんしゅう かんしゅん かんしゃ かんしゅん かんしゃ かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	春の野に長閑さを足す牛の声をの野に長閑さを足す牛の声を吹吹に探り合う握手をがある。 おいんだ はい おいま おいま おいま おいま おいま おいま かんだ と で おいま かんだ と で おいま かんだ ない こう おいま かん	枚方市 海老池 洋
ビフテキも偶には欲しい老いの膳病む足も不思議に弾む旅の宿何となく老いも華やぐ春の風寒系図を眺めて余命考える	藤井寺市 若 松 雅 枝のである。 藤井寺市 若 松 雅 枝のである。 では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般である。 では、 一般では、 一般	を立しなんだか背中むずがゆい 株 わ こ を近しなんだか背中むずがゆい 株 わ こ を近しなんだか背中むずがゆい	大方市 寺 川 弘 一のでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	枚方市 安 達 忠 央

八十路きて哲学読めばなるほどに 穏やかな余生いつまで続くやら 情に竿円満だけで済まされず 守口市 井 上 桂 作

連休は何の日であれ家族寄る

祝日に国旗あげない国となり 指折ってもう一度歌たしかめる

箕面市 広 島 子

母卒寿八十八夜新茶飲む そわそわと心待ちする子の帰省 前倒し母の日祝う帰省の子 お茶好きは亡き父ゆずり先ず供え

八尾市 髙 杉 千 歩

調整に毎日歯医者一万歩 物価高ゴミが少なくなってきた 正直な写真ほんまに年寄りや

言い返す冗句テレビの知恵を借り

厚着して言い訳ばかり整骨院

八尾市

嫁ぐ娘へ父の一節祝い唄

節高の指は苦労の勲章だ

宮

﨑 シマ子

ひろし

冷凍庫おしくらまんじゅう特価 八尾市 笹 倉

陽光を採って老化に待ったかけ 説教の慈愛に満ちた和尚の目 年頃の胸ふくらます春の風

腰低く纏め上手な元米屋

今日よりも明日の暮らし気にかかる 本当は好きだけれどもお友達 大阪府

澤

田

和

重

同窓会みんな笑顔を連れてくる 戸籍にはうなぎの産地載ってない 各停に乗ってゆっくり見る桜

野バラ咲く里は私の小宇宙 沈丁花小さい庭に満つ匂い

友達から届くくぎ煮を待つ桜

村 風

淋しさをはぎとるようにリンゴむく

どっこいしょまでよう似てる老夫婦 むかしの糸たぐり寄せてるクラス会

大風呂敷広げ畳むの苦労する

したたかに生きて笑顔を使い分け

八尾市

生

嶋

ますみ

鍛えられた力士の肌は美しい 老い先に不安あるけどケセラセラ

庭に来る雀と話す日向ぼこ

パソコンが出来ぬと役を逃げておく

法事の座長老格になっていた

で支持	E	b S	ļļ ī	1	1	£
金			ウィーンへと出番待ってるパスポート			
'n			辛抱か愛か夫婦の道続く			
138			沈黙がいやで身の上話など			
昼這う			幸運なお方の影についていく			
px.			無人駅さくらが待っていてくれた			
大阪府 籾	Ш	隆盛	神戸市	木	村	
<i>'</i> &			シャッターが増えて散歩のコース変え	70.75		
く弾む			人並みに損をしました冬木立			
伝がつづく			じゃがいものように出ないか希望の芽	•		

リラックスして息ととのえる茶の時間 わがこころ未完のままの絵 レリーフのほとけの影と母の影 春の宵赤提灯に突きあたる 大阪府 野 田

栄

呼

嘆いても世は変らないうかれよう 孫が来るだけで明るくなる心

神戸市

Ш

田

さくら咲く春のマーチがよ

春眠に年金の海のたりかな

会者定離いつも心に母介護 うろ覚えパソコンマウス畳 春耕の畦が見事な幾何模様 水取りの炎が邪念消してく 路地裏を弾ませている給付

貧しさも微笑みあれば豊かです 久々の雛壇遠い日にかえる 元気だけあれば定年ない農家

Ш

神戸市

正直と言われ本音で喜べず

美 穂

節くれの十指が作る母の寿司 神戸市 Ш 光

久

蒔いた種稔らすまでの見張役 ありがとう嫁も孫にも礼を言う 新しい自分見つけの小旅行

プラチナの指輪が見ていた半世紀

非課税の三億円に当たらない 何となく豊かになれる年金日 躍り食いされてたまるか鋭い目 お仕着せもハイハイハイと聞く余裕 ひらめいた予感すぐさま料理する

知恵袋母さん持って逝ったきり 春の風黄砂と花粉連れてくる 空元気あとの疲れは隠しとく 謙虚さの陰に企み持っている 最高のもてなし愛といい笑顔

婦美子

川西市 米 原 雪 子

忙しく生きて晩年暇に耐え しみじみと白髪の増えた息子見る

何時からか年に妥協を許してる

さり気なく歩調合せて話聞く フォローする友の機転の有難さ

田 市 久保田 千

代

机との暮し始まる一年生

家中の夢も詰めこむランドセル 土壇場でやはり男の顔を見せ

文体の技でふくらむ私小説

雨予報にんまりしてる花粉症 日をしだれ桜に会いに行く

> 一田市 石 原 歳 子

見る人の笑顔を誘う一輪車

たんぽぽの綿毛の旅は風まかせ

淋しさが募る後期という通知 気がついた時を出発点とする

人類は兄弟テロもいるけれど

田

市

堀

正 和

あれもこれも呆けない事に母多忙 部品修理が効いて卒寿の春謳歌 水玉のハンカチ首に母おしゃれ

本ここがスタート白寿まで

小刻みに家事もこなしてひとり生き

西宮市

秋

元

7

る

スポーツが愛国心を呼び起し 妻の前少し控える大欠伸 いい句読みいいな良いなとくり返し

瞬を逆につまんだユーモア句

前向きに生きてよく飲みよく食べる 雨の午後じっくり落語聞いている ひと言で消える程度のわだかまり 性急も鈍臭いのもみんな友

> アラフォーの嫁入り荷物痺れ切れ 川柳誌届いて部屋に籠りきる

三田市

上

垣

キヨミ

母の日に元気をもらう玉手箱 修正が自動で出来るカメラ欲し

付きそいでやってもらった厄払い ハンサムを選んだ若き日の選挙 三田市

Ė

井

英

特命だとメモを片手にスーパーへ

あんた誰なんて聞けずのまま話す 音立てて炊事している低気圧

悪友がなぜか人生無二の友

アラセブンしっかり歩く葦である 西宮市

本

直

西宮市	
有	
也	
1	
ミア	

雑念を捨てようとしてまた拾う

雑巾は買うものと言う孫世代 雑然とした部屋に居る安堵感 雑穀を今や料理ももてはやす

寄る年に少し逆らう色を選る

Ш 本 義

子

バームクーヘンはじめのナイフ難しい 西宮市

多数決のなかのわたしが拗ねている ときどきは独りぽっちでいたい花

じゃが芋の芽に毒があるとは喜劇

薄化粧が身についてきた昨日今日 西宮市

牧 渕

富喜子

追い込まれ少しまともな受け応え

未練かな話し足りない交差点 風下の春の落葉の吹きだまり

希望という字に見えてくる芽の動き

亀 岡

哲

子

消えかかる眉をなぞって今朝の顔 西宮市

またお逢い出来るでしょうか雪の富士

孫曽孫大イベントとなる法事 たんぽぽとれんげ草かな姉妹 今年限りと呟く友と花の下

スーパーで知らんぷりする思いやり

老いぼれたと言うておれない遣り残し はた目には幸せ者とみられてる

放っといて好きにしてるの私流 しゃあしゃあと女性を褒める歳になり 八十路坂一歩一歩と踏みしめる

コンベアに乗って出てくる不満顔 西宮市

片

Ш

忠

責め立てるように茶碗の割れる音

投げた球身内に当たるサプライズ

取り敢えず乾杯だけは下戸もする 給付より希望がほしい麻生様

店じまい ゴム風船が客を呼び

鈍感力巧みに使う野師政治 叱ること出来ぬ認知の祖母達者 隣席のアロマが酔わすリサイタル

税金を勿体つけて銭を撒く

奈良市

米

田

恭

昌

反骨の熱い血たぎる彬の碑

絞ったらまだ出てきそう老い 0 知恵

情報過多まだ十代の耳年増 本物の貴婦人かもし出す気品 いつまでも妻従うと限らない

宮市

井 上 松

煙

36

姬路市

古

JII

奮

水

奈良市 天 正 千 梢

もう酒でごまかすような齢でなし 経験は積んでも芸はおいつかず 素人の強み手足ものびのびと ひと言がその人柄をにじみ出し

十年後ただの石だと気づき出し 奈良県

渡

辺

富

子

何となくふらりと降りて花吹雪

生きてますあれこれ消去くり返し 美しい昔へ連れていく映画

パーチャルの海で遊んでいるひとり

人生にどんでん返しある気配

生駒市 飛 永 ふりこ

香ばしいクロワッサンに並ぶ笑み 水仙に一徹な父ふと偲ぶ

餡パンをがぶり心の深呼吸 せめぎ合う火花かっかとエンドレス 妻よりも母になりきる肩の凝り

旅に出ますメモ一枚で居なくなる 橿原市

安

土

理

恵

ひと言の油断四方へ波立てる

ドビッシー聴いているのはにごり酒 ありふれた結末なにも残さない 夫ですか 昨日別れたところです

櫓の音だわたしの乗っていく舟だ

今しばし余熱で愛を煮ふくめる イメージはくるくる母の割烹着 給付金狂想曲が鳴り止まず

深刻なことは言わないかすみ草

裸木は枝のすべてを天に向け 人間が死に絶えたって海に水

橿原市

居

谷

帰ります冷たい靴をまた履い て

悲しみの極みで声の無表情 春や春モデルウォークにて街へ

ともすれば独り善がりになるピエロ

大和郡山市

坊

農

柳

弘

葉桜の誘いジョギング励まされ 逆らえぬ位置で腕組みしたまんま

手の込んだ言い訳石に蹴つまずく

面影は幼いままの拉致家族

和歌山

市

喜

H

准

核心を突いたか動き変わり出す 駆け抜ける駿馬も駄馬も同じ馬場

テンションを上げてるうちは元気です

理が先に立つから情は横を向く 春風にためらい傷が癒される

歌山市 武 本

碧

ひとことに心を開く鍵がある 青葉ゆらゆら解放感を身に浴びる 和歌山市 松 原 寿 子

滅入る日もあって尽くしている介護 常識を煮つめて答出て来ない

それぞれの秘話が便りのなかにある

給付金ボクにガンダム買ってよね 和歌山市

給付金で買えるくらいの春探す もらいますか踏み絵のように給付金 おばあさんが押し戴いた給付金

給付金ちょっぴり動く春の街

波立って手から零れてしまう海

和歌山市

和

子

ロールケーキの渦に呑まれてしまいそう 朗読へ目を潤ませてサユリスト

銀河系のやっかいものにならぬよう ほぼ病気勝手に指がメール打つ

寒風に耐えて花芽はもう息吹き 和歌山市

玉

置

当

代

ストライプに空夕焼けて街眠る 救急の手際の良さに救われる 羅針盤壊れて日本丸迷う

朝は主婦午後文芸に切り替える

木 本 朱 夏

熊野灘心ひろびろさせる旅 君の声待っていましたさくら咲く 心根は感謝を贈るおくりびと

残生を気楽に過ごす予定表

身の丈の暮し気楽になった古希

閉じこめた怒り血圧計に出る 歌山市

人により効果ちがうと但し書

夫に似たメタボな根っ切り虫ゴ 春うらら熊の縫いぐるみも洗う U 1]

高齢の日だまり接骨院の椅子

南市

堂

上

泰

女

花びらを浴びてる孫の髪を梳 戻り寒花はびくともしていない <

飲んでるなテンポがハイになってい 七十五の友が弾いてる早春賦

る

高速路昨日倉敷今日福井

歌山市 田 中 2

ね

問答無用私見を通すから凄い お偉ら方と別れ て弾む喫茶店

全没で平気なわけは無いだろう

嫁いびりに燃えたかつての姑も老う またトイレこれで何回夜が白む

和歌山市 松 尾 和

香

畑 靖 子

堀

鳥取市 土 橋 は るお

愚痴聞いておほほおほほと笑っとく 新酒だとすすめられても迷惑だ

術後から酒にグッバイしちゃったよ 生きててもつまらないけど生きている

誰ひとり乗る人来ない停留所

見せしめに放置してある事故車 取市

本名で来る督促の公文書

武 田 帆

雀

鳥取市

言い訳を探して鼻を掻いている 寝床学問電気の紐を長うして 潔白な城から粗大ゴミが出る

岸 本 宏

章

いつからかトップが先に逃げている

にんげんのために咲いてる花はない ジョギングの犬は自転車連れている

土下座する姿を子には見せられぬ

支持率をころころ変える日本人

細身だがとてもみごとな食いっぷり 鳥取市

岸

本

子

不景気に市場で蟹もあくびする

開花予想聞けばこころが踊りだす 牡丹餅を食い損なった小沢さん 菜の花やせりで質素な春を食べ

冗談も本音もまぜて友見舞う 花の宴喋りお上手酔ってくる

好きなだけ食べてと言える齢になる 負けて勝つ笑い上戸の軽い舌

軽くても使い馴れてる春財布

鳥取市

岩

﨑

みさ江

サインかもしれない孫の丸坊主 子も孫も曽孫がいても尚淋し

ジャンケンに負けて嬉しい顔がある

太陽を恋うものの芽が天を指す スキップを試すだあれもいない道

そこそこの嘘とまことで世を渡る 未曾有の不況ドミノだおしの戦士たち

風見鶏翔び立つ子等の明日想う 惚け防止卒業のない米を研ぐ

祝日は小原庄助きめこむ父

鳥取市

中

村

金

祥

記念日が十指に余る共白髪 記念日に一本欲しい赤いバ ラ

金融危機みんなが損をする不思議 しがらみでスリムに出来ぬ天下り

竜宮に行って来たのか財務省

士. 橋

睦 子

39

子

鳥取市

奥

谷

下り坂勢いつけて白寿まで酒ちびりメロドラマ見る至福の日酒ちびりメロドラマ見る至福の日あの時の出合いがあって結ばれた	会がおけぬ友とおしゃべり毒流する お付金春の祝の足しにする お付金春の祝の足しにする はまの里に暮している至福 はいるではまた増える はいいの はいい はい	以前屋の無能長寿に追いつけず明日に向け先ずは己に勝つ努力明日に向け先ずは己に勝つ努力におい顔見せない人がおそろしいという事口には出せず石を蹴る	程蒔けば芽の出る不思議有難さ を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	鳥取市 植田 一京
指十本みんな役目を持っている迂回路を生きて人情もらってる野仏の家臣のようにつくし伸び明はわたしが喧嘩売っているのりと渡り始めたカズラ橋	表いの背にリユックサックは忘れ花をいの背にリユックサックは忘れ花を浴を入れるで暮します。 本望校親は国立子は私大 おりがったい かいかい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かい	老々の介護に孫が笑みくれる 鳥取市 宮 脇 道 子をかいてホッと一服ホタル族 正論を吐き寒風に晒される これを吐き寒風に晒される	島取市 永 原 昌 鼓呼したまだから至福とおもう旅の宿平凡な喜び家族みな元気で見るがある。 ではたから至福とおもう旅の宿では、 では、から至福とおもう旅の宿では、 では、から至福とおもう旅の宿	鳥取市 吉 田 弘 子

ハッタリも見栄も男の必需品言うべきか言わざるべきか下着見え運を天まかせ相手のミス願うリハビリを休む口実ああ寒い	成人式今日から酒と末長く温暖化開花予報は狂いだす温暖化開花予報は狂いだす場所である。 真真 からか 紙吹雪舞う 喜寿祝い でからか 紙吹雪舞う 喜寿祝い おりょう しんじょう はいしょう はいじょう はいじょう はい はいじょう はいじょう はい はいじょう はい はいじょう はい はいじょう はい はい はいじょう はい	遺言に延命無駄と書いてある 鳥取市 山道言に延命無駄と書いてあるがく おりまでにも一度跳んで見たい夢逝くまでにも一度跳んで見たい夢	花粉症マスクも悲鳴あげだした年毎に緑が泣いていく地球無造作に野の花活けて友を呼び無造作に野の花活けて友を呼び無	鳥取市山
	藤	本	尾	宮
	茶	益	菜	愛
	人	子	美	恵
2 退 車 庭 志	V # + # +			
クラブ振る球と一緒に老い飛ばす渇水の池で溺れている蛙塵造り鳥の憩える木を植える庭造り鳥の憩える木を植える	光熱費へ夕にケチって医者へ行き 賞貰えば良くも悪くも重み増す 実字業界総理さまさまよく儲け 漢字業界総理さまさまよく儲け	着吉市 猪の初鳴き今年いい声だ ないが初心ばかりが多すぎる ないが初心ばかりが多すぎる ないですがある。 ないですがある。 ないですがある。 ないですがある。 ないですがある。 はいい声だがある。 はいい声だがある。 はいい声だがある。 はいい声だがある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいい声がある。 はいいる。 はいる。	まってゆく子らの幸せ祈りたい 転勤の行く先々で古里が増え 転勤の行く先々で古里が増え まってゆく子らの幸せ祈りたい	鳥取市 田
クラブ振る球と一緒に老い飛ばす個水の池で溺れている蛙に間の憩える木を植えるとり鳥の憩える木を植える	工熱費へ夕にケチって医者へ行き長賞えば良くも悪くも重み増す長字業界総理さまさまよく儲け次の次の次のであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	すがってする。	まってゆく子らの幸せ祈りたい 転勤の行く先々で古里が増え を命など愚痴を言うまい明日に生き かれんには訛りいっぱいはずんでる まってゆく子らの幸せ祈りたい しょう しょうしょう しょう	鳥取市 田 村
クラブ振る球と一緒に老い飛ばす個水の池で溺れている蛙に離おいたおしどり夫婦ですと造り鳥の憩える木を植える	意言市 野	すぎる 倉吉市 猪 川	帯るき池	田村
クラブ振る球と一緒に老い飛ばす個水の池で溺れている蛙に離おいたおしどり夫婦ですと造り鳥の憩える木を植える	育き す	すぎる 倉吉市 猪	帯るき池	田

階の上がお好きな神 長い坂人をきたえる場所だろう 坂下る時はゆっくり杖をつく まんさくの花を見ようとバスに乗る まっすぐに光を受ける寺の門 風上も寒いが風下も寒い 飲んで食って体に悪いものが好き 神力にすがる葛藤つづく日日 聞きとれぬ夫の返事に子守唄 黙もくと励んだ頃のえびす顔 儘ならぬ浮世の義理をもてあます 早春の紅い椿に笑みもらう 一本のみみずになって直腸診 人生の傷を比べる同期会 メリハリをつけて朝夕経を読む 宿帳へ別姓夫婦怪しまれ 湖のような宿の湯平泳ぎ 三世代和んで暮らすのが誇り 途方無く広がる世界大不況 米子市 倉吉市 倉吉市 青 牧 Ш Ł. 戸 野 中 田 芳 康 和 鶴 光 子 枝 泣きながら女はオカズ考える 花たちよ米寿の祝ありがとう じっくりと見ても読めない書道展 ときどきは泣かんとドライアイになる 身の程を知ってる無駄のない暮し 政治家の手口愛想つき果てた 給付金受けるどなたも布袋顔 花の恵みに人も仏も癒される アカデミー賞の快挙二つのオスカー像 八十路坂まだまだ学ぶ事がある 乾燥機にたよっています洗いもの 少しずつ整理をしよう身のまわり 若ぶりと言われスリムな腰さばき 宇宙士に選ばれゴミも消されたし 今が花だと思いつつ過している ここからの望み元気でくらす事 蝶が舞う花もチャンスと咲きだした 雛壇を日の目に晒す嫁きし娘の スカーフを替えると春の蝶になる 鳥取県 米子市 米子市 光 石 野 白 谷 井 坂 根

利尻・礼文花に誘われ旅衣

じっくりと見て下さるなアラがでる

4

玲

4

鳥取県山本正光	鳥の
る人で仲もよい	秘書のした事は私は知りません
合らし気楽な侘び住まい	老人会一年生になりました
めりそう足が前へ出る	断水に停電ロケットとぶ世だに
っすよろこび持っている	柳友は腹の立たない人ばかり

身の丈で暮ら いいことがあ それなりの暮 何となく頼れ

先ずは目でじっくり舌で味わおう ちょっと待て壁も障子もある部屋だ スリムなどとうてい無理と食べ歩く 黙秘権取り調べ室てこずらす プロポーズ一度もされたことがない アングルを変えると無駄が見えてくる Ш 下 節 子 折れぬよう骨も鍛えるウォーキング 体操をするとぼきぼき骨が鳴る 卆寿すぎ元気な母が不思議です 老化にはつける薬がないという 春日和剪定くずを焼いている 鳥取県 竹

信

照

彦

田 裕 花 花が咲く野菜は冬に耐えていた 松江市 小 III

細

世界地図で出身地見る大相撲 やっぱりなずぼらな彼にずぼら嫁 女房に酒は二合と決められる

悩みなど捨てて感謝の日記 のびのびと敷地を越える梅の枝 松江市

島

松

丘

解散風握って総理天を読む

あれそれと二人芝居の幕が開き 結んで開いて仲直りの握手 ロスタイム大逆転へひた走る 雲行きが怪しい黙秘しておこう 割れ目から物になりそう濃い緑

郑県

盛

田

夢

路

ひと時の慰めだった旅プラン 朗らかな妻の隠さぬ鼻の穴 清濁を呑んで個性を見失う 春炬燵日増しに錆びる老いの膝

いただいた命百まで戻すまい 幸せと思う心が福を呼び 娘が帰る点になるまで見届ける 肩書きはないが家事万端の主婦 赤い糸ゆうるくなっていて夫婦

> 取県 北 村

> > 稔

注

湖

松江市 津 Ш 紫 晃

ときどきは花の意見も問うてみる 4 Bの太さで人間を描こう

正論を言えないままで今日も暮れ

ああ寒い隣に狙撃兵がいる ストライクばかりじゃ世間渡れない

松江市 安 食 友 子

ほろ酔いが公の場を忘れんぽ 人に言うほど自分にも厳しい か ル

歯の治療例のあんぐり顎泣かせ カレンダー一緒に見ているメモワー

黙りを続ける友へカンフルを

春へ発つ若い翼を信じよう

松江市

松

本

知恵子

共稼ぎ強くなってる母の背な 自分流マンネリ抜けるリズムとる

ヒトだけが恐がっている杉花粉

ママ嘆く産科少ない国事情

出 雲市

石

倉

芙佐子

雨が降る乾いた心濡らすよう

路白くあの北山がよう見える 取壊し決った家の独り言

甘えですとヘルパーさんに叱られる 杯のコーヒ頂く美容院

> 春ですね会釈を交わす笑い声 山芋が食膳満たす春の色 今を生きしかと大地を踏む暮らし

出雲市

小白金

房

子

大物の偽りニュース暗くする

マニキュアも指輪も無しで来た八十路 出雲市

富

田

蘭

水

孝行の意味を辞典でもう一度 活けた花話しかけてる君のこと

色ばなしブレーキ効かぬ風まかせ 芯に住む鬼と生涯共に生き 考えを変えてすっきり深呼吸

もしかして連絡の無い子を案じ 物忘れ笑いに替えて共白髪

コーヒーがまずい体調今一つ 張り替えた障子のしわと比べて見

春なのに気分は冴えぬ花粉症

さりげなく尖った話捏ねなおす 群雀選挙ばなしで日が暮れる

なれあいに感謝の心霞んでる 口はさみ財布はたいたお人好し

生かされて今年も花に会えそうだ

三二十

伊 藤 玲 子

出

出雲市

多久和

出雲市 岸 桂 子

アリバイは全部暦に書いてある

CMは目を休めるという時間 雑草の強さは人を頼らない

機上から歩けばあるけそうな雲

ああすれば良かった知恵が後で出る

大切な物がころころ転び出る

雲南市

毛 利

幸

美

噂して他人の表裏嗅いでいる

加齢して時の刻みが速くなる 過去の罪足跡消して生きている 無事祈り後姿を目で送る

寿

藤

島根県 伊

泣きたい時泣かしてくれた海だった

片付けの楽なメニューにする独居 築百年なお藁屋根が温かい

白髪には赤が似合うと試着室

飛び出した子に門灯を点けておく

予期しない友の訃報におののきぬ 島根県

持

H

多輝子

過ぎし日の友とすごした長楽園 母の日の心ずくしの胡蝶蘭

いたわりの一言うれし老いの坂

透析の時間にじっと眼をこらす

猟師より犬弾んでる解禁日

撰

子

ペンペン草七日は主役なづな粥

老々介護私が先に逝きそうだ 腹八分誰が言ったかお茶を飲む

リハビリの箸を笑って逃げる豆

ハミングで吹き抜けた風詩になる

美作市

大石

あすなろ

自画自讃うしろ姿はまだ若い 行間の老母の苦言に縛られる

身の丈をいつも心に背伸びせず

明日へとつづく小舟の舵を取る 変体仮名の亡母の癖字を胸底に 美作市

Ш

本

玉

恵

ドミノ倒しで夢の一つが風と舞う 行き違いも有ろう人生長い旅

行間に滲むほむらの濃くうすく 孤独とや風は右から左から

頑固だが苦みのきいた父だった

振り返り足跡つなぐ長い道 思い切り涙流して嘘はない

不器用に歌う男の喉自慢 ど根性の花開くとこ都市砂漠

福 原 悦

子

美作市

真庭市 福 嶋 智恵子

老いてなお一会の風と今日の縁 啓蟄に手足伸ばして助走する

敗戦の自縛とけない昭和人

それなりに脳トレ励む喜寿の坂 コマーシャルほど治らないひざ薬

希望に胸ふくらませ発つ春の駅 真庭市

玉 米 きくゑ

明日の活力ジョッキ一杯生ビー の昭和を生きた自負がある ル

何時までも若く無いよと愚痴る脚 過疎の空 元気を配る鯉のぼり

竹原市 岩 本 笑 子

強く咲く椿よ春よ足音よ 花粉症黄砂マスクがさまになり

月仰ぐ宇宙人ならきっといる 宝くじ千円分の夢を見る 五六種の薬を飲んでガンは友

同 人名簿発行 0) お 知 らせ

さい。尚個人情報なので、ご本人からのお申出に限り改 変更のある方は、 訂致します。 七月一日に川柳塔社同人名簿を改訂発行致します。 五月末日までに本社事務所へご連絡下

友 部

> コー 精一杯咲くから花は美しい ヒー一杯だけでは話終らない

点滴のポツンポツンを週 自画像へ皺足してゆく誕生 度 日

目分量私は私なりの味

宇部

市

平

田

実

男

ネクタイが首と心を締めつける 心ではスキップしてる試歩の足

本当のライバル傷口には触れぬ

背比べするドングリの目が必死 末席の意見みんなに振り向かれ

ストレスが溜まりコーヒー でも飲むか 美祢市 安平次

凡人になれば気にせぬ副作用 諭吉さんそんなに急ぎどこへ行く 毒少し入れてあるから生きられる

多情かも知れぬ封書に笑われる

時

6月1日(月)17時開場

18時締切(席題なし)

八〇三

サンケイホールブリーゼ八階

第112回 大阪川柳の会 슾

選宿 題と

△零 千円 欠席投句5月30日まで 〒32-00 大阪市淀川区新北野 △それから・三宅 ・小山 保州△当 紀乃△遠 い・板野 1-3-4-然・礒野いさむ

本田智彦

竹原市 時 広 路

- 46

弘

道

川柳塔の 川柳讃歌

木津川

計

明日嫁ぐ娘よ風になろ雲になろ

だから笑子さんは反逆したのだ。女もまた風 とって都合はいいが、古い、あまりに古い。 愛い女房と言われてほしい」に尽きた。昭和 59年の「娘よ」で雁之助はそう歌った。男に を説かなかった国である。嫁ぐ娘への贈る言 か。ついに「ガールズ・ビー・アンビシャス したのだ。誰が娘にそんな期待を寄せたこと 見た。事変の機会に乗じ世に出て活躍せんと 葉は大方「嫁に行ったらわがまま言わず/可 かつて少年は風雲の志を抱き、風雲児を夢

になろう雲になろう。世の中が変わる。 子を産んだ力が芯にまだ残る

ら頭の上がる筈がない。恐れ入るにはもう一 概して女は道徳だが、男はすべて不道徳だか つ理由があった。「女は弱く母は強し」の母 男が女に恐れ入る訳は、と以前にも述べた。

> も芯に残った力で断崖をよじ登っている。 も弱い。女に風雲児が生まれても当り前だ。 の9%が男であることを思えば、男は弱く父 は子を産んだ力を蓄えていたのだ。ルンペン 石の谷を根城にする美恵子さんである。今日

予定にはなかった独り行く荒野 岩崎みざ江

あなたの句業を見守る僕もいる。 でも案じることはない。川柳塔の句友がいる。 妻が六、七歳上でなければならない。 とを実は計算していたのだ。あとに残した老 は結婚の時点で、最期まで妻に看取られるこ は婆さんより一○年ほど早く逝く計算だ。男 て三、四歳男が年上で結婚となると、爺さん 妻の面倒など知るものか。本当の男女平等は だからみさ江さんは荒野に取り残された。 男の平均寿命は79歳、女は86歳。それでい

怒らねば腹の虫にもバカにされ

間も激怒すると毛が逆立つ。中国の故事で、 のち日本でさらにすさまじく一怒髪天を衝く ある武将の激怒を「怒髪冠を衝く」と言い 年の歌詞である。天を衝く勢いであった。人 の寮歌「嗚呼玉杯に花うけて」、明治三十五 起たば何事か人生の偉業成らざらん」。一高 のあらば斬りて捨つるに何かある」「一たび 昔の学徒は勇ましかった。「行途を拒むも

生命線のつづきをギュッと押してみる

江見見清

だから、一壺さんをも反省させる。

と言い変えた。今日日の男は去勢されて柔弱

だ。この上は見清さんのご長寿を祈ろう。 びたからびっくりした、うれしかった、とい 先端が鮮明に見えて、余命わずかを察したの 先をギューッと押したのだが、消えたか細 うふうに延びたらよろしい。で僕も生命線の づきをギューッと押したら、ええーっ?、延 すっと線が消えているから不安になった。も だけという人がいる。見清さんはそうでなく っと生きたいーっ、と願えばこそ生命線のつ 何の取り柄もなく、褒められるのは生命線

うきうきを見つけながらの生きるコツ

がらうきうきわくわく生きていきますわ、と れは男のすることで、女のわたしは楽しみな 知恵子さんは軽快である。 生命線をギューッと押すのもよかろう。そ

観的でなく楽観的にと知恵子さんも教える。 した現世ととらえたのだ。気は持ちよう、悲 気分を吹っとばし、憂き世を浮世、浮き浮き 楽的で、生きてる内が花ではないかと、厭世 き世だと仏教は説いた。が、元禄の町人は享 苦悩に満ちた人間界、それが娑婆であり憂

(『上方芸能』 誌発行人

それにしても断りもなくデジタル化 それにしても戻って来ない救急車

立

春のぬくもりもらう黄水仙

退院すればすぐのみ過ぎる酒

の量

 \equiv

宅 保

州

それにしてもどうもどうもが分からない

妻の留守少し

それにしても何かが起こるロスタイム それにしても待合室が賑やかだ

笛 生

宮

自惚れのネオンの街をほろ酔い 姦しい女は男忘れがち コップ酒屋台の提灯招いてる 大臣の名前覚える暇もなし 酒のコップの酒は澄んでいる

0

十田田

庵

観劇の母のお下り手書き染め 賽銭は百円手頃決めてある 非行の子へ母は素直の目を信じ 五線譜に悲しい音がひそんでる 気ままが過ぎないか

Ш

洋

両

ある意味で邪魔な後期高齢者 老け込んだらあかん笑いの句をつくる ぬるま湯で半分呆けて来た卒寿 へらず口長々仲間から外れ 嫌悪だんだん世間狭くなる

約

東は

L ない

が春が手に届

宮

西

弥

生

年金カット明るい老後信じれん

神様もウツ病らしい不景気よ

阿

萬

萬

的

自爆テロ

青

い地球に似合わない

九条が仮死状態のままで春

人生の関所やっぱり金が要り

達

一者でも無いが生きたい思うてる

免許証取った車も買った孫 梅の花見つけた満開喜ば

爛漫の花は遠くで見るがよい ふり出しにもいちど戻ろ女の季 それからの話長くて茶を替える 引きかえの言葉ご自愛だけ祈る

森

春や春 近道も迷路も知っている絆 散策の途中でふっと雲に乗る 失敗を明日の糧に活かす知恵 受けた恩忘れず感謝人の道 男なら小言を言わず舌を出す 道草の途中発酵してしまう しゃっくりがまだ止まらない舞台裏 ゆっくりと沈む言葉を持たぬ骨 謎を解く鍵を握って持つゆとり 頼みごと機嫌が悪く言いそびれ 持ち味を引き出し活かすのも器量 長寿よし思わぬことに巡り合う 人の世やプラスマイナス相半ば 何げない日々ありがたし今日も晴 愁いなど断ち切り春の風になる あ 人妻を騙さぬ軽い風は罪 不器用な指で紙撚と恋をする どこまでも歩いて白い風に逢う のひとがくれた愛から小火となる 魂空に解き放 n JII 奥 板 河 上 井 尾 田 大 庸 みつ子 岳 佑 亡母の植えた皐月今年も競 若い芽を伸ばしてあげよなあ鋏 土好きの葱の白さを信じ切る 百の絵馬百のドラマ生むだろう 赤ピーマン鮮明に自己主張する 森へ来てときどき棘を抜いてい デフォルメはしないつもりで選挙待つ 砂丘から見おろす海へ生気知る 隣より屋根高くしたリフォームで もう五月いのちいとしくなるばかり 五年後の私よ富士は晴れている 孫連れて僕のカレーを食べに来た 昔風呂屋だった話ニコニコ聞いてい 情熱がポキッと折れはし 酒タバコ呑んで白寿の夢を追う 東天にピカッと光る星一つ 来る年に備えて植える早場米(コシヒカリ) いつも怒っている一票を持ってい 菖蒲湯に 日本男児泳ぐ春 一時憩う初夏の宵 しませ

ස්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක් වියද්මක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්රේමක්ට්

- 49

る 小

西

咲く

る

劦

L

か

る

小

島

木

村

あきら

歳 良 最後まで微笑絶やせぬフルコース ときめきを四ッに区切るのも自衛 冷めた目で見ると犬までそっぽ向 春うらら樹木も急に騒がしい 給付金あの手この手の旅プラン 出発の朝だ自然と手を合わせ 介護した母の思い出だけよぎる のんびりと外を眺めているゆとり 縁というものつくづくと橋の上 1 給付金飲み屋のママが待っている 冷えた首ようやく春に辿り着く 坊さまの名前はみんな賢そう 子と孫が金婚祝いしてくれ 毎日が日曜みたいな定年者 大阪に土着 しとやかな人に出逢った曲がり角 ١ いとこ止 月がお尻の肉を削いで行く い日本出来る予感の流 口とかポニョになろうよ僕たちも めろと桜島噴火 しました鶴彬 れ る < 津 新 塩 恒 満 松 守 家 柳 完 加 伸 紅 司 敏 それ 心臟 珈琲 涙腺 来れ 災いの口が黙っていられない 長生きは苦手薬をのみながら 古くなった柿の木に接ぎ木する 花は満開 戦争に負けた記念のさくら咲く 椅子深くかけると時間すぐに経 その時はその時明日はきっ 正直も方便甘くない世間 嫌 水に合うお茶 Vi の味にも天地人がある 0 から苦手へ ば良い悪筆は来ず書道塾 の強さはきっとママゆずり 0

弱

い男に杉花粉

詠み出 ぱっと出の誕生などであるまい 本能をくすぐってみる人情史 老境という寒さゆえ病み易 ぞれ が 1 に春を謳 あ る生涯を本棚に 0 ているのだが K

中

原

土:

鯛焼きがよく売れる

橋

螢

遠 Ш

夢は

内緒

0 お賽銭

のうまさにある余生

ग

住

芽

都

倉

求

少し努力する

٤ 晴

0 n

チェンジするつもりゴッホの黄色着る 女冥利春には春の服を買う 帯に短し帯に短し給付金 せめて背を伸ばして食べるひとり鍋 疲れたら魁夷の森で眠りたし

貸し借りはなくて行きたい向う岸 そのために字を習ったのか借用書

味噌醤油貸した美談はミイラです 立て替えの利子は複利のときがある 国債の名前と判はダレですか

瑞

林

四 郎

部

先生のくしゃみチョークの粉を散らし

本

田

恵

朗

純毛のシャツにも穴のあくものぞ

保護者会よくもこの親子に似たる

甘い母なれど時には父を兼ね 派手なことないよと妻へ世辞を云い

泊へ妻訊問の顔になり

枝

散髪の鏡へ雪が降って止み

ひっそりと蜆生きてる音をたて

胡瓜きざむにも楽しさとわびしさと

松

JII

杜

的

陽だまりを感じる友と花を愛で

虹を追うプラン不思議な旅の縁

花粉黄砂ありがたくない

風物詩

大阪城梅桃桜万歩計

顔色をみる妻は医者より確かなり

古木ほど桜花つけ美しい 小女子を届けてくれる義姉が

V る 前

たもつ

世を拗ねた子の背にやさし蜻蛉舞う 祈る娘の掌からひらりと千羽鶴

巨樹仰ぐおんなの背には詩がある

西

出

楽

新

逸 見

灯

竿

合同句集「私達」

茶柱へ還らぬ友をふと思う

応召と聞いて床屋もあらたまり 肩書きがつくづくほしい四十過ぎ

昭和三二年発行

選者麻生路郎

正

本

水



小 島 蘭 幸 選

藤井寺市 增 井 ヨシ枝

川柳が支えてくれた闘病記

アルバムに過去がやさしく咲いている 身の上を互いにかばいあう枯れ葉

道草にも発見があるランドセル

階段の手摺りに妥協してしまう 大阪市

誤字脱字仲よく遊ぶ老母が来る

おくりびと義母を送った日を想う 春の陽にひび割れた手よありがとう

おくりびと漫画になれば買いに行く 猫逝って手持無沙汰の日向ぼこ

紀の川市

宇

野 幹

子

独りでも生きられる術御存知か たった一人を想う心がままならぬ

憎いほど好きなあなたを待つほくろ

とてもクールに雨は私をたしなめる 欲張りでいたい恋にも仕事にも

札幌市

小

沢

淳

前略の友の安否が気になる日

私も吊して渋を抜きたいな

春帽子軽いうわさもからみつく 酒とろり恋もとろりと夢の中 篠笛の調べは母に辿りつく 残照へゆっくりと脱ぐ鬼の面 たたかいの大蓋きられた癌告知 箍一つ外せばもろい男の背

人並のくらし小さな灯を守る

井 菜 摘

和歌山市

福

鈍行の旅で人間とり戻す 恙ない暮らしに大志置き忘れ

おまけだと思えば余生気が軽い 融通の効かぬ定規で疎まれ る

ロダン像こんな姿で日が暮れる 鯨飲馬食メタボリックに捕まった

> 崎 D め

尾

52

飛び切りの笑顔先制かけてくる不況でもまだそれなりの絵がかけるマンネリの脳ヘレモンの丸齧り	税りゆく中でくるくる風車でとばそ繁昌亭で、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	まだほどの恋は恋とは呼ばせないと話のリズム真っ赤な服で寝る生活のリズム真っ赤な服で寝るとは呼ばせない。 また おいま かっ とり はい	I江市相 見 柳	美作市 小 林 妻 子
髪切ってスキップしてるちょっと春給付金ありがとうとは言えぬ春	内定の自宅寺機も主きる道神戸市 早 川 孝 子内定の自宅寺機も主きる道神戸市 早 川 孝 子大田野めたげる小一の孫が来る神戸市 早 川 孝 子大田野の根のしぶとさを見倣わん神戸市 早 川 孝 子大田野の根のしぶとさを見倣わん神戸市 早 川 孝 子大田野の自宅寺機も主きる道神戸市 早 川 孝 子大田野の自宅寺機も主きる道神戸市 早 川 孝 子大田野の日宅寺機も主きる道神戸市 早 川 孝 子大田野の日宅寺場の上の田野の日舎寺の田野の日舎寺場の上の田野の日舎寺の日舎寺場の上の田野の日舎寺の上の田野の日舎寺の上の田野の日舎寺の上の田野の日舎寺の日舎寺の上の田野の日舎寺の日舎寺の日舎寺の日舎寺の日舎寺の日舎寺の日舎寺の日舎寺の日舎寺の日舎寺	原調と他人様は言う反抗期 (特別では、) では、) では、) では、) では、) では、) では、) では、)	土 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	竹原市 國 實 力

羽繕するが足腰ままならず出来すぎた仮面をはがす向い風無一物となればおのずと肚すわり無一物となればおのずと肚すわり無がしたがあるが、	に を で を が が に が に が に が に が に が に が に が に が に が れ が に が れ が に が れ が れ が に が れ が に が れ が に が に が に が に が に が に が に が に が に が に が に が に の が に の が に の に に に の に に に に に に に に に に に に に	君の名をノート一杯恋はじめ エステして一瞬だけど孫の肌 エステして一瞬だけど孫の肌 WBC気合を入れてみるテレビ	着飾って少し疲れた熱帯魚着飾って少し疲れた熱帯魚指手した数だけ地球丸くなる握手した数だけ地球丸くなる	神戸市 山
	津	出	Ш	崎
	正	h	宣	武
	治	2	子	彦
任せるよなんて今さら言われても、、るさとは住み慣れた今ここが良いふるさとは住み慣れた今ここが良いを別さの変わらぬうちに席を決め、	堺 <i>れ ず</i> 市	千代紙のデイサービスになじめない 子代紙のデイサービスになじめない ないけれど さいかけれど ない はないけれど から はいか	お互いに五十点だと思う夫婦ですお互いに五十点だと思う夫婦ですがン層で遊んでもらう寺の鳩	豊中市 谷
	羽田			
	野	巻	田	川
	洋		啓	勇
	介	夢	生	治

堺 市 大 隅 克

博

二で割った額しか出さぬ年金日 真実は一つと知って怖くなる

いま父に素直に言えるありがとう

思い出の一つ二つは消してある

同化した二人無言で茶を啜る

わびさびの国へ黄砂は容赦なく 井寺市 津 \mathbb{H}

シルク

ホワイトデー孫は小銭を数えてる 強面を花粉はぐちゃぐちゃにしはる

隙間出来た脳に川柳つめておく 五七五睡魔が襲う春ウララ

吹田市 早 泉

早 人

おぼろげな記憶と正確なビデオ

たまに飲む薬の効き目よく分かる 無記名で背伸びしているアンケート

前向きに生きるこころを飼っている

ケイタイに秘めごとひとつ閉じ込める 八尾市

松 葉 君 江

お笑いで眠る血糖値を下げる 殻破り脳細胞を入れかえる 前向きに生きて心に灯をつける 人並に我が家も女性上位です

暗算で錆びてる脳のストレッチ

お隣も主がゴミを提げてくる

微笑んで柔な男の骨を抜く 角たてぬように時どき惚けてやる

草むしり子機もお庭へ連れて出る 飲み仲間ですが一線引いておく

母の味くぎ煮が届く春が好き 羽曳野市

宇都宮

ちづる

不況風呑み込み泳ぐこいのぼり 妻が逝き家中探し物ばかり

こんな字も忘れて辞書がお友達 還暦で源氏を読んだ友がいる

むつかしい顔は春には似合わない カタカナの辞書から脳が始動する 紀の川市

遠い目で海の広さを懐かしむ 足りないと何時も思っている若さ 頂いているさんさんと日の光

紀の川市

北

Ш

絹

子

故郷を語れば風が丸く吹く はいはいと答えてくれる妻でなし ひとり住む友は自由に絵を描く 本の竹の中から出た民話

ヒヤシンス私の好きな色で咲く

高槻市 かずお

片 Ш

- 55

辻

内

次

根

田辺市 大 峠 可 動

曖昧な答 ときどき裏返り

真昼日になんべん落とす独りごと 潮満ちて干して仮説ばかり練る

悲喜交々爪の垢でも残そうか

ふるさとははるかな彼方だんだん語

歌山市

+

屋

起世子

口数の少ない子からメール来る

冗談が青いリンゴに通じない

まだ恋をしそうな予感ダイエット 言い負けて寝床で言葉溢れだす

話題などないが夫婦で生きてよし 奈良市 辻内 げんえい

総選挙未来を変える処方箋

分からぬが周りに合わせ笑っとく 笑い声絶えることない大家族

癖知って妻が先手を打ってくる お屋敷からピアノ音洩れる散歩道

しくじった日には運勢欄に聞く 1 めず走り通して今日がある ボンを嘗めて深夜のジョンウェイン

ケータイも時計も持たず小さい旅

曲折の路を辿った亀

の足

岐阜市

平

野

あずま

亡き母の友と電話の温い夜 雪月花酒の肴に事欠かぬ 日本茶とご飯相手を選ばない

教科書で本当の事を教えたい 不況時に消費激励されてもね

好き嫌い無いから元気みな旨い 健康という宝あり九十八

草加市

飯土井

健

翁

演壇に立てば闘志に燃える老い

明治維新あの人材はもう出ない 政治家と言える議員の無い日本

白粉を塗れば鬼でも恐くない タイミング合わせ仲裁買って出る

平服と言われかえって迷い出す

歌舞伎座へ妻の着物の供をする 見たこともない紋付を着た遺影

札幌市

Ξ 浦

強

友情が同じ話を聞いている ところでと本題までの長話 春を呼ぶ花屋に花の種袋 の便座で一句物にする 派遣村から蓆旗

> 巌 H かず枝

56

忠

昭 島市

シドニ
1
一谷
たん吉

貴様らに呼ばれたくない国民と 政治屋の定めどれかがばれるまで

壊れてる国の選挙でなに選ぶ 期待する党もなければ人もなし

ポチにだけなんでも話す我が家族 メルボルン

藤

原

ポン吉

都合良く犬の話題で和を保つ

叱ってもポチのシッポに煙巻かれ 思春期に子犬の力頼る父

同じ癖テレビ見ながらする親子

どん底でチャンス掴んで富の山

感覚のずれが普通と言う八十路 裏表ない友がいて至福なり

> 唐津市 吉 富

節

子

村

唐津市

北

風

松

昨日飲む友の訃報に唖然とす 立春の声で八十路の背筋伸ぶ

妻の留守蛸焼パックで済ます昼

度は見たい砂被り

實

唐津市

岩

临

銃をとる野戦の私忘れたい 爪を切る時代おくれを聞きながら

福

岡県

林

給付金口ひん曲げて説く総理

おしゃべりの相棒欲しい高齢者

春の音我も草木も目ざめたり

山鹿市

呵

部

ミツ子

商いも春の芽ぶきにあやかりたや 竹明かり闇の世界にさそわれて 花の群われが先にと咲きほこる

あの時がラストチャンスと後で知る マフラーの編み上がる頃終る恋

高知市

松

尾

憲

子

残された時間を食べるように生き つだって君の視界の隅に居る

大政奉還ほどの決意で免許証

香南市

桑

名 孝

雄

ご拝眉の眉くろぐろと描いてある 御用達の飲み屋二軒が店仕舞 中の下で満足文句など言わぬ Vi

卒寿までのばしてみるか余命表

風まかせどうせ人生一度切り 福耳を手綱に孫の肩車

給付金夫婦でくぐる縄のれん

麻生さん人間らしいとつつみこみ 材料はあれど気分が乗ってこず 白椿軸取り替えて背を正す うぐいすの初音にはっとペダル止め

香南市

近

森

功

57

街おこしイベント派手に品が切れ恙なく今日も暮れます明日の雲給付金つかう予約は花見酒寒もどり小雪さらさら桃節句	府	千の風歳の順には吹かなくて	孫の靴大きくなって笑み交わす	三ヵ月宇宙ぐらしの無事祈る	春蘭は古里はなれ庭で咲き	竹	愚かにも優しさ愛と勘違い	笑うこと忘れたように老い独り	白黒を付けずおさめる年の功	弱いとこ見せて肩凝り楽になり	字	息の道作ってくれる声を出す	舞扇心の乱れもろに出る	やわな芸褒め合っているいじらしさ	葛藤の演技新境地を拓く	今	お日様で乾く有り難みを忘れ	さなぎから蝶へ幸せ謳歌する	大将が掃除までする自営業	指切りで遊ぶ約束した夕日
	府中市					竹原市					宇部市			5		今治市				
	岩					六					高					渡				
	本					田					Ш					邊				
	雅					半					清					伊油				
	代					德					子					伊津志				
四季のこれとこれとこか		<u>ب</u>	現	新	新		幅	n	4	11		,	^	去	\H :		△	١.	7	Ħ
四季のないトマトに胡瓜食べている愚痴などは言わず感謝の日記書くこれと言う芸もないまま古希も過ぎ柔らかい春に会いたく回り道	松江市	一センチ白髪が伸びる恐怖心	現実は糸も切れない糸切り歯	新しい発見にまず握り飯	新しい私見つけるバスツアー	松江市	病んで見て歩く仕合せ今気付く	リーダーの母は我が家の纏め役	健康で自慢の手足八十路来る	リストラに呑んでも酔えぬ寒の冷え	出雲市	この不況ジャガ芋少し余計植え	今しかない今日しかないとハッパかけ	春の陽を受けてまぶしい孫娘	進学の孫の瞳に青春が燃え	府中市	今日の余力明日へ向かう風となる	かくれんぼ仲間信じて鬼となる	フランスパンザックリ切って棘を抜く	男の風を丸のみに鯉泳ぐ
ないトマトに胡瓜食べているぎは言わず感謝の日記書く言う芸もないまま古希も過ぎ	松江市 山	モンチ白髪が伸びる恐怖心	美は糸も切れない糸切り歯	しい発見にまず握り飯	しい私見つけるバスツアー	松江市 松	nんで見て歩く仕合せ今気付く	リーダーの母は我が家の纏め役	健康で自慢の手足八十路来る	リストラに呑んでも酔えぬ寒の冷え	出雲市 川	の不況ジャガ芋少し余計植え	うしかない今日しかないとハッパかけ	音の陽を受けてまぶしい孫娘	選学の孫の瞳に青春が燃え 	府中市 藤	て日の余力明日へ向かう風となる	かくれんぼ仲間信じて鬼となる	/ ランスパンザックリ切って棘を抜く	元の風を丸のみに鯉泳ぐ
ないトマトに胡瓜食べているどは言わず感謝の日記書く言う芸もないまま古希も過ぎ	山根	モンチ白髪が伸びる恐怖心	美は糸も切れない糸切り歯	しい発見にまず握り飯	しい私見つけるバスツアー		nんで見て歩く仕合せ今気付く	ソーダーの母は我が家の纏め役	健康で自慢の手足八十路来る	リストラに呑んでも酔えぬ寒の冷え	川島	この不況ジャガ芋少し余計植え	うしかない今日しかないとハッパかけ	者の陽を受けてまぶしい孫娘	選学の孫の瞳に青春が燃え 		て日の余力明日へ向かう風となる	かくれんぼ仲間信じて鬼となる	/ ランスパンザックリ切って棘を抜く	の風を丸のみに鯉泳ぐ
ないトマトに胡瓜食べているどは言わず感謝の日記書く言う芸もないまま古希も過ぎ	Щ	モンチ白髪が伸びる恐怖心	美は糸も切れない糸切り歯	しい発見にまず握り飯	しい私見つけるバスツアー	松	Mんで見て歩く仕合せ今気付く	リーダーの母は我が家の纏め役	健康で自慢の手足八十路来る	リストラに呑んでも酔えぬ寒の冷え	Щ	の不況ジャガ芋少し余計植え	うしかない今日しかないとハッパかけ	者の陽を受けてまぶしい孫娘	選学の孫の瞳に青春が燃え 	藤	て日の余力明日へ向かう風となる	かくれんぼ仲間信じて鬼となる	/ ランスパンザックリ切って棘を抜く	元の風を丸のみに鯉泳ぐ

大洲市

花 岡

順 子

府中市

馬 場

利

子

今日は晴れ私の指示を待つ夫革命の日から夫が皿洗うこれからを映す通帳頼りないアルバムに恥ずかしいほどある若さ	黄砂です帷子にめかれてスクして 米子市 吉 田 陽	をかざた 冒さ こうが Qマスタンで 不況下の今朝も雀のミーティング 花の春重い腰だが浮いてくる すれ違う十七歳の風を受け	南市武島	合寸金やるというからもらっとく瞑想の森へ悪魔が出て楽し	一粒のくすり医者との仲をもつ元気だネ言われて歩幅広くなる	雲南市 福 間 博	手の内を見破る犬がいてこまる	あなた母き言ってるように鳴く鴟こうの鳥に神出鬼没を期待して	給付金ぱっと使えぬこの私	雲南市 渡 部 好	寺参り檀家信者の輪が温い	決断が鈍る男の買物籠	騎虎頑固似た者同士という金婚	国語力大臣並と思う僕	安来市 原 恒
	子		ちよえ			可利				※					煩悩児
ルンルンの気分で今日は終りたい記憶の糸をたどればいつも亡母の顔紋付を亡母の匂のまましまいゴミ袋結べないほど詰めて出す	新学期、社長のより 星羽中 境港市 は	所を用申兼Dな)を返り 十一時テレビが消えてラジオ鳴る 嫁からの盛り花届く八十歳 酒という妙薬飲んで生きてやる	米子市	鬼太郎の音頂で叮び踊り出す無口だが会釈の顔に出る心	豆食べて厄を払って八十路坂いざと言う時は指紋がしゃべり出す	米子市	老い二人青春キップ旅をする	飲み会は車のキーを妻の手にぎりぎりの家計乗り切る妻の知恵	嫁姑我慢するのは年の功	米子市 1	お財布もたっぷりが好き景気待つ	変りゆく世にもあるのだ永遠の愛	一歩づつ日が長くなる嬉しさよ	節分も鬼は外など聞えない	米子市
	遠		小			猪				見					田
	藤		塩			森				Ш					村
	那珂子		智加恵			スミエ				温					周
	7		中			-				子					子

溜息をつくと幸せ逃げて行く	うっとりと魔術師の腕美容師さん	カットする髪もう一度生き返る	花びらがひらり幸せくれている	鳥取県 岩	敬老の席は俄のクラス会	ふところに内緒金入り暖かい	お社の名人芸に客が寄る	客多くエビス顔する砂の像	鳥取県岡	日脚伸び畑の手入れ忙しく	早春の陽を受け梅見夫思う	春衣八十路過ぎには早過ぎた	病院の検査合格元気づく	倉吉市 藤	ハンサムで何故か父さんだけスリム	年金の通帳貯まることがない	グループで昭和を語るティータイム	忘れない記念日一つ共白髪	倉吉市 前	母の海何時も傷心癒される	一番より二番の方が気が楽だ	お誘いの電話そわそわ落ち着かぬ	スランプにやっと日差しが見えてきた	倉吉市 酒
				崎					村					井					田					井
				和子					孝明					美津恵					喜美子					芙美子
永遠に振り返ることなく生きた	世の中がスリムになっていく怖さ	ほんのりと春の陽気を背に受けて	春の陽を無駄にしません一万歩	鳥取県	透明に出来ぬわけあり天下り	店仕舞いセールにぎやか残酷だ	後々の為にがい顔みせておく	病院のベッドでやっと休みとれ	鳥取市	どう見ても元気の失せた下半身	頑固さは取れてはいない傘寿来で	年金の暮らし三食ちゃんと食う	其処にいるだけでもいいと老夫の声	鳥取県	春の味楽しむつくしの袴とる	残雪の墓の上なる白さかな	人生は虚実まるごと愉しんで	老いてなお心に花の種を蒔く	鳥取県	鯛焼きの表と裏を見て食べる	ひと呼吸おくと出て来る婆の知恵	背伸びして孫に合わせるカタカナ語	書いた字と辞典比べて清書する	鳥取県
				飯					高					下					田					大
				野					浜					田					П					塚
				菖 子					勇					茂登子					清帆					美代子

卒寿じゃないか飲ませてやれよ好きな酒ふっくらと余熱が丁度よい煮豆席題に取りくむ柳友の息づかいこの投句読んでくださる顔うかぶ	大仕事成し遂げたよう投句終え たけ事成し遂げたよう投句終え 鳥取市 岡	を確可象を入司って雇助と 場たんぽがエコという名の出番まつ おい日の節約思い出している 鳥取市 近	本生だな笑顔が覗く陽の温さ ・	誰にでも優しい君にある自信 針の山微かな愛も見つけだす おしゃべりは楽しいままに腹八分 十七音の恋人と居る夜明け前	鳥取県
	本	藤	谷	П	尾
	幸	秋	静	千	<
	枝	星	江	千代子	くにこ
片付けの上 故郷の風を 留守番を五	どんぐりれたりれ	春の風 お 登 報 記 の 選 記 の 単 に は 穏 か か な ご ま か お ご き か ま ご き か ま ご き か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か	がいた。	思知を を と を を を を を を を を を を を を を を を を を	
片付けの上手な姉が臥せている故郷の風を聞きつつ墓掃除留守番を五人囃子にまかせ出るうきうきと弾み娘と雛飾る	となぐりが枯れ葉のフトンから根付く 込められる想い線香荷が重い 闇の海光った方へ進もうか	は同子のまたように皮争いいかなごが届いて春が暖かい 陰謀の政治国民不在です 陰謀の政治国民不在です	はから見える緑がまぶしくて とつぶりと緑に浸かり心地よい がから見える緑がまぶしくて はから見える緑がまぶしくて	愚痴を捨てその日その日の風まかせ 啓蟄に吾も友よと虫が来る とないてなお思い出抱いて今日も暮れ を持て嫁さんの言うがまま	鳥取市
	島取県	ゝ うい れ ぬ		風が日まり	鳥取市 谷
	5	P うい 鳥 取 県	鳥取市	風まかせ 鳥取市	
	鳥取県加智	P うい れぬ 鳥取県 西	鳥取市津	風まかせ 鳥取市 坂	谷

高速バス受け皿の待つ娘の街へ高速バス受け皿の待つ娘の街へ 高速バス受け皿の待つ娘の街へ 高速バス受け皿の待つ娘の街へ	加東市 岩 本部にぎりを半分こした君とぼく を眼鏡いつも心に掛けている を眼鏡いつも心に掛けている	春の陽へ腹見せ咲いたタンポポよ 雪囲い春の陽みつけ縄を切る 雪囲い春の陽みつけ縄を切る 高販売を少しゆるめて春陽入れ 鳥取市 大 前
隆	美	鬼 安
彦	緒子	一 子
れに 藤沢市	日立市 一学では で港に 明治の 雛の座しまする で表に 明治の のがさかりなり では では では では でい なり でさい なり の に に の に の に の に に る に の に 。	版本市 ・ラキチも信仰心も似た心理 タミフルも撥ね返される不況風 タミフルも撥ね返される不況風 ・ランニランに誰も頼まぬランク付け ・ランニランに誰も頼まぬランク付け
加	加	巌 藤
藤	藤	野 田
	藤権	野 田 す 千 みれ 休
	できずと見つから丁L号	は水と空気と人情味 とったいの中にボツンといる孤独 を中分こした君とぼく たかりでも続けば何とか足の跡 がて今日も明日も活気づく たがりなりいて今日も明日も活気づく たがりなり なりの空気吸ってる遊び部屋 があれたはや三十路 がス受け皿の待つ娘の街へ かりなり なりがの空気吸ってる遊び部屋 たがりでも続けば何とか足の跡 たがっと見られる 本 美緒子 とったいと は 本 美緒子 でありば何とか足の跡 でありば何とか足の跡 たがっと見られる は水と空気と人情味 彦ホー 石 田 隆 彦 落魄の男迎える里の慰撫 藤沢市 でも続けば何とか足の跡 橋本市 石 田 隆 彦 落魄の男迎える里の慰撫 藤沢市 でも続けば何とか足の跡 橋本市 石 田 隆 彦 落魄の男迎える里の慰撫 藤沢市 でも続けば何とか足の跡 ちゅうとして生きる でもできる でもだけでも続けば何とかとなど気と人情味 からしている がいつもんに掛けている からでしまする からでも続けば何とか足の跡 がまれたいからは、地道を下して生きる でもできないの中にボッンといる孤独 藤沢市 びょうしょう はんだい ないまい はんかと できない はんかと でもない はんかと でもない ない はんかと でもない ない はんかと でもない ない はんかと でもない はんかと でもない はんかと でもない はんかと でもない ない はんかと でもない はんかと でもない ない はんかと でもない ない はんかと でもない はんがと からびん はんかと でもない はんかと でもない ない はんかと でもない ない はんかと でもない ない はんかと からない はんかと でもない ない はんかと でもない ない はんかと でもない ない はんかと でもない ない はんかと からない はんかと でもない はんかと ない はんがと からない はんがと からない ない はんがと からない ない はんがと からない はんがと はんがと はんがと はんがと ない はんがと ない はんがと はんがと はんがと はんがと はんがと はんがと はんがと はんがと

給付金半分貯金して残す	半分は捨てた古着が高く売れ	今日何をしたか書けない日記帳	文句言っても年金のありがたさ	#	何時までも咲き続けたい姥桜	過ぎて行く時間止めたい傘寿会	口だけは達者かしまし傘寿会	教育勅語守って歩いた八十年	#42	評論家舌二三枚使い分け	花粉症がほっと一息菜種梅雨	雨も良し独りで入る露天風呂	月も独り我も独りの露天風呂	The state of the s	仏様じっと眺めて癒されて	早桜入学式は三月に	安い肉 中は油で真白だ	誰のため出費がかさむホワイトデー		緑玉婚多くのささえ有り難い	リハビリの散歩の杖も春の風	玄関に好きな花生け友を待つ	これからの人生細く長くいく		
				佐渡市					静岡市					東京都				1	小金井市					三田市	
				髙					渡					井					高					辻	
				野					辺					上					岡						
				不					芳					つト					弥					開	
				\equiv					子					つよし					生					子	
ふざける子本当はさびしい子供かも	心から笑った夜はよく眠り	心せくこともなく今は日が過ぎる	老いてなおおしゃれ心がすてられず		強かに生きて肥やしとなる枯葉	ふつふつと昭和を語り出す茶釜	重ね着に染み込む春の息遣い	ロボットにリストラ迫る不況風		糸電話曽孫の相手アンパンマン	八十路まで生きたあかしの顔のし	梅真白この世の欲を捨てて生き	煙草吸うマスクを顎にずらしてる		品たもつ老いの面目やせ我慢	不退転決意のほどは合わす掌に	たわいない雑談交わし寒日和	寒風に負けずたわむれ児等ともに		雨もらいはりきる草と根くらべ	新聞でみたと川柳おだてられ	省エネの肥料に変わる野菜くず	ひとり居にデイサービスは身近なり		
かも		る	れず	西宮市					明石市		しわ		6	三木市				100	兵庫県				なり	加東市	
かも		5	れず	西宮市 石					明石市 糀		しわ		6	三木市 山									なり	加東市 黒	
かも		8	れず								しわ		é						兵庫県 日野岡				a h		
かも		6	れず	石					糀		しわ		9	Ш									a b	黒	

ホワイトデー忘れないでと妻のジャブ酒たばこ止めて長生き医者通い失敗も内証にしない友と飲む鶴と亀衆院選をじっと待つ	奈良県 田 中 賢 治おばあちゃんこけたらあかん手をつなご今日も晴れタレント並みのスケジュールを目も晴れタレント並みのスケジュール	小芋種今年元気でたのしみだ 篠山市 谷 田 多美子 我が家にもエレベーターがほしい歳 医者梯子気がついた頃もうおそい	その世話にならぬと言えぬ年となると、 対水取り火の粉を浴びて厄払う お水取り火の粉を浴びて厄払う	以薪嘗胆春の景色に溶け込まぬ 二軒目は袋小路にある酒場 二年日は袋小路にある酒場	西宮市 吉 井 菜々子
親友と語る言葉は方言で彼岸入り先祖と共に語り合いな岸入り先祖と共に語り合い定年で家庭の威厳妻に行く	年期市 小沢躓き欣喜雀躍自民党 が沢躓き欣喜雀躍自民党 を求めリュック姿の列が行く	栄養価気にせず老いて医者知らず なぎ刻むリズムが知らす低気圧 なぎ刻むリズムが知らす低気圧 ないない かいしょ しんしゅう かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん	日の丸が久方ぶりに目に付いた 奈良市 岩夢の中正座の亡母がお手玉す 一人遊びのガラス窓	手から手へ人種を超えて輪をつなぎ ほどほどの実入りとくらし有り難き をせはショパンのソナタ浸る時 を開いこ代読んだ絵本あり	奈良市 阿

野

良

西

稔

本

浩

畑

なを江

部

茶

Þ

手の平で薬確かめ今がある	古里の訛り匂いに深呼吸	エステよりメタボ体操勧められ	散歩して家に帰ればもう座る	[内長野市 山 本	きっぱりと決められなくてまだ一人	医者よりも先に病名付けたがる	カラオケが誰より好きな音痴です	定年後田舎暮らしにはまる妻	河内長野市 辻 村	ストレスを溜めて洋服買っている	テレビでの三文劇に飽きてくる	遅咲きの頑張る友へ輪が温い	不況の波被る派遣の深い闇	河内長野市 針 生	人事院渡りの主がボスで居る	国会に靴を投げたい気にもなり	お前とはあの世でもまだ恋敵	辻褄を合わせる嘘が終わらない	河内長野市 山 室	誕生日祝って下さる友多し	クラス会クロスワードで盛りあがる	信じられぬ株は何時まで下がるのか	水仙が一本だけ咲く寒そうに	河内長野市 内 海
				エ					洋					和					光					綾
				3					子					代					弘					乃
一時金あれもこれもと悩んでる	警察の中でもお金無くなった	橋下さん赤字脱却ようやった	春なのにお別れですかあの人と	羽曳野市	完璧に無駄を省くと味がない	だまされる方にも欲の見え隠れ	独り居を訪ねる妻の割烹着	水たまりすべて馴染みの路地住まい	羽曳野市	ふるさとの駅に初恋まだ残る	達筆さま読めぬ漢字は書かないで	ゴールテープいつになるのか古希の坂	継続を力に変えたボランティア	羽曳野市	寒椿一輪咲いてありがとう	春一番咲いたけれども雪が降る	鉢植のクリスマスローズ白が咲く	スーパーで名前書いてる野菜買う	羽曳野市	朝の散歩きびしく誘う健太君	四十年島根の牡丹庭で咲く	子と孫に贈るものありわが心	妻の家事継いで料理の塩加減	河内長野市
				仲					森					福					松					木太久
				谷					下					田					本					久
				真					_					悦					静					正
				_					知					子					子					-

てた帚老ナでの	
ゆく	枚方市
	小
	Щ
	良
	吉

給付金労せずお金いただけぬ おくりびと日本文化の深さ知る 友が逝き細る郷にも春が来る 泣き笑い 重 ね 1

枚方市

坂 本 ミヨ

桜満開一句つるしてさくら餅 川に映る月もぼんやり通り抜け

歳月を巻き戻したい古時計

さくらさくら花粉と人で通り抜け

枚方市 河 田 洋

子

枚方市 宮 紫 鳳

潮騒を聞いて砂湯の夫婦旅

成し遂げた顔は誰でも神々し 神様の罰があたると躾られ 働けど貧乏神が出て行かず

長所より短所を探す世間の目

空と海ひとりじめする砂湯かな

湯布岳を眺め雪舞う露天風呂 湯けむりのたなびく里は春近し

春の陽につくし私も動き出 れた日も布団干せない杉花粉

木の葉舟やっと決った給付金 日本人の忘れた心歌うジェロ

> 吉 H

藤井寺市

喜代子

颯爽と値札が揺れる春帽子 しなやかにストレス流すしなやかに 義理打算ひしめいているチョコ売場 七草を刻めば初春が音に香に

で夫の存在感

藤井寺市

俣

野

再診でようす見ましょがようけある

介護でケンカ逝って仲良くさせた亡母 春の睡魔ところ構わず現れる

歩き出した人生だから止まらない

藤井寺市

伊

藤

アヤ子

頼りない親が育てたいい子達

抜け道を断つとマグマが溜ります 母の留守しっかり守る男意気 春休み姉妹で来るというメール 八尾市

前

田

紀

雄

システムが壊れています使い捨て 獅子が吠えトラが居眠る永田町

最大の景気対策チェンジです

としとらぬ雛よ私は白髪に

八尾市

中

島

春

江

母遠し父なお遠し我れ八十路 お医者のはしご出来るのはまだ幸せよ 流さるる雛のまなざし虚ろなり

八尾市

赤 木 妙 子

古都の旅タイムマシンに乗る心地毒舌にやさしい心見え隠れ 定年日惜しまれて去るありがたさ だ年日惜しまれて去るありがたさ ボール・カー・ 大阪市 萩	ī	額の中セピアの祖父が胸をはる祖父の髭明治の風を通り過ぎ 超が伸び元気の証気力出す	世意気も可愛く見える年となり 生意気も可愛く見える年となり 生意気も可愛く見える年となり	万葉のこころ平成にも重ね 界 市 近かがプライムどえらい授業料払う	ī
原	ĺ	本	阪	藤葉	
大			英	治	
朔	1	勲	雄	子 洋	-
とりあえず明日着る服をかけておく すまないね合わす母の手温かい 八起き目もぐっと気合を入れなおす 魂がゆっくりせよと付いてくる 大阪市 山 本	る 		転倒へ物を言うたり骨密度 大阪市 橋 村郎分へ胸張りました豆八十九粒 振り込み詐欺なんてかかりよう無い財布	大阪府 坂 口まっすぐに育ってほしいハニカミ屋上町の古き長屋の佇まい 専一夜微笑む母の手を握り 大阪市 松 田	`
			容	公公	
加 お 里				子 聰	1

大阪府 神 野

好きな色空にもあって虹かかる 過去未来現在全部宝物

お茶漬がおいしい明日を信じよう

少しだけ先を歩いてみたい影

ときめきと違うぞこれは不整脈

西 脇 義

祐

大阪市

大阪市

寺 井 弘 子

ほのぼのと愛の弔いおくりびと 頬杖をつけば聞える春の音 永田町避けて吹いてる不況風 さわやかな顔で別れを告げられる

遅く来てさっさと帰る新人類 旅先で何かあったなこの土産

青春の蹉跌は今もほろ苦い

大阪市

答 嶋 惠

美

ゆっくりと時計をまわす首まわす

古寺巡り花と法話とうまいもの

全身に苔をまといて咲く古梅 今晩はくぎ煮のにおう中で寝る

母さんに五月の風を贈りたい 師の一語胸にたたんで句帳手に

父さんの遺した眼鏡拭いておく

戦争を語る長寿の仲間入り

吉

田 富 美

大阪市

忙しい言うたあいつがゴルフして 着飾って痺れ我慢の菖蒲園 茶柱が立ってぼちぼち運が向き 目薬を一滴落しトンボの目

何も彼も背負わず甘え生き上手

小

他人には聞けない話嫁に問う

忘れてた歌もうたうと思い出す 急ぐことはないが止ると動かない

大阪府

高

木 道

子

平凡に育ち似合いの嫁が来る あれやこれノイズ絡めた週刊誌

降る雨もふと匂いあり春隣り 肩書きをはずしジョークが湧いてでる

大阪府

若

月

祐 作

古稀迎えも一度恋をしてみたい ほどほどに軽さ保って達者です

喜寿傘寿過ぎた余白を風に聞く

ダンスして背筋を伸ばし若返る

大阪市 安

忘れられて夢にさまよう抱人形 楽しそうなことはなんでもやってみたい 愛があるかないかでみんな変わってく 別室で寝てもカギまでかけるなよ

大阪市 吉 JII 弘

案会日件場時

に85ア 6 つ周ウ 月 11 年 1 9 T 並 B 意 U + 13 ホ 13 テ時 1 0 ル30

参与以 0 他 上 見交換 0 役員 はご出席ください 分 0 0 7 5 号記 1 16 ガ時 念大会 " 1 0 0 間 動

大きな招き猫

0 たウ 才 ユ

草 スから花料 の百年前の 外の 出 H グ 畑 1 調雷 ラ ン L みの ポ 子片で 一人の 0 で " ラ か中 ス ス 夕餉 宙 粉 暦 お 1 つ国 1 T 語 は 繰 \$ V 13 手を n Vi 7 狭 た す ス ス 捨 0 < 11 お 瞳 、なり \$ 抜 針 ク引き継 1 あ てに行く 映らない T か箱り 力 " 大阪 大阪 が 市 n 市

 \mathbb{H}

太

府 畑 中 節 子

第7回 鈴鹿市民川柳大会

選

選

6月28日(日)午前10時30分開場 日時 会場 ロワレ21鈴鹿 4F ヴァンヴェール TEL 0 5 9 - 3 8 8 - 1 1 1 1 (近鉄白子駅徒歩15分. 送迎バスあり)

アトラクション ジャンボ紙芝居 締切12時 (各題2句)

員

席題 「当 H 発 表 高橋 宿題 木野由紀子 た た む」 田中 豊泉 E 鈴木 順子 -

選 伊勢 星人 「じれったいこと」 植野美津江 (読み込み不可)

由 吟」 新家 完司 事前投句「秘 密」(清記選) 橋倉久美子 選 5月31日消印有効。ハガキで2句(出席者のみ) 〒510-0213 鈴鹿市南旭が丘1-6-3

吉崎 柳歩あて 1,500円 (発表誌呈) 大会終了後、同会館 3F 6,000円

事前投句のハガキで申し込んで下さい 各題秀句賞·最優秀賞·準優秀賞(合点制) 鈴 鹿 川 柳 会

援 鈴鹿市·三重県川柳連盟·朝日新聞(各予定) 問い合わせ先 059-380-0303 吉崎 柳歩 059-387-6234 青砥たかこ

豊中もくせい川柳会 25周年 記念大会 -

平

#

露

芳

6月16日(火)午前11時開場 В

場 豊中市立市民会館「1階大集会室| 阪急宝塚線曽根駅下車徒歩5分

TEL 0 6 - 6 8 6 4 - 3 9 0 1

上方落語 桂 演 福車

題 締切12時半(各題2句)欠席投句拝辞 「祝 う | もくせい川柳会 穴吹 尚士選 銀 T 川柳塔社 西内 朋月選 川柳塔社木本 朱夏 選 「高 コロキュウム 赤松ますみ 選 「出 発| 番傘川柳本社 森中惠美子 選 「チェンジ」川 柳 塔 社 河内 天笑選

題 なし

会 费 2,000円 (軽食あり)

懇親宴 ありません

連絡先 〒561-0801 豊中市曽根西町2-8-4 江見 見清 TEL 06-6841-4191

> 豊中もくせい川柳会 後 援 JII 柳 塔 社

新家 完司 選

おばあさん。そして、死ぬまでおばあさん。 から熟女。熟女からおばさん。おばさんから おばあさんになったらずっとおばあさん (評)赤ちゃんから少女。少女から娘。娘 吹田市 穴吹 尚士

定年に魔法が醒めた顔になり

げん性を否定された、一種の魔界とも言える。 にピリピリ緊張していた毎日。それは、にん (評)上からのしごきと下からの突き上げ

īfi 大隅 克博

肩書をとれば缶蹴りした仲間

どこでも通じると思っている人が稀にいる。 の中だけのこと。一歩外に出ればみんな平等。 (評) 肩書きが通じるのは所属している組織 八尾市 生嶋ますみ

自分にはだんだん甘くなっている

者の欠点ばかりあげつらう人は珍しくない。 ているだけで充分。自覚なく反省もなく、他 (評) 反省!である。が、そのことを自覚し

東京へ行けば格差がよく分かる

ない。みんな似たような素朴な暮らしである。 きのベンツで威張っている人はあまり見かけ (評) 大企業が少ない地方では、運転手つ 大阪府 米澤 俶子

マンホールの蓋にも花が咲いている

の蓋にも町の花が鮮やかに描かれている。 道端の野草にも可憐な花が咲き、マンホール (評) その気になればどこでも花を楽しめる。

唐津市 坂本 蜂朗

それさえ負けるようになったら…。 かろうじて頼りにされているのは腕力だけ。 妻との仲とりもつ固い瓶の蓋 (評) 口でも元気度でも妻には負けている。

安来市 原 煩悩児

遠になる。入れば新しい世界が開けるだろう。 「いや、まだまだ!」と言っているうちに疎 齢八十さて老人会へ入ろうか (評) 老人会に入るタイミングは難しい。 東京都岸野あやめ

三姉妹私のほかは認知症

妹だが…。まことに残念なことである。 緒に楽しみましょう。と語り合っていた姉 (評)歳をとったら、旅行や芝居や映画を

記憶力忘却力にすぐ負ける あれこれと義理に費やすエネルギー 大阪市 岩崎 公誠

桑名 孝雄

矢倉

五月

お隣へだけは必ず買う土産 せめて髪明るく染めるバースデー 老眼鏡忘れ立ち読みあきらめる

高知市

憲子

良いところすべて私に似ている子 ダイエットしたのに病気かと問われ キャーという声がまだ出るまだ女 三田市

褒めるのが下手で無口を通してる

百均で見つけてきたと自慢する イクラ丼命の粒の美味いこと メール打つ虚像の自己と向き合って 鳥取県 細田

裕花

羽曳野市 永田

鍋奉行つとめる間大丈夫 定年を上手に生きて余力ある

藤井寺市 高田美代子

もうちょっと悧巧な政治出来ないか 少し鬱自信無い日は食べて寝る

家中でおいでおいでの初歩き 審判もやらせてくれる草野球 大川

喪服着て少し小さく見える喪主 なんでやろ斜めにささる褒め言葉

大洲市

母の日に合わせてシクラメンが咲く

黙祷に目を開けている人がいる 昼食はまた雑炊でよろしいか 下方修正されてビールが発泡酒 ナビゲーター句会場から居酒屋の 蒔いた種ちゃんと並んで顔を出す お日さまがくすぐり畑笑いだす 鉢巻をタオルで巻くと様になる 父の享年超えて大人になれました イベントがすんでクシャッと紙コップ 処世術教えてくれる縄のれん 道頓堀に力士行き交い春が来る 芹入れて私好みの恵方巻 ネクタイを外した口は河内弁 求人欄ばかり見ている虫めがね ぶち切れた縁もそれはそれでまた 一次会へ邪魔になってる引出物 羽曳野市 和歌山市 和歌山県 札幌市 奈良市 櫃原市 海南市 弘前市 松江市 ifi 小谷 三浦 福士 本本 矢野 志田 津川 安土 西川 吉村久仁雄 森下よりこ 千代 型 慕情 朱夏 良 紫晃 理恵 強 歯の治療尖ったままの昼の月 義理チョコに何を慌てているのです 春の街ちょっと小粋にハンチング 歳ですね若いイケメン苦手です ごじゃごじゃの話盛り上げ千鳥足 天国は酒もタバコもないらしい 芥川賞話のタネに読んでみる 世界遺産地デジで巡る春の宵 歩くより転ばぬように気を遣う 足腰の丈夫な内に旅プラン キティちゃんの切手で孫にラブレター 酔ってても足音たてぬ知恵はある メリケン粉と砂糖で一日中遊ぶ リメイクの映画大抵つまらない ぼんやりとさせて下さい月おぼろ つま先を踏んばり蛍光灯替える 河内長野市 藤井寺市 奈良県 大阪市 東京都 吹田市 大阪市 柴本ばつは 倉益 古今堂蕉子 北野 渡辺 清原 加島 太田扶美代 早泉 早人 村上 直樹 哲男 富 悦子 黒兎 由 瑶 迫りくる老い追い払う多忙の日 前向きはいいが年齢忘れてる 神主も賽銭箱をのぞき込み 留守頼みますと祖父母の遍路笠 休肝日可哀想にと妻笑う まちがえて特急に乗り遅刻する 娘来て尿もれパンツくれました 酔いに任せて缶詰を抉じ開ける 好きになった理由を言えば百はある 飲んでいる時が天国だと思う だんだんに腹が据わってきた余生 誇れるはひとつ煙草を止めたこと 夕食のメイン特売品である 刃向こうであなたの深さ確かめる 本籍は堀江墓は天満で浪花っ子 元気だけあると言ってたのは昔

赤ひげのようなお医者に出会いたい

変わるよりチェンジと言うと良く聞こえ

心にも降ってた雨が止みました

栗田

八尾市

髙杉

千歩

榎本日の出

豊中市

安藤寿美子

大阪市

尾崎

ゆめ

枚方市

海老池

洋

香芝市

大内

弘前市

髙瀬

霜石

海南市

三宅

保州

鳥取市

山宮

愛恵

茨木市

藤井

正雄

留守番のチャンネル天気予報から 仁部 四郎

何かある時は出ている馬鹿力 シドニー 坂上のり子

切り札はあるが小物だ使うまい 美祢市 安平次弘道

ロボットに罪の意識はないのです 京都市 高島

村上

玄也

啓子

鳥取市 岸本

孝子

ぼろくそに言うて案じてくれる友

さあ春だまずは体に言い聞かす 西宮市 片山

この悩み心療内科行きですか 紀の川市 字野

幹子

忠

弘前市 高橋

岳水

大役を果たした臍は忘れがち

中締めをしないと午前様になる 吹田市 大谷

篤子

病室に褒美と思う丸い月

弘前市

櫻庭

順風

悪い事せんのに癌になるなんて 寝屋川市

茜

呼んでないライバルも来る三次会 鉛筆を尖らせたけど冴えぬ文字 京都市 坪井

孝

しゃかりきにセーター編んで偏頭痛 豊中市 松尾美智代

> 暫くは死ぬまいビール美味いから 東かがわ市 木村あきら

手いっぱいあれもこれもはもう出来ぬ 西宮市 牧渕富喜子

モーニングコールのようなバイク音 松江市 三島 大洲市 花岡 松丘 順子

去る人は追わぬプライド持っている 大和郡山市 坊農 柳弘

言い分が説明できず泣く幼児 後期高齢食前食後薬漬け 鳥取市 有沢せつ子

若返る気がして今日も赤を着る 高槻市 片山かずお

豊中市 荒巻 夢

愚かしく別の人生思うとき 寝言でも許せぬ名前あるのです 枚方市 小林 わこ

生垣に新芽が萌えて手間増える 姫路市 古川 奮水

ジャンボくじ当たりゃ年金寄付をする 鳥取県 半 次根 節子

病院へ行く体力のある患者 紀の川市 和歌山市 辻内 上地登美代

エコバッグ忘れもったいない五円 奈良市 岩本浩二

同期会先ずは訃報の話から

蒟蒻の芽ほど元気なものは無い

鳥取市

土橋

睦子

春ですねお喋り弾む旅鞄

大阪市

吉内タカ子

ほどほどに元気で医者をはしごする 横山

和泉市

捷也

ちょっとした傷の治りも遅くなり 三田市 石原

歳子

厚着した時が気になる加齢臭 藤井寺市 弘前市

相馬

銀波

鴨谷瑠美子

アナウンス流れ人身事故を知る 和歌山市 喜田

准

給付金僕は貰うと決めている

鳥取県 佐伯 やえ

声変わりした孫見ては老いを知る 給付金ひ孫のランドセルになる 河内長野市 針生 程

下水道できて溝川蘇る 池田市 出 堅坊

適当にとぼけ上手の草書体 羽曳野市 市川 寿美

八尾市 青村 一風

極楽へゆこうと夫婦では決めた 鳥取市 土橋 螢

庭にある親父の石に苔が生え 篠山市 円増 純子

骨太を高齢の今感謝する

老々介護愛の形は変われども 格差社会子から素朴さ奪い取る 鹿と会い楽しみ増えた箕面山 寝るまでの行事多くて朝寝坊 顔に出る正直者で任される 春日和孫の鼻水とってやる 救急車患者と雪を乗せて着く 拝啓も敬具もなしにメール打つ 生きるとはお金を使うことなのか 長生きの秘訣は無いが生きている おくりびとどちらがするか譲り合い あす帰る赴任地からの弾む声 心からから異常乾燥注意報 藤井寺市 東大阪市 西宮市 西子市 海南市 枚方市 大阪市 鳥取市 松江市 奈良市 鳥取県 浜松市 箕面市 高槻市 北村 広島 藤本 松浦登志子 堂上 丹後屋 岡田 夏目 乙倉 黒田 竹信 尾畑なを江 鈴木いさお 神夏磯典子 武史 茂代 照彦 泰女 史郎 賢子 一粋 肇 直 盆正月仁義つくして失職し 要るものはないが賑わう街に出る 還暦に挿した椿がやっと咲く 低い鼻臭い嗅ぐには事欠かぬ 栄転も左遷もあった宮仕え 目の手術してから私掃除魔に 手術終えまだまだ天寿あると知り 山里のおもてなしには蕗と独活 お顔から想像出来ぬ金釘流 豆ぐらいでは追い出せぬ鬼が棲む 充分にある水なのに金で買う クロールができたとはずむ友の声 ヘソクリもいよいよ底を突いてきた 東大阪市 四條畷市 和歌山市 日立市 三田市 鳥取市 唐津市 神戸市 八尾市 大阪府 堺市 鳥取市 市 田中 福西 佐甲 田邊 岩崎 福田 笄 吉岡 小栢こずる 根田よしこ 吉田 荻野 羽田野洋介 吉成 造 好文 弘 像山 於子 ます 章子 茶子 昭 實 修 失念も老人性が強くなる せせらぎは春の音符を載せている 早や宇宙交通整理しなくては 精一杯生きた枯葉の優しさよ 転勤に残ってほしい人も去る 陽が当たるところへ猫がやってくる セーターをしまってからの戻り寒 僕んちは村の平均位かなー 恋人を春の嵐に攫われる 気が向けば厨房に立ち皿洗い 古稀にして自分史らしき物もなし 付け買いにハイスピードで来る節季 泉佐野市 紀の川市 岸和田市 鳥取市 坂出市 鳥取市 米子市 大阪府 美作市 米子市 八尾市 高知市

母さんの天井破る子の育ち

定年で鍵束軽く身も軽く

凜と咲き癒されました福寿草

前田

紀雄

小川てるみ

土橋はるお

北山

綾井

嘉彦

白根

ふみ

市

和田つづや

高木

井伊

東吉

福原

悦子

稲葉

洋

青戸

田鶴

近藤

秋星

麻生路 郎句

(句集『旅人とその後の作品』から)

空

大

爱 慾

俺に似よ俺に似るなと子を思ひ

子にやっ 失職をしてから父の声でなし た 机 で履 歴 か l, て L, る

昼の 風 呂泳ぐ気にさへなる父 t

子煩 ある時は子をだんばしでくひとめ 悩 が 0 た h が つ たんしてくら 3

木綿 なにはなくても男の子等と冬を越 着でおごそかな父になりおほ せ

さあ

みんな降りててくれとお父さん

ボ 1 ナス で父 の 腕 前 疑 うな

結界の中へうけとる子煩悩

箸紙を父おち 0 v て 書 1,1 てやる

お父さんはやはり川柳々々云ってるよ ンドンの一周忌に

お父さんはネ覚束なくも生きてい

お前がいたらと思ひ出すと煙草ばかり吸う

お父さんの神経衰弱がわ か 3 か

湯ざめするまでお前と話そ夢に 来よ

俺 わが の子とい ままを父特権と思 3. のが あ 0 75 ておそろ いず

子等の浴衣 蚊帳の中で泳いで見せるお父さん 凧あがりきっ のつ て親子が口をきき h つるてんになれ

K. K

投句数 698句

緑

木

本

朱

夏

選

萌える芽へこぶし振り上げ合格さ 五線紙が弾む緑の一滴

松江市

福間 宮西

日野岡和之

八尾市

抹茶一ぷく五臓六腑まで緑 緑茶いれすこしいたわる古希の春

ピョコピョコと産声あげる新芽たち 枯芝の下で緑が騒いでる

緑ならふんだんにある過疎に住む ヒヤヒヤの若葉マークに乗る覚悟 ランドセルみどりのおばさんありがとう

着る人を選ぶドレスの緑色

東大阪市

中岡 岸野あやめ 花岡

櫃原市

安土

村上

玄也

東京都

大洲市 京都市 緑風が好きでたまらぬ杉花粉 緑なき緑ヶ丘となる町も

砂川市

満子

黒石市

相馬 大隅 緑

髙

瀨

霜

石

選

山みどり山の言葉を聞きに行く 山いくつ越えて夫婦の深緑 老木の新芽にも似たわが野心

良い方へ向いて行きそう風みどり 緑っていいな長生きしたくなり

愛知県 犬山市

早川

大阪市 三田市 大阪市 香芝市 枚方市

升成

伏見 久保田千代

大内

新緑に目線が上がる元派遣 万緑に紅一点という果報 万緑の真っ只中でガザ思う

緑なす髪を梳きたいヘアブラシ

ごみ袋緑いっぱい捨ててある わたくしの勝手で草芽抜いている 菜園の虫食いレタス穴も食べ 食うための棚田緑のダムという 赤緑どんな羽根でも売る日本 エバーグリーン息切れしてる長寿国 出世した顔で乗ってるグリーン車 五月生まれ迷うことなく名は緑 ほんにこれ緑やなあと草だんご

和歌山市

鳥取市

鳥取県 八尾市 大阪府

細田 田邊

浩三

羽曳野市 高槻市 桑名 安田

薫風書、カットとも)

77 —

鳥取市

老介護僕に緑のサロンパス	太田としお	大阪市	グリーン車で観た富士山は大きすぎ
新緑の目薬をさす昼下がり	高橋 岳水	弘前市	無機質の街で緑に飢えている
みどりいろ好きで平和を祈り	岡野すみれ	栃木市	捨てようと思った種が笑い出す
草食の名残か緑色が好き	小林 わこ	枚方市	空白を埋める緑を探してる
生きるとは耐えることなりで	髙田美代子	藤井寺市	毬藻ころころ触れないで下さいな
開発へ森の涙は緑色	出 光久	神戸市	震災を忘れ去るよな深緑
森林を削って屋上の緑化	牧渕富喜子	西宮市	遠い記憶の緑焼き付く終戦日
木を殺し緑の塗装する文化	石原 歳子	三田市	ブランコで緑の風と戯れる
温暖化緑の星が崩れだす	桑名 孝雄	香南市	新緑へ溶け込む新しい背広
アスファルトジャングルヒート	三宅保州	海南市	草食の名残りか緑色が好き
お手植えの松の元気をほめて	亀岡 哲子	西宮市	雨蛙逢えなくなってから久し
ベランダの小さな森も春にた	山口美穂	神戸市	老木の芽吹きわたしを叱咤する
盆栽の緑わがまま許されず	上垣キヨミ	三田市	青虫が毒味した菜も盛りつける
囀りにみどりはじっとしてい	坂部かずみ	和歌山市	ひとあめで緑が芽吹く音がする
濡れているのか泣いているの	大塚美代子	鳥取県	不況風吹いても緑良く笑う
ファンファーレ生きよ生きと	奥時雄	堺市	グリーンにオンしたころは息上がり
干拓地 歴史を噛んで緑燃え	七反田順子	西脇市	緑黄色体に纏い元気です
鉢植が並ぶ我が家の緑地帯	髙杉 千歩	八尾市	みどりいろ好きで平和を祈ります
父の樹へ母のみどりでやすら	大内 朝子	香芝市	ピョコピョコと産声あげる新芽たち
みどり児をおっかなびっくら	徳山みつこ	羽曳野市	獣より緑食い散らしたヒト科
カーテンのみどり安眠剤とな	相馬 銀波	弘前市	麦を踏む汗春風に解き放す
水したたる緑の星を買いに行	作 昭二	高槻市	草餅の緑を先ずは目で食べる
ふくよかな鎮守の森を見て草	伏見 雅明	大阪市	老木の新芽にも似たわが野心

いろ好きで平和を祈ります

八尾市 海南市

名残か緑色が好き とは耐えることなり下萌える 森の涙は緑色 削って屋上の緑化 し緑の塗装する文化 ァルトジャングルヒートアイランド えの松の元気をほめている 並ぶ我が家の緑地帯 へ母のみどりでやすらぎぬ 児をおっかなびっくり抱かされる たる緑の星を買いに行こ かな鎮守の森を見て暮らす 緑の星が崩れだす ダの小さな森も春になる 緑わがまま許されず みどりはじっとしておれぬ いるのか泣いているのか楠若葉 ファーレ生きよ生きよと杮若葉 ンのみどり安眠剤となる 歴史を噛んで緑燃え 河内長野市 羽曳野市 八王子市 藤井寺市 佐渡市 吹田市 池田市 鳥取市 大阪市 高槻市 米子市 大阪市 橿原市 唐津市 八尾市 西宮市 安土 太田扶美代 柴本ばっは 小泉ひさ乃

ペパーミントが真実を語らせる	水曜日だから緑色なんです	地吹雪もやがて緑の風になる	秀句	職退いて緑の友ができました	ただいまとポトスに言うてワンルーム	少年は緑の鱗ぬぎ捨てる	緑色サハラ砂漠に塗ってみる	クレヨンの緑を還す森がない	葉桜もいいんだ僕の城下町	万緑の真っ只中でガザ思う	わたくしの中の緑が萌えてくる	大胆に青空の下嘘をつく	老介護僕に緑のサロンバス	深呼吸すればみどりになるお腹	徘徊でないの葉緑素を求め	緑みどりただそれだけの故郷です	ハーブティー緑の指を持つ人と	青虫もブロッコリーも茹であがる	グリーン車に初めて乗せたフルムーン	彩りのパセリがじっと睨んでる	わたくしのこころに緑植えている	Uターン緑が僕を呼んでいる
八王子市	大阪市	弘前市		豊中市	堺市	京都市	黒石市	和歌山市	堺市	高槻市	寝屋川市	羽曳野市	大阪市	西宮市	鳥取市	藤井寺市	橿原市	堺市	大阪市	西宮市	鳥取県	岐阜市
播本	谷口	斉藤		谷川	矢倉	高島	佐藤	古公	加島	安田	籠島	酒井	岩﨑	片山	夏目	太田	居全	志田	鶴田	喜	斉尾	平野
充子	義	劦		勇治	弄	啓子	壵	古久保和子	曲	忠学	惠子	壶	玲子	忠	一粋	太田扶美代	居谷真理子	志田 千代	鶴田 遠野	吉井菜々子	斉尾くにこ	平野あずま

少年は緑の鱗ぬぎ捨てる 匂いたつ緑心をマッサージ 新緑に枯れたいのちを初期化する 養毛剤緑化運動しています 入社式みんな緑に萌えた顔 パセリです不平不満はありません 新緑を浴びて殺菌するハート クレパスの緑と摩周湖のみどり みどり亀息子も嫁も優しすぎ 身の内の蝶が羽化して風みどり わかみどりキミに合わせて着るピンク 駆け抜ける緑のオブジェ眩し過ぎ まなかいにみどりゆさりと意を迫る ストレスへ優し緑の粉薬 ハーブティー緑の指を持つ人と 雨上がる我が身の内の緑地帯 葉桜もいいんだ僕の城下町 マイ箸で地球の緑護ります 職退いて緑の友ができました ふるさとのみどりから来たラブレター ふるさとの緑をどんと背なに老い 三月の緑はちょっと恥ずかしげ 河内長野市 和歌山市 八王子市 富田林市 紀の川市 宇部市 京都市 吹田市 大阪市 豊中市 八尾市 篠山市 西宮市 大阪市 松山市 大阪市 京都市 高島 平田 居谷真理子 谷口 山岡富美子 矢倉 谷川 中# 古久保和子 五月 哲子 宏臣 昌紀

誹風柳多留 篇研究 45

男 小 Ш 田 夫

彦

博 美

綿入レにうつれとくわん木二枚なげ

膳だてをするが椀屋のまけじたく

食物を配置して用意すること。(「角川古 ぜんだて【膳立】は、膳の上に食器・

けておきましょう」などと椀屋がまるで食事 ことであるから本当の食事の膳立てではな 様子を支度と表したのである。 の用意でもするようにいくつかの椀を並べる い。売買の駆け引きで、「それではこれも負 ここでは椀屋の店先かお得意さんの家での

しかられた下女膳立のにぎやかさ 三八16 膳立を崩して椀屋まけぬなり 四27甲

りとりするもの。かんのき。(「日国」) 山口かんぎ【貫木】は、花札で、一貫、二 わんき」はほかの語句では当てはまらない。 るが、たしかに「三枚投げ」に相当する「く が百文の通用である」と説明している。 兌換券の役目をするもので、「貫木」が一枚 は賭場で金銭の代わりに使う木札。賭場での 貫などと貫高を記した木札。金の代わりにや んき」を「貫木」と取って博打場と解してい 一貫文の通用、「金こま」が一両、「びたこま」 よく解らない句である。先人のこの「くわ 賭博の駒札について大村沙華氏は「こま札

> だから、丁半賭博でもありうる。 る解もある。しかし、いまいち様子が解らな は花札賭博だけでなく、賭博一般に使うもの い。また、大村氏の解説に寄れば、「貫木 待っている者に代われ、と催促していると取

るのに対して、胴元とおぼしき人間が「次の もらい、さらに負けて駒を回して貰おうとす 間が煙草入れや道具などをカタに駒を回して カタは着ている綿入れに移れ」と「貫木」を そこで、駄労解であるが、博打に負けた人

清 投げてよこした、と解しておく。 わからず。 へんな目が出るといひ~ 帯をとき 四32

337 びろくとしてハ御さいハつとまらす

山口 びろびろは、異性に見境なくまつわり

と同様、むしろ堅物で融通の利かない男でな いと勤まらないというのである。特に大奥の 軟弱な男を連想するが、奥向きを勤める家老 まれているから、何となくでれでれしている たりするのが役目である。いつも女性達に囲 に出られない女中達に代わって買い物にいっ で、女中達の扶持米を取りに行ったり、外部 つく様を表す語。でれでれ。びれびれ。 御宰は江戸城大奥の女中に使用される下男

(」の前句についているから花札の順番を

出典である安二松3では「邪魔なものかな

いと勤まらないのではないか。 秘密も漏れてくる立場にあるから口も堅くな

よしつねハ舟の内にてひろーーし

口へ戸をたてぬと御菜つとまらす

われ物の取りあつかいと御菜い

明四仁2

明七智2

賛

ぬしづかつしやいとおとける大一座

ゆく。(「角川古語」) 山口 ぬしづく 【主付】は、主を持つ。嫁に

っている。 吉原では初会の盃事を婚礼の模擬のように扱 になれ」とおどけて号令をかけたのである。 で、それぞれの相方を決める時に、だれかが 主付かっしゃい」即ち「それぞれカップル 吉原に繰り込んだ大一座が型通りの宴席

能咲た所ハミんなぬしづかれ みんなぬしづくとはんてんあまるなり 明六55会

く=湯屋用語。めいめいが自分の持ち物を持 主づかつせへとおどける大一座 賛。但し『江戸語の辞典』に「主付 ∄. 9 六16

> 内容となるのだが……。 ミんな主づかせて見れハぼろ斗り

しいなら、湯屋用語を使ったのが「おどける」 つ」とあるのが気掛かり。もしこの説明が正

安六55会

田田 ったので「おどける」と言ったのでしょう。 語。それを大一座の相手方を決める場面に使 の通り、湯屋で盗難にあった時に使われる用 賛。主付くは小栗兄が引かれた参考句

339 にこついて通れハどこへ行きなさる

程いい所だね」と声をかける。 いるが、これはそのままの句である。知り合 山口 よく一人で笑いながら歩いている人が いがいれば「にこにこして何処へ行くの。余

安四松 4

夕べの一座にこついてとをるなり

清

賛

340 出会ィするぐるり池水ィをたゝへつゝ

野不忍池、池之端の出合茶屋を詠んだもので えているのであるから、これは説明無用、ト 男女が出合いをする周囲の池が水を湛

> う。「池水を湛えつつ」がなにか詩文の文句 もので、池の東北岸、弁天堂へ行く道の両側 ある。出合茶屋は男女の密会専用に使われた 取りのような気がするが、不明。 に池に突き出すように建てられていたとい

ふと、きなひやう風を池へ立ヶ廻し ひそーと繁旨をする出合茶や

える。 たたへつつ、鳥は宿す池中の樹」の文句が見 賛。謡曲『東北』に「庭には、池水を

341 御り縁の跡すゞむしのなく斗

鈴虫には(鈴口から殿様を迎えるところから の寂しさをかこっている様子である。なお、 っても鈴虫の鳴くのを聞くばかり、と独り身 山口 奥方が離縁された後は、秋の夜長にな

小栗 賛。礎説の通り、御鈴は鳴らず、鈴虫 表現している。 正妻の意味もあり、妾を轡虫という。 殿のお渡りもなくなったということを暗に 鈴むしハ御寐間淋しく夜をふかし 二三31

の鳴くばかりの意と思う。

路

小西 雄々選



逆上り出来てくっきり丸い雲 逆らわず流れる雲に付いていく 絵ごころを誘うぽっかり白い雲 雲のない富士を車窓に旅は吉 降り立ってみたい眼下の雲の上 百年に一度の暗い雲覆う

予報士もやきもき五月五連休 浮雲を追って極楽ふと感じ 音も無く青空走る飛行雲 元気出せと

入道雲が叱咤する

満月へちょっかいかけるちぎれ雲 不況風浮雲ばかり吹き寄せる お日様が怒ってるらし黒い雪

ルンルンルン雲と走ったスニーカー 月明り雲も逢瀬に気をつかう 故里の空が恋しい千切れ雲 **変憎の雲が流れる炎を抱いて 鍬仕舞い至福の空に茜雲**

見るからに乗れそうな雲浮いている 夕陽が染める雲に浄土を見る思い ランデブー月も雲間に顔かくす

終章の罪の煙は雲が抱き

鐘

とし子 キヨミ Fr. 渋滞の車窓の上を雲流れ

あやめ 志華子 智加恵 雲あかく染めて零戦飛んでゆく にんげんの無様を嗤い雲が行く 雲の向こうに宇宙を駈ける人がいる 世渡りが下手で雲から落ちました 雲掴む話注ぎ合う縄のれん 大不況なまりの雲が垂れている

良い事が続いて欲しい雲動く

悦

子

美しい地球を雲間から念ず

白根ふみ

言葉にもリボンをつけてしゃべってる 若い服リボンを取って母が着る リボンつけ私丸ごと届けたい 果物の出陣式はリボン掛け 魂胆がリボンを掛けてやってくる 校名のリボンが重い優勝旗 新体操リボンがうねる生きている

一惠

御礼の箱にリボンがある誠意 履歴書にリボンをかけて出しておく 獏

沓

さよならと手を振りながら雲に消え

雲だっていい雲悪い雲もある 雲上の人にも悩みあるらしい 雲の峰むくむく五百羅漢像 去る雲に新たな思い追いかける お隣の雲を真似てるクレヨン画 夏の雲ダイナミックに姿見せ 雨雲を歓迎してる田植歌

かつ子彦

1) ボ

左

うろこ雲もう悲しみは増やすまい 雲ひとつ無いので嘘が言い難い 雲一つない晴天が続く危惧 明日もいいことがありそう茜雲 雲一つ見えない妻の退院日 エアポート雲の厚さが気にかかる 西方へ流れる雲の穏やかさ

のり子

扶美代 岳

あずま

日の出 坊 枝 絵画展ひそかに偲ぶ黒リボン

(岩)和

鼓

盛籠の締めはリボンが決めている 大き目のリボンが語る下心

リボンひらひら魔法ひらひら効いてくる 母さんもリボン付けてるクレヨン画 りぼん解く愛を零さぬように解く (久)干 かずみ 欣活

丰

喪章つけ義理を果したお葬式 もうリボン付けたがらない反抗期 泥舟と知らずリボンを着けて乗る 目印のリボンがたよりバスの旅 残念賞タワシにリボンかけてある リボンかてリボンの意地を見せている 本当はリボンが好きな男たち

五月選

許せないことも許した喪のリボン 好みではリボンつきより熨斗袋 式典の型にはまっているリボン 再会の胸のリボンは良く弾み 美しいリボンで届く虚栄心 トロフィーのリボンに僕の自負がある お祝辞の胸のリボンがする欠伸 ときめいた話へリボンかけておく リボン解く手がもどかしいプレゼント 扶美代 凇 時 弘 美順

丘 子 雄

人間は楽器まがいの音を出す

父の樹の高さを知った黒リボン

喪のリボン人徳慕う列に居る お約束リボン結んでおきました 支え合う夫婦が下げた青リボン 飾られたリボンの裏の落し穴

> ばっは 伊津志

里山をぐるりとさくら色リボン 胸のリボンはずし自分をとりもどす 序列なら胸のリボンに書いてある とても清楚でリボンの似合う人だった 悉者はリボンの騎士がやっつける みつこ 岳

裕

之水美

黒リボンつけた写真が裁き聞く 華やいで産着のリボン祖母の背に おおきなリボン付けているのが狸です 髙瀨霜石

> 楽 器

弔いのリボンを付けたユニフォーム

玄 充

プライドが泣いてるゴミ箱のリボン

平尾 菜美選

風子籬風也



ピアノですあなた次第でよい音色 母さんの太鼓で今日も幕が開く 間違いは二の次児らの鼓笛隊 何ひとつ楽器出来ない手をたたく 婆ちゃんのお経に鉦がよく弾み 楽器に負けぬお鍋奏でる味の音 心臓ヘシンバルが鳴る第一報 楽器やでうさん臭そに睨まれる トランペット空に向って無我になり 琴線に触れるまで書くラブレター お隣のピアノ上達してほしい 火吹竹ではない俺の尺八じゃ ノコギリも楽器に変える芸達者

> 弘 はるお

> > 歳月を重ね楽器の音が深い

孫三人おもちゃの楽器迷演奏 楽器など要らぬ優しい君の声 進軍ラッパこの不景気を吹っ飛ばせ 姥桜ウクレレにのりフラダンス 定年になって引っぱり出すギター 終章へ入る打楽器響かせて 楽器とは縁なきままに高齢者 大性の喉を楽器にしたひばり

かつ子

無気力な楽器第九ともり立てる

脇役に今日も徹しているベース

あずま

くにこ 父さんの破れ太鼓も鳴りひそめ 青春はエレキギターのど真ん中 竹山が叩く三味から雪が舞う

奥五

暗夜行路笛吹く妻がいてくれる 生活感がないラウンジのピアノ おきざりの楽器と秋の日を語る 笛太鼓里の祭りが生き返る

日の出

智加恵

オルガンの間延びが好きな音痴です 7 充 子 +

可淞裕 摘子住丘花

ギターなら少しは弾けるお爺さん 孫が吹くリコーダーから夢こほれ オルガンの音色がへばる廃校舎 追憶を奏で続けるオルゴール

爺ちゃんを少年にするハーモニカ シンバルの一喝ほしい偽装劇 琵琶の音に平氏一族蘇る 禁じられた恋ひたすらにギター弾く 議事堂の楽器はずっと調整中 琴の音も消えて隣人病み給う ハーモニカどっとふる里たぐり寄す (稲) みつこ 登美代 芳茂 生代 洋

ね

埋もれ火の恋かき立てる津軽三味 かけまくも笙ひちりきはテープから 岳俊悦哲泰圭 水子子男女郎 朝

-83

和步数室

一 セールス

鈴木公弘

うことでしょう。句意を明確にするためには、 れを確認しておきます。 そうすべき場合もあります。次の句から、こ ールス」や「セールスマン」でもよいかとい このような題の場合、まず考えるのは

=セールスマンと書くべきだった句=

セールスも売れない訳を知っている 克 セールスに持ち上げられた庭の松 幹

定型にこだわって半端になったことが少々 セールスにお茶出し愚痴を聞かす母 セールスに負けず知恵出す電話口 かずみ

原 一台のために街から街を行く

大

朔

売りたいのは何ですか。車ですか。

=「なぜ」の質問に答えられるか=

悔やまれます。

う。句は独り歩きをすると言われますが、そ に答える義務があります。 うであったとしても、作者には句の「なぜ」 無価値に等しいと言わざるをえないでしょ 心情の共有をめざす文芸の立場からすれば、 自分だけに分かる「独りよがり」の句は、

> 原 原 セールスの美人に弱く指輪買う 信頼の象徴としての三つ星ですか。 詐欺の渦三つ星で行くセールスマン 禮 健 子 柳

原 セールスが豊富な知識持って来る でしょうか。 プロの物売りなら当たり前のことではない なぜ指輪ですか。 智 子

ます。そうであるにもかかわらず、あえて今 原 売り込みが下手だったなと今思う られるからでしょうか。 と表記したのは、今のほうが旨いと思ってお 原 ふえてきた墓のセールス齢のせい 原 プライドの値段は気分次第です 川柳は原則として「今」を中心にして描き 墓のセールスが増えてきたのは錯覚ですか。 プライドを売るとは何のセールスですか。 いさお

うがいいと思います。 原 団欒へアリコアリコとやかましい =工夫を要する句= 特定の社名、商品名はなるべく使わないほ 菜々子

原 セールスにセクシー少し添えてみる 孝 釈をされないよう、言葉は厳選してください。 原 セールスで伴侶探した試乗会 セールス・伴侶・試乗会。狂句まがいの解 女性をその方面から喜ばせたいのですか。

> 原 百姓にセールス時代の風が吹く 百姓は差別語。中八です。 正二

=手を加えると整ってくる句=

子

原 振り回す勧誘電話ハイとでる 取りたての馴染みセールス買うりんご ハイと出た電話セールスまだ続く タカ子 開

おなじみの声に誘われリンゴ買う セールスの説明エンドレステープ セールスの説明くるりテープかな 安 子

断ったのにベルはまだ鳴り響く お断り無視されベルは鳴り響く 弘

子

セールスの言葉に試し買いをする セールスの言葉に乗ってためし買い

人を呼ぶ猫がセールス無人駅 人気ある猫駅長に置いてます

初めてのセールス声が低くなる 初仕事セールス弱気声低く ミヨノ

数えたら売れるところのないわたし 自己セールスかぞえだしたら何もなし 文 代

わが子似のセールスマンに甘くなる 子と同じセールスマンに甘くなる ちづる

セールスマン居留守つかわれ石を蹴る セールスも居留守つかわれ八つ当り 弘 セールスの話に従(つ)いていく油断 セールスと話はずんでつい油断

この「セール」は脱字でしょうね。

嘘の無いセール通し不況越え

84

嘘のないセールス不況のり越える

寅さんの売り声を聞く祭り笛 トラさんのセールストーク祭り笛 次 根

セールスへ居留守が上手くなってくる セールスに居留守使いも上手になり セールスマンに負けないほどのお喋りだ セールスに負けないほどの喋べりする 那珂子

不景気に社長セールスして歩く

不景気に社長自らセールスマン

彦

セールスの甘い言葉に落とし穴 勧誘に甘言散らし落し穴 俊

子

ピンポンと鳴らすセールス懲りもせず ピンポンと懲りずに来るはセールスね 生

添 月の土地売るとチラシに書いて出す 原 月の土地セールスしてもいいんだな 憲 人情がからむとセールスマンの勝ち すみれ 司

認めていません。勿体ない句です。 添 人情をからめセールスマンの勝ち

中八です。私は中に相当する部分の破調を

添 セールスマン隣の子似でのせられる 原 セールスマンとなりの子似でのせられて みち代

添 売上高の更新つづく蟹工船 のタイトルでもあるので、破調を認めます。 上省略することができず、現に存在する小説 中八です。下五に相当する部分は、これ以 売上げを更新してます蟹工船

> 売れ口がつかない娘嬉々として 仏頂面の私セールス向きでない 私などセールス不向き佛頂面 セールスへ留守番ですと言い渡す セールスに留守番役に早替り 周

> > 子

ぬけめないセールス保険来る満期 独身を楽しむ娘はつらつと 光

弘

セールスマンへ老犬の血が騒ぎ出す セールスマン老犬の血が騒ぎ出す 道 ぬけめないセールス満期来る保险 美紗子 子

=入選が可能な句= セールスの背なに重たい数字のせ セールスマン背に大きな数字のせ

セールスだとベルを押すたび断られ この親にセールス出来る子が育ち セールスは知恵と力と心意気 セールスが言葉巧みに攻めてくる

セールスマンやっと世間が広くなり セールスの話題三面記事も読む 朝市のおふくろの味つまみ食い この不況セールス辞めて知事になる セールスの熱に絆され壺に落ち ご時世か神様までも売りにくる セールスの電話で冷める晩ご飯 ムチとアメセールスマンの棒グラフ くにこ こずる かずお

> セールスの誘いに揺れるネックレス ||佳句|

智加恵

セールスはまず玄関の絵をほめる 詐欺師らとトップセールス紙一重 たん吉

ピカピカのセールスマンに道を説き 身内から注文貰う初仕事 あと一個と言って何個も売っている 目線追いこれお似合いと売り上手

とびこみのセールス家を値ぶみする セールスの足音さびし皆お留字 棒グラフ世界不況に伸び悩む 買う気にさせるセールスのうまい口 美

にいう「主人」とは作者自身のことであり、 妻が述べた話を川柳にしたものと解釈して、 断りは主人も同じ仕事です 男性の作ですから誤解しないために、

セールスマンおまけの品を先に見せ 推せん句に入れます。 藤岡りこ

セールスの背なに冷たい鍵の音 数少ないユーモア吟

=私の句= うすら寒さを覚えます。

心根を恥じぬセールスマンになる 顔知ってもらうセールスから始め

登載漏れは役員が添削して返送します。)

セールスのうまさに惚れてしまいそう

=今月の推せん句=

秀句鑑賞

同人吟 板 東 倫 子

-4月号から 丁

天災と経済危機と次は何います。

で時事吟について「即興吟としてのみ存在が

麻生路郎先生は著書『川柳とは何か』の中

が生れないとは限らない」と言って居られま

の中にも生命のあるもの、詩味の豊かなものゆるされている現状ではあるがそれらの作品

す。時代性を詠んでいるだけに句としての存

だ一つの被爆国日本に対して、アメリカは責 何も言えないとしか思われません。世界でた も外務関係の人々はアメリカにさえ追随して を食いしばって頑張っているのに政府、中で や台湾まで口を揃えて攻撃してきます。重ね 島をめぐっての韓国との領土問題に、ロシア た毒ギョーザ・毒うなぎ・毒きのこ等々、竹 備対策に日本も出動せよと。中国から輸入し アフリカ・ソマリア沖に出没する海賊への警 め込みながら日本領海への核実験通告です。 あるあの北朝鮮。拉致問題には知らぬ顔を決 のが外交問題の数々です。世界の嫌われ者で 必死に頑張っている国民にとって理解し難い 耐えて居るのに、今度は未曾有の経済危機。 て言いたいのは、国民はギリギリの線まで歯 地震、水害、台風、雪害、連続的な天災に 道

やみくもな政治それでも法治国

ない政治だと囁やかれ出した折柄、前代未聞 他方では企業の不景気による倒産が大量の失 数々に、怒りを忘れて呆れ果てる有様です。 とあらゆる政府関連に携る公僕たちの不正の のは弱者だけなのかと叫びたいほどの中で知 の大不況が日本中を襲いました。痛みを負う り替えても誠意無き役人では我々は浮かばれ て当然です。国会を延長し総理大臣を何人と した。この現状をやみくもな政治と批判され の患者たちにも医療の手が届かぬ事もありま 見られ出しました。出産を控えた妊婦や救急 鎖的に社会では想定外の犯罪が毎日のように 野宿するという最悪の状態になりました。連 業者を生じ、その結果住も食も失った人々が のを発端に国会議員、社会保険庁職員、あり 為でした。埋蔵金(裏金)問題が暴露された った事は、公務員という立場の人達の裏切行 改革政治が痛みを伴って高齢者には優しく

古新聞となって昨日が束ねられ

ません。

う声もあるとの事ですが、詩性や風刺は下卑

時事川柳と川柳文芸とは別種のものだと言

いで一句一句に勉強させていただき感謝してくて素晴らしい数々の秀句に、目の覚める思も多数の時事吟が寄せられています。するどれている世界的大混迷の中、川柳塔同人吟へなものではありません。百年に一度とか騒が

体誰を信じればよいのか。次の災は何ですか。天災と経済危機と必死に闘って来た我々は一任を持って日本に接するべきだと思います。

現在生きている人間社会を詠じるのも大切で

遠い昔やはるかな未来のことにも増して、

はないかとの川柳家の意見にも賛成です。

生活を詠み得る文芸だと信じて居ります。

吟こそ「今」を読む文芸であり、現在私たち

香的であるとも書いて居られます。私は時事在はあってもその生命が刹那的であり花火線

の身のまわりで起きている出来ごとや日常の

どん底に落とされた人々。追い打ちをかけるは一挙に崩壊する脆い楽園でした。一夜にしては一挙に崩壊する脆い楽園でした。一夜にして夢の宴にも似て日本にもバブルを謳歌して事の宴にも似て日本にもバブルを謳歌して

代の人生を見るようで淋しく悲しいですね。代の人生を見るようで淋しく悲しいですね。日本では一次は、すぐに薄れるほど毎日の新聞には社会面一ぱいに信じ難い犯罪が満載されます。ターベル賞やアカデミー賞の嬉しいニュナ。ノーベル賞やアカデミー賞の嬉しいニュナ。ノーベル賞やアカデミー賞の嬉しいニュナ。ノーベル賞やアカデミー賞の嬉しいニュナ。ノーベル賞やアカデミー賞の嬉しいニュナッションが登して東れられば悲劇が起り犯罪につながりまが貧しくなれば悲劇が起り犯罪につながります。

焼け跡が原風景の戦中派

が現代の社会の中でもがき苦しんでいます。

信義も礼節も脈々と伝えて来た日本の国民

に亡びては居りません。肩書きを外して農にあの敗戦にも冷静に耐えた伝統と信念は簡単

カムバックした人。木綿を着て地下足袋を履

かさぬ人も多い。ふる里に帰れば文化の再認り先祖の墓であると信じ、彼岸の墓参りを欠ぶ楽しさを見付けた妻。ふる里の重みは矢張き故郷の風に吹かれる若者。夫と野菜畑で遊

ました。

百年目行け行けドンの総崩れ

ですね。
ですね。
ですね。

識が出来る。若者も子供たちも話し合うほど

過去は過去やはり日の丸美しい

の旗です。 最近では「日の丸」や「君が代」を軍国時代 にあこがれ、遂にはメタボで悩むというコー と言っても日の丸は美しく清々しい。世界一 スルと上った時に日本人は皆泣きました。何 の北京オリンピックで「日の丸の旗」がスル の名残りだと嫌う人がいます。「君が代」は 祭日には日本全国ではためいて居りました。 を反省し昔の生活を思い出すのもメタボのよ りに追われています。少々浮かれていた自分 値上り、株値暴落、等々で四苦八苦のやりく スを経た人達も居りましたが、現在は増税 が上り、一部ではブランドに凝り優雅な生活 をとり戻し世界第二の経済大国と呼ばれるま たすら悲歎にくれていましたが、徐々に活力 大相撲の歌だと言った若者も居ました。先日 いお薬になるでしょう。昔は日の丸の旗が祝 でに回復しました。日本人全体の生活レベル 戦争に負けた日本は暫くは自信をなくしひ

水 煙 抄

―4月号から 高 橋 岳 水

私の事情さておき桜満開に

今年もまた花便りを届けてくれました。自然 ことなく続いております。それぞれの人に、 に感謝すると共に、畏敬の念を深くする。 人間の事情に関わらず、自然の営みは休む

ひと冬のドラマが終わる給付金

げる一助にしたい。 と決まった以上、有効に使って内需を押し上 する総理のスタンスのぶれが目立った。給付 この政策の良し悪しとは別に、給付金に対

白魚の指が耕すプランター

化炭素を消費してくれる。自然に触れよう。 癒しの色で、葉緑素での光合成は空中の二酸 トマトなどを植えてみてはどうだろう。緑は 生活に潤いをくれる草花や食卓を飾るミニ

予感的中はやばや春の使者が来る

ばたいて欲しい。 います。これをスプリングボードとして、羽 で、吉報を受け取る吉村さんおめでとう御座 盤を失い路頭に迷っている人が増加する中 派遣切りや就職内定取り消し等で、生活基

末席の問いが会議を盛りあげる

心の問題も存在する。 主主義の根底であろう。多数決が馴染まない 少数派の意見にも耳を傾けることこそが民 村中悦

病室の灯り落としてから冴える

ます。頑張って。 ことや、来し方・行方などが思い浮かんで、 いるようだ。手掴みの春はもう其処に来てい 頭が冴える。春というのに寒さもぶり返して なかなか寝付かれない夜は、自分の病気の 藤アヤ子

いつまでも若くありたい影法師

質のコントロールも大切だ。 という強い味方がある。さらに血圧や血中脂 ドーにうつる姿と対をなす者だ。外観も然る 事ながら、脳の老化を遅延させるには、川柳 影法師は自分の分身だ。鏡やショーウィン

忘れないように楷書で文字を書く

木村忠義

の几帳面な気持ちをいつも持ちたいと思う。 できないことがある。不注意の誇りを免れな い。意思疎通の観点からも問題だ。「楷書 備忘録に、急いで書いた自分の文字を判読

言い訳はしません弱いから負けた

北村松風

だろう。男らしさがいい。 して、将来に備えれば、必ずや展望が開ける 責任転嫁をせずに、現状認識を少し辛めに

気づかずに言葉の罪を犯してた

と敬語の使用にも気を付けよう。 だ。とりわけ、差別語には注意をしましょう。 身体のハンディキャップには絶対触れない事 ことがある。本人が自覚していないから厄介 日頃、何気なく使った言葉で人を傷つける

文明が真綿で首をしめて来る

大国が二酸化炭素排出規制に消極的であるの けられるようになったが、アメリカと中国の 化に伴う地球環境の激変に、ようやく目が向 を危うくする事態が蔓延しておる。地球温暖 が不思議である。 文明の美名に隠れて、人間の存在そのもの 前田

小 栢 こずえ

I	ツ	セー
		Ш
		柳
太田		0)
昭		眼

るのであって意識的に読む人を笑わせようと 性を、「うがちの句」や「軽みの句」がそれ する駄洒落に近い作品は感心できない。 が加味され、結果として「おかしみ」が生ず ないだろうか。穿ちをベースに、軽みの技術 ぞれが単独に独立すると考えるのは誤りでは 世界でもっとも短い定型詩である川柳の特

なく、しみじみとした味わいと深みを感じさ て欲しいといつも考える。 に湧いてくるユーモアを感じさせる句であっ に考えるつもりはないが、深みがあり、自然 景描写に過ぎない句などがまま見られる。 しいだけの句、新聞の見出しのような句、風 落語で言えば拙速な「トントン落ち」では 私は、必ずしも柳多留と現代川柳とを並列 最近の各句会における作品にも、ただ可笑

> もった観察と表現が必要に思える いくつかをご紹介したい。 ここに、私の心に残る川柳に関する名言の 川柳をつくるためには、やはり川柳の眼を

(吉川雉子郎 川柳作家後の吉川英治 一度川柳と言う表現を知った者は、 おのず

した批判洞察の気分を持って創られた句とな 目をである。その目は、すべて川柳を基本と る。美術家の目、文章家の目とは又一つ違う って表れるものだ。 から川柳眼と言う目を持って来る。 川柳には、川柳独特の社会感と自然観があ

秋田実大阪の生んだ漫才作家 漫才のネタの見付け方のポイントは、 まさ

に川柳の材料の掴み方と同じである。

日常生活をよく観察する。

更に拡大鏡で見つめる。

そうして良く考える。

川柳作家

よって、その対象から何かを吸収し、句を作 だと思う。 る動機、つまりモチーフが生まれて来るもの である。対象をよりじっくり見詰めることに 川柳とは、自分を含めた人間を見つめる詩

田口麦彦 川柳作家

世の中に、川柳は作らないが、川柳的発想

文芸の真髄なのではないだろうか。

せる、「考え落ち」のような作品こそが川柳

ずある。一方だけが正しくて他の一方は切り ている。 馳せる物の見方、これが川柳的発想だと感じ ないだろうか。生きとし生けるものに思いを 捨ててもよいと言うものは一つもないのでは れない。ものごとに光があれば陰の部分が必 のようなものに憧れを感じる人が居るかも知

橘高薫風 川柳作家)

ならない。文芸は、常に変化を求め、先人の 要で、相互の関わりと相違を理解しなければ 分自身と現代を作品にしなければならない。 踏襲に終ってしまってはならない。川柳は自 (種田山頭火の魅力) 川柳をするには、他の短詩文芸の要素が必

うどん供へて、母よ、 わたくしもいただきまする

苦い想い出も、日記と共に焼き捨てると 焼き捨てて日記の灰のこれだけか」

こえて詠まれた句に魅かれる。 わいを感じさせるこの作品に魅かれる。 残り灰程度の僅かなものでしかない」。 定型に飽き足らず、敢えて季語やリズムと言 った俳句本来の形に拘らない、堅苦しい枠を 山頭火は、後年雲水姿で各地を放浪し続け、 私は俳句であって、憎らしいほど川柳的味 如何にも山頭火らしい無季俳句である。

エッセ川柳と俳句

めるようになったと言い伝えられている。の川柳に付き合っているうちに、字が少し読た。当時字の読めない人々でも、ご隠居などた。当時字の読めない人々でも、ご隠居など涯学習と言う点からみれば大事な存在であっ

思う。 成より考えれば文化として素晴らしいものと 戸の川柳になったと言われる。当時の社会構 呼の出物になったと言われる。当時の社会構

俳句はイメージであり、その像を心に描くこ 変の歌が主で、消息を通じ合う意である。こ 変の歌が主で、消息を通じ合う意である。こ 変の歌が主で、消息を通じ合う意である。こ 変の歌が主で、消息を通じ合う意である。こ の歌の世界では、万葉集の『相聞』は恋 が、にたいして挽歌は死者を哀悼する歌で、万 な恋で、相聞・雑歌とともに部立ての基本で は恋 が高。こ がはなにか、俳句とは、川柳とはとい 短歌とはなにか、俳句とは、川柳とはとい

宿る霊的な力は隠されている。 現で伝えようとするイメージがあり、言葉に

には、 には、 には、 には、 には、 になり、 になり

俳句や川柳では五・七・五が現在定型とされているが、漢詩からみれば音数が決まっているだけである。五言絶句・七言絶句にしているだけである。五言絶句・七言絶句にしても行数は決まっているが、四行で書いたからと言って絶句とは限らない。押韻という点からみれば、俳句・川柳共に全くの自由詩である。 定型はなんだと考える場合、自由律俳句が生まれるまでは定型という概念はなく、はじめに定型ありではなかった。無意識のなかでめに定型ありではなかった。無意識のなかでもまれるまでは定型という概念はなく、はじちれていたため破調もあり、あまり煩くいわなかった。

った。

もう一つ『押韻』の点よりみれば、日本のも・一つ『押韻』の点よりみれば、日本の五・七・五には韻がないかというと、そうでるないが一行詩で同じ音だと強すぎてしつこもないが一行詩で同じ音だと強すぎてしつこく感ずる。このためかどうか、西洋の人々がはのない詩をうけいれていることを忘れては韻のない詩をうけいれていることを忘れてはならない。韻と似て非なるものに俳句は「連鎖」がある。同音連鎖と同行連鎖がともに使鎖」がある。

平成19年は初代柄井八衛門川柳が江戸で立なものは切り捨てる当時の江戸の精神であった初代川柳のように、江戸中期の封建社会に湧出した表現形態ですが、非常に知的で合に湧出した表現形態ですが、非常に知的で合に湧出した表現形態ですが、非常に知的で合いが、非常に知りを採机してから満二百五十年であった。実名を採机してから満二百五十年であった。実名を採れしてから満二百五十年であった。

という。 では川柳は切れ字を捨てている。 では川柳は切れ字を捨てている。切れ字と言っ主情・主観の思いであり、「けり」や「かっま情でな」「や」などは、それに感動していることな」「や」などは、それに感動していることな」「や」などは、それに感動している。 切れ字と言いる。 切れ字と言いる。 では川柳は切れ字を捨てている。 切れ字と言いる。

第 33 回 全日本川柳2009年札幌大会

会日 京王プラザホテル札幌 2F エミネンスホール 平成21年6月28日(日)午前10時開場

◎事前投句締切りました 新千歳空港駅からJR札幌駅(快速エアボートにて約36分) 札幌駅より徒歩5分〒600-600 札幌市中央区北五条西七-二-一「և」01(27) 0111

第二部(当日投句、 11時10分締切)

参加費他 四、〇〇〇円(参加費二、〇〇〇円、昼食他二、〇〇〇円) 今川乱魚・大木俊秀・佐藤岳俊・田口麦彦・森中惠美子 各題二句当日配布の句箋に記入 「走る」西出 楓楽 選 自然」島田 駱 舟 選

(1)文部科学大臣賞 (2)参議院議長賞 (3)川柳大賞 (4)大会賞

<表彰式典・前夜祭ご案内> ジュニア部門は賞状とメダルを予定

◎前夜祭 ◎表彰式典 (功労者・大会十年連続出席者・川柳文学賞) 平成21年6月27日(土)午後5時半

表彰式典後、 全日本川柳札幌大会実行委員長社全日本川柳協会大会委員長 同一会場で 石井 有人

宿へ宿泊 観光ご案内>

京王プラザホテル・札幌グランドホテル 他 航空・宿泊パックもあります。 宿泊料金・一泊朝食付・税込み 11、 000円~16、500円

日観 時光 ▽旭山動物園・世界遺産の知床を訪ねる札幌駅北口 鐘の広場 12時集合 最少催行人員 6月27日(土) 12~17時 ▽運河と硝子の街 小樽を巡る 3、500日 35名様

宿泊・観光申し込み・問い合わせ先 6月29日(月)~30日(火) TEL 011 (242) 1167 トップツアー株 ご宿泊ホテルへお迎えに上がります。 札幌支店 30,000E FAX 011 (222) 4357 担当者·岡本

お 願

|||柳塔社では2010年][[柳雑誌』 Щ 柳塔』 通巻 10 月

1000号記念大会開催に当り 『麻生路郎読本』(仮題)の出版

を予定しています。

お持ちの方は 或いはどんな些細な情報でも、 麻生路郎に関する書簡 川柳塔事務所まで ・写真

します。

ご連絡下さいますようお願い致

Ш 柳

塔

社

06 - 6779 - 3490

本 社四月句会

ア ウ ィ ー ナ 大 阪四月七日 (火) 午後五時半

お話は木本朱夏さん。楽しいオノマトペー酸試供品が配られた。 はじめにゴマのオニザキから新商品席88名。はじめにゴマのオニザキから新商品席のサンブルとして、ゴマエキス入りの洗顔石のサンブルとして、ゴマエキス入りの洗顔石

った。

(受付―美花・ふりこ)(清記―光久)(司会―美籠・昭)(脇取―蕉子・扶美代)(司会―美籠・昭)(脇取―蕉子・扶美代)の出席に田浦實氏(大阪市)を迎える。楽しいお話を結ばれた。

トペをみつけて新鮮な川柳を作りたいものと

席題 「ピンチ」 籠島 恵子選

飲み会のピンチヒッターする女房 エンマさまにウィンクされているピンチ 隅っこのピンチに神の目が止まる 急患がたらい回しされている のろのろと生きてピンチを躱してる イチローは野球以外でピンチです ビンチこそ己の腕の見せどころ ピンチにも言い分がある骨密度 代読の祝辞に眼鏡掛け忘れ 負け将棋ごはんですよに救われる 少子化の画布に明日の絵が描けぬ ピンチには弱い日本を見た誤報 どうしよう影がだんだん薄くなる ライバルのピンチがわたくしを試す サクラサクうれしいピンチ孫がくる 身内から二の矢三の矢飛んでくる 絶体絶命白馬の騎士がまだ来ない 古時計止まったままのピンチです ゆで玉子つるりとピンチ切り抜ける 自給率出生率も大ピンチ 扶美代 紀桂 真理子 扶美代 希久子 直 良 好 月 月

ピンチには闘志男の貌になる 正 雄ピンチには闘志男の貌になる 歴 仏 八一トマークのメールを妻に覗かれる 幸 雀 ハートマークのメールを妻に覗かれる 幸 雀 ピンチからふつふつ湧いてくる闘志 集 一ピンチからふつふつ湧いてくる闘志 集 一ピンチからふつふつ湧いてくる闘志 集 一ピンチからふつふつ湧いてくる闘志 集 一時だってピンチに鼓動早くなる 恭 昌 特だってピンチに鼓動早くなる 恭 昌 はい遣いずっとピンチが続いてる 勝 弘 お小遣いずっとピンチが続いてる 歴 は 千 代 入院の母より父さんがピンチ

せいいっぱいピンチヒッター努めます ふりこじっくりと月と相談するピンチ 哲子ピンチには強いお方がそばに居る 弘 風あと一球胸で十字を切るピンチ 恭 昌ヒマワリは上向いて咲くピンチにも 靖 鬼

地 はだのピンチを越えてきた度胸 朝子

天 とりあえず看板替えてみるピンチ 体

本当のピンチ親には泣きつかぬ シマ子

兼題 「黄」 近藤 一さくら満開ダブルビンチになっている

老妻の黄色い声に飛び上がる 時雄 東題 「黄」 近藤 正選

春うらら空は黄砂と花粉舞う 玄 也老妻の黄色い声に飛び上がる 時 雄

雑兵をまず切り捨てる社のピンチ

卵焼き大事に残す戦中派 花粉ゼロ黄砂ゼロなら涙ゼロ 黄ばんだ手紙が過去に連れ戻す たっぷりの汗黄ばんだシャツにある誇り 黄金の涙流して亀は産み 菜の花の向こう遍路と青い海 戒名を付けて黄泉への旅支度 黄ばんだシャツ農の誇りが滲み出る 連翹が迎えてくれた小さな門 胃の痛み神のイエローカードかも 孫達の黄色い声が背を押す 黄信号ばかり渡ってきたような 大師と二人菜の花島行く遍路 くちばしの黄色い主張聞いてやる ひまわりも時には赤く炎えたかろ アバウトは嫌い黄色い薔薇が好き 晩酌もイエローカード不況かぜ 究極の黄色は母の卵焼 黄信号地球に点す温暖化 黄水仙咲いてやさしさとり戻す 黄昏てご都合主義の派遣切り 菜の花を見るたび司馬遼偲んでる 待つ人に愛の目印黄色布 寄せ書きの黄ばんだ旗に父が居る 縫い直し孫に着せてる黄八丈 地球家族黒白黄色皆仲間 人生の節目に点る赤青黄 面の菜の花浄土かもしれぬ 本の菜の花部屋を引きしめる 日の出 弘 みつ子 いわゑ 郁 ルイ子 俶 瑠美子 風 久 代 朝帰り女房の吊し上げを食う もうひとりの自分吊して見ています 御守りを吊るピカピカのランドセル 吊り下げた洗濯物が愚痴をいう 忍耐が甘さを増やす吊るし柿 虹の橋黄色が芯で威張ってる まわりみな黄色に染めるゴッホ ハンガーに今日の疲れを吊るしてる キャンプ場で孫に見せたい蚊帳を吊る 吊橋を避けたプランの旅を選る 枝先に枝を折るなと吊す札 風鈴にゆとりを吊るす季を吊るす 鼻先に愛を吊られて走ってる 部屋中に洗濯物を吊りひとり 吊り広告車中の暇を紛らわす 自給率黄金の波で高めんか 談合に山吹色が透けて見え ひまわりの海に沈んでゆく夕日 黄八丈で迎えてくれた島娘 黄の旗で車が止る通学路 たんぽぽが天を仰いでいる平和 満たされて心 黄色いサクランボ 九条も黄なハンカチがとても好き 兼題 吊る 点 みつ子 いわゑ 耕 月 耕 朋 賢 鐘 好 佑 花 子 治 州 子代 忠 造 月 鼻先にセレブは自尊心を吊る ぶら下る蓑虫だって風をよむ 宙吊にしても足りない憎い人 余生夫婦の真ん中に吊る妥協点 吊り革に体あずける終電車 甘言を吊るして憎い猪口に酔う 首に吊るノーベル賞の誇らしさ てるてる坊主必死で吊るす花見酒 吊り革を持って痴漢でない証 メタボでもいいかサスペンダーに凝る 吊り革が欠伸している昼電車 赤い糸ときに吊ってはより戻す やっと春服もわたしも陽に吊るす まぼろしを一つ吊るして風を詠む 物干しに色増えました春休み 群集の中に淋しい顔吊す ズボン吊りが似合うお腹になっている 退院日背広を吊って待っている 私の一句を探す通り抜け 五線譜におたまじゃくし吊る春だ ベランダに身ぐるみ吊すわたし色 吊り広告脳のおやつになっている ハンガーの服でも買うか給付金 十字架に吊り下げられている浮気 頸椎の治療に首を吊ってます ハンガーが今日の疲れの重さ知る 奥五 (失) 希久子 ルイ子 恭 富美子 真理子 千枝子 月 千枝子 雄 月 月 昌

吊しあげのライバルの名を解く花見 天 寿 子

「気まずい」 黒田

裏切の憎悪心の壁に吊る

ジョークちりばめ気まずい流れ替えて春 受け売りの話はみんな知っていた 次の方と呼ばれてまちがわれたカルテ ご着用とは知らずアデランスの話 親友で一人の人を好きになる 他人様に言えない場所で鉢合せ 核心に触れて気まずいお茶になる ごめんなさい貴方を疑ったりなんかして ひょっとして昨日は君の誕生日 お名前を忘れ気まずいご挨拶 ライバルと知らず並んで座らせた タンスには気まずくなった服がある 譲られた席空いたまま淋しそう 気まずさを隠してお茶を入れ替える 気まずさを打ち消すわざとらしい咳 新札を入れてしまったお香典 反対はひとり気まずい手を上げる 核心を突いて行き場のないジョーク 気まずいがライバルに聞く裏の道 お節介過ぎて気まずい仲になる 気まずさも遠慮も溶けてルビー婚 すみませんでしたが言えてない出合い 失言へ満座の白い目が刺さる シマ子 ダン吉 富美子 真理子 瑠美子 鐘 直 保 いさお 賢

> 気まずさへ下手なジョークが宙に浮く ごめんねが言えず二つの仏頂面 モンタージュに似ると他人の目が刺さる 現状に馴染めぬ異分子がひとり これだけは言ってはならぬ事を言う どちらが勝っても気まずくなるだろう もう三日口利かぬ夜の木の芽和え 諍こうて妻はまるごと貝になり 言い訳が下手で尻尾が見えている 気まずさを顔に出さない苦労人 口裏を合せた秘密洩れていた ひと言が気まずく友を敵にする プライドが気まずいムード呼び起こす 朝 良美 公 司 一籠子 代 誠里風

夫婦箸ちょっと気まずい位置にある 扶美代

振り向けば噂の人が輪の中に

東

吉

菜の花の海に気まずさ捨ててくる いわゑ

気まずくて近くて遠い人になる 知 川端

歩選

今こそは知恵出し合えと天の声 あなたの手握れば知恵がわいてくる 主婦の智恵追い越して行く物価高 生ごみに人とカラスの知恵比べ 西鶴の世から浪速に生きる知恵 瑠美子 たもつ 准 雅 也

> 失敗も成功も食べ育つ知恵 ニトロ持つ知恵は忘れぬ命綱 知恵の輪があっさり解けた落とし穴 防空壕の知恵ミサイルに役立たず 努力とや知恵も及ばぬ力もつ カルチャーで知恵熱出した喜寿傘寿 核ゼロへ知恵を問われているヒト科 いさお 則 いわゑ

花も樹も大地も少し知恵を持つ どんどんと知恵ふやしてる広辞苑 税金をジャブジャブ知恵のない話 人生という知恵の輪がまだ解けぬ

土壇場でいつも借りてる妻の知恵 文殊の知恵チームワークで切り抜ける 無い知恵を絞って今を生きのびる

核と核なんとも知恵のない話 智恵袋今日はやさしい色を出す 知恵の輪が焦る私にジレている アングルを変えて絞れば湧いた知恵 灰汁抜きのコツをテレビに教えられ 先人の知恵は心のよりどころ

お袋の知恵を小出しに生きている 貝になる智恵も時折使います 美しい地球を残す知恵さぐる 世渡りの知恵がもらえる酒の席 限界がきてから絞る知恵袋 満面の笑みで悪知恵働かす 美朝朱満光 水月雀子楽水芽花籠子夏

勘助が一人もおらぬ小沢さん 知恵しぼり寄り集まってまいど号 大敵へ数で挑んだ蟻の知恵 賢子 富美子 扶美代 真理子 勝弘 章久 ルイ子 直 いさお 子

欲からむ知恵はどこかでほころびる 風

知恵ついてまだ損得のない瞳 胡桃ほどの脳から知恵を絞り出す 絞ったらまだ出てきそう老いの知恵 青くさい意見も平和守る知恵

満ち足りて暮らしの知恵が退化する

ワークシェアしてリストラはしない知恵

尚

貧しさの中で生まれた生きる知恵

蹴躓く度にふくれる知恵袋

富美子

六法の知恵も借ります派遣切り

河内

デパートの試食めぐりが癖になり さりげなく集めています試供品 ご自由にどうぞに暫し手が出ない 母さんの愛は無限に湧く清水 なに一つ無料のものはないのです 無料だと聞いて並んでみることに なる程と思うただにはただのわけ 故郷はただで泊れるええところ 無料だと言われニンマリしてしまう 露天風呂お猿は只で入れます 加お里 ルイ子

名水が飲み放題の石清水

敬老パス閉じ籠もるなと背中押す 無料パスみんなお辞儀をして降りる

霊園へ弁当付きで招かれる

たもつ

遊園地親は無料にしてほしい 罠だとは分かっていてもただの酒 無料パス貰って元気取り戻す 高飛びをする券二枚くれはった 無料パスに隠した歳をばらされる ただ切符当るようにと葉書書く ハイブリッド税金タダで走れます 蕉 子 千枝子 昭 正 鬼

キセルという字を死語にした改札機 据え膳を食わされ高いものにつき いたずらテレ料金あんた持ちやのに ルンルンと敬老パスの初使用 ほほえみは無料みんなに差し上げる 祝い酒見知らぬ人も御相伴 軒下を毎年ツバメ借りにくる 美智子

ロハで飲む酒はピッチが速くなる ただ酒に悪の魂胆溶けている 不器用でもぬくい介護のボランティア 返信に切手不要と書いてある ただと言う話に耳が立ち止まる 大好きな朝が無料でやって来る 無料配布二度も並んだ花の苗 瑠美子

駅前でもらった種が花をつけ 報奨の要らぬ笑顔でボランティア 開店の粗品苦労が詰めてある おへそには拝観料は要りません 卓 子 美雄

ただの内しっかり吸っておく空気 お代など取らない語り部の矜恃 三宅 鐘 造

当選の晩 新幹線無料

NHK生涯学習フェスティバル 第18回能美川柳大会作品募集

事前投句の課題と選者(各題2句) 7月11日 (土) 1時~4時 石川県能美市根上総合文化会館

青い」久崎田甫「煙」高塚夏生 雑詠」大木俊秀・森中惠美子

当日投句「蛍」 八木孝子「握る」山田圭都

寿子

好

○投句要領 専用の投句用紙 (無料)を請求 投句締切 5月15日 (金) 消印有効 雑詠のみ2句1000円 雑詠と課題「青い」「煙」の計6句2000円 「下五の役割~その言葉と形を考える~

○賞 各題毎に特選(賞状と楯)秀作(賞状)投句用紙請求・問い合わせ先 特選句の中から大会大賞(文部科学大臣賞候補

〒186-8001 (住所の記入は不要 042-572-3151 NHK学園能美川柳大会事務局

95



毎月24日締切・35句以内厳守

編集部

忍耐で咲いております寒牡丹 ちょっと拗ね彼氏の心確かめる 拗ねられて苦言聞くのも介護です 支持率が落ちても拗ねる気配なし 伝統を一途に機の一軒家 わかってよ一寸拗ねてるデリカシー 派遣には理解出来ない天下り

幸せの形ここにも寒卵 寒風にサヨナラ梅を見ています 青年の特権一途に振るタクト

ウイルスが拗ねてこわした愛ひとつ 寒牡丹キミも堪えるかこの不況 時々は拗ねて貴方を確かめる 途さもやがて重荷の倦怠期 惠美子 ふりこ

拗ねる子をにっこりほぐす聞き上手

アルバムも未完のままの遍路旅

ロスタイムきっと何かが起こりそう ハズレという予感が当たる不仕合わせ

かずみ

夢を追う少年の目にある一途

とし子 久 弘 郎 手探りで触れた形は拗ねている 忍び逢い蛇の目にひらり牡丹雪 寒々と人のこころの裏を読む 大輪と信じきってる牡丹の芽 **追行の哀れを包む牡丹雪**

ぞうきんで拭かれプライドだだこねる 牡丹雪静かに胡弓聞いている 絶頂の頃の写真だ目が一途 腕組んで心を寒さから守る

アルバムを開くと借りたままの恋 アルバムにチーズの欠片落ちてい アルバムのところどころに渇水期 家族とはアルバムが今問いかける 和歌山三幸川柳会 登美代 純

夏

寒風を赤提灯が中和する 談合も一緒に煮込む牡丹鍋 縄文の杉が宿して来た一途 真盛りのぼたんは返事したがらず 石光寺の牡丹に逢いに行く懐炉 寒の水ごくんとダッシュすることに 節くれた指が一途に鶴を折る 寝ては夢一途な恋を持て余す 寒風に貼らないカイロ貼るカイ D

真理子 成 美千子

のりこ 古アルバム繰る手に鼓動まだ残る アルバムのひばりと昭和口遊む アルバムの祖母はいつでも正座して アルバムに旬の私が光ってる アルバムの抜けたページに火の匂い あのときの嘘がアルバムから転げ 戦争も平和も語る写真帳

アルバムに悲喜こもごもの詩がある アルバムのページ占領タマとポチ ほっぺにチューばあちゃん好きが貼ってある これが爺孫アルバムに不思議がる 剥ぎとって忘れられなくなった顔 起世子

コンパスの一途に北を指す律儀

飛べそうな予感しっかり助走する 来る予感するのわたしの福の神 宝くじ当たる予感があったけど 良い予感外れ覚悟で攻め姿勢 墓穴掘る予感大樹の陰に入る 一次会でデュエットしよう若作り

ひょっとして会える予感の橋渡る ビビッと予感胸の扉を開けて待つ モナリザに似たほほえみにある予感 賀代子 かず子

何かある妻がですます調で言う 第六感冴えてる妻の主導権 いい予感南の部屋のガラス越し

- 96

桂 元

逆転を上手にされていた夫 駅伝へ特等席の窓がある ちびた筆だけどまだまだ離せない 百歳の筆のまるさよあたたかし 竹の里筆を一本買うてくる 鬼は外逆転させぬ豆をまく 逆転はさせない意地を見せる背 逆転をすれば球場湧くでしょう 予感したとおり鼻緒が切れました 人が好き心の窓を磨きます 反省の拳

こころの窓を打つ ある日ある時窓から月が落ちてくる **純景をスパッなんと贅沢な窓よ** 窓からの景色ふるさとはいいなあ 窓を開け今日の段取り考える 濃淡で色も時空も描き分ける 般若経筆に心を見透かされ 梅酒ビンレシピに温い亡父の筆 またしても母ニコニコと負けて勝 躍動の逆転劇を見る涙 ムズムズと春の予感は鼻先に 百発百中予感当たれば怖かろう 議題見てきっと揉めるという予感 人形の眼を描く筆の鼓動聴く 太虚報 淑 千代美 比呂子 正 み 准 子 年 代 ね 思い切り心の鬼へ豆をうつ 庭先の鳥とデュエット楽しいね うきうきと土筆は踏まぬ春の靴 飛ぶ鳥を落す力と欲しい運 あれこれと鴉に負けぬゴミの箱 来れば来て来なけりゃ淋し庭雀 背を丸め豆の選別日溜りで 煮豆さえ圧力なべでスピード化 まだら呆けとうとうきたかひとり笑う 棘があるから薔薇はうきうきするのです 如月の枯れたたんぽぽみいつけた 歯が動く年のせいだと皆が言う 飴にまでちゃん付け関西人やさし 鉛筆と消しゴムもって欠伸する 梟の声聞き安堵村の春 カモメ鳴く連絡船の着く港 ふっくらの煮豆が好きと喉が言う チューリップ活けて明るい部屋にする ミステリーページめくる手止まらない 春よこい頭ひょっこりチューリップ 日曜日親子三人ネコ二匹 人生のシナリオ母の姿追う 松露川柳会(鳥取 ローズ川柳会(大阪) 山崎 小西 雄々報 君子報 トミエ みつ子 君 厚 江 穂 子 子 子 枝 枝

佳句地十選(4月号から

地雷など埋めて地球よすみません よかったねいつものように今日が来た 丸かじりリンゴー個の小宇宙 母さんの嘘は従うことにする さらさらと達筆で書く借用書 矢印の方へ逃げたら落し穴 羽衣をかける松の木植えてある 主役から降りて舞台がよく見える 老人も無駄に生きてるわけじゃない 贋作と分かり気楽になった花器 Ш 本 義 みつこ 比呂子 宇乃子 美千代 ヨシ枝

鳥の巣に紳士の靴を見て帰り 雄々絵画展飛びだしそうな小鳥の絵 静江渡り鳥きても過疎へは嫁は来ぬ 智恵子渡り鳥を吸うた小鳥とびたつ今日も晴れ 正 光陽を吸うた小鳥とびたつ今日も晴れ 正 光

川柳塔みちのく(青森)

小寺

 健康法男を吸って吐いて吐いて
 和香子

 神様に子を授かりし宮参り
 洋子

 猛勉強を時々はする女学生
 柳子

 猛勉強を時々はする女学生
 柳子

 無人駅ときどき馴染みの風が来る
 呑舟

年金の暮らしゆさぶる税の音 スリムでもメタボでもいい元気なら バースデー冥土が近くなっただけ 志げ緒

蝉の殻ときには空気読んでいる

あすなろ

ときどきは洗いだした脳の錆 写経して朝の御飯が呼んでいる ときどきは善人となるボランティア 父の背とときどき墓石よく洗う ときどきは青い苺と添い寝する 遺産分け利口な嫁は席を立つ 野仏の帽子は祖母の手製なり 人暮らしときどき子孫尋ね来る 花 ふさゑ 雅 風

> リーダーがしどろもどろだちょっと待て 世の中がスリムになっていく怖さ

茂登子

はつ江

中立をしっかり守るスイス国 孫ほめて嫁の機嫌を取り結ぶ 雑草だった頃をときどき思い出す サラフレッドのスリムな足に無駄がない ちょっと待て絡んだ糸が解けな 年金が欲しくてこの世捨てられず ちょっと待てその先言うと落ちる極

ちょっと待て国民の声聞いてるか ちょっと待てと元の総理が声荒らげ 生きるしかないなら生きて見せましょう 青い目の孫にサンキュウだけ言える 外交はしわさ比べのせめぎ合い

ちょっと待て癌でも死ぬと限らない

毅 夫

別居しても離婚するのはちょっと待て 年金でマンション二つ買いました 支給前スリムな財布持ち歩く ちょっと待て壁も障子もある部屋だ

岸和田川柳会(大阪

いよやかで狐狸も一緒にいい湯だな 房枝報

いよやかへ来てみりゃ何と極楽じゃ

新緑を丸ごとあびて露天風呂 皿の上焦げた魚の自己主張 サラ金で焦げ付かしてる雪ダルマ 六郎の絵赤い兵児帯下駄をはき 未亡人いつも庭には男下駄 下駄タップ北野映画のエンディング きしせんの出前掲示に人だかり 温泉で妻が美人に変身し 奈良の夜を焦がす修二会が春を呼ぶ 下駄箱で欠伸しているハイヒール 高下駄が闊歩していた学生街

始めから焦げつかす気のマルチ犯 太鼓の音胸踊り出す山車の町 スカートにいたずらをする春の風 尻もちでやっと止まった初スキー ささいなこと忘れなさいと日が昇る 茶柱が立った立ったと見せに来る 同窓会ささいな過去で盛り上がり ありがとうその一言がバラ色に 小石一つたてたさざ波無視される

生き延びて四季折々の花に酔う シーズンインまだかまだかと釣道具 たもつ 司

緑

寺の寄付最後にしとくしわい奴 真実をまた札束がねじ曲げる

美恵子

年金に喜怒哀楽を垣間見る

ああ不況会社だんだんスリム化す 時の音また年金をへずるのか 来た頃はスリムだったが今メタボ お早ようの笑顔は今日の潤滑油 変人の口は健在しわいなあ

徳

ちょっと待て補聴器つけるいい話

人間は勝手スリムな牛買わぬ

言い訳の語尾はスリムになってゆく 毒舐めてしわい私になりました 窓あかり幸せそうな色でつき 年金で僕の葬式なら出せる

火を吹いて藁人形は釈迦になる お利口な顔で詐欺師はむしり取る 形勢を見極めてから振る尻尾 先祖から続く仏に手を合わせ

川柳ふうもん吟社(鳥取)

夏目

洋

東大阪川柳同好会 森下 愛論報

麻生さんそろそろ決断する時よ

言葉尻そろそろ別れ予感する

グループの賢い人に肩がこる 喜びを後でゆっくりかみしめる 永遠の宝と思う父と母 地図頼り旅のグループ羽根伸ばす

喜びを隠せぬ顔を持て余す

高知川柳社

画用紙の白が生きてる雪景色 美しい雪山に散る人惜しむ 高速が早や足止めに土佐の雪

タイプだな着物の似合う粋な人

介護する素顔が似合う束ね髪 善人へ似合わぬ顔を持ち歩く

三重子

冬晴れへ汚れた心洗いあげ こころ掛け次第で人が変わります

かね子

再婚の話そろそろ春近い

あや子

シマ子 夫 風雪に耐えた樹木を仰ぎ見る したたかに白にこだわる雪の意地 雪降る日なぜか嬉しい土佐育ち

争いを悲しむように雪が降り 偏差値に揺れぬ机で基礎固め わたくしが素直になれる白い 旅立ちへ雪降りしきる葬の列

美弥子

川柳らくだの会(鳥取)

旅ひとり行く先先の酒の味 酒好きの父を憎んだこともある 胸奥の慕情ひとつと飲んでいる 絶頂の人気へ去り際の見事 ひとときを暖めたくて縄のれん お似合いの二人に訳がありそうな 無印が似合う若さという自信

酔うほどに呂律がまわらなく愉快 飲み会はすんなり決まるいい仲間 グループの支えがあって老いを生き エリートを揃えてみたが内輪もめ 水遠の誓い輝くくすり指 邦 富貴子 大

晩学の机に小さい重ね餅

青春の机の中にある秘密

土俵でのガッツボーズはいただけぬ

政治家の牛歩採決じれったい のそのそと牛の歩みを見直そう

山また山越えて気楽に弾む毬

小川てるみ報

引継ぎの明日へ机光らせる ちゃぶ台も支えてくれた日の苦学 事務机汗と涙の古戦場 苦楽を共に幾星霜の古机

てるみ

川柳塔わかやま吟社 卫 大輪報

せつ子

寿賀子

告げられず水割りに溶く火の想い 武器持っていると短気になるのです 気短な男が好むサカナ釣り

冬枯れを耐えて紅梅春を告げ

ソロバンを弾いた事は告げられず 告白に偽装表示はないと言う 嬉しい日告げる仏壇灯も揺れる 潮時を告げる世論へ背を向ける

大雪原還らぬままの冒険家

三千世

妻が留守気楽どころか忙しい 終のバス勿体ないね一人つ切り

発泡酒にわたしの気楽嗤われる 山村入学ひろびろ響く児等の声 パノラマが開けてとけたわだかまり シーズンオフひろびろしてる甲子園

気楽です雑魚の仲間で群れてます 常温で今日一日を生き延びる その時まで気楽にしろと言われても 淋しさと気楽が同居してひとり 感情線よ少し気楽になれないか

人生芝居こんなに短かかったとは 喝の短い怒気にふるい立つ

めぐみ

宇宙から見れば短い命でも よしこ 真里子

-99 -

菰かぶりこころほのほの寒牡丹 ほのぼのと心に温い善意の輪 ほのぼのの器が人を放さない みーつけた土手の土筆と小半日 小沢さんチェンジチェンジでオウンゴー 輪切りした脳にまさかの隙間あり 若い芽のジャンプピョコピョロ夢無限 風車回りはじめてから走る 歯痒さは急きも慌てもせぬニート 三猿で気楽な振りをして暮らす 気楽さが心の襞をかるくする 気まぐれに芽を出してみる零れ種 爛漫のふところまでも桃さくら 帯芯へ自信をつなぐ博多織 心身と共に鍛えるジャンプして 脳内を震わす蝶からの誘い 一円を大事にためている小瓶 実印が夢と不安に震えてる 気楽ではないノラ犬もノラ猫も 給付金ぐらいで気楽にはなれぬ 気楽人命を今日も竿に干し マイペース気楽な亀の自負がある ふらり来て夕陽と話しこんでいる 人生の曲り角から出る魅力 尾市民川柳会(大阪) 宮西 弥生報 扶美代 加央里 あかり いさお 富美子 紀久子 ほのか 裕 小 風 子 雄 雪 生と死の重みつらつらおくりびと 骨董が好きで偽物つかまされ 首の皺やはり女のネックレス さすが祖父曲った道はそれなりに 招かれて義理を返して安堵する 遺産なしややこしいことおこらない ややこしい話に耳は貸しません スキップのリズムは孫のスニーカー 主語述語とばして妻が喋り出す 手引書は読めば読むほどややこしい リズム感胎児の時に身につける 招かれたお茶席悩む膝頭 手招きでそっと耳打ちした機転 リズムよく生きて一日元気です ややこしい捕物ごっこ検察庁 春よこい予定にうまるカレンダー 政局はどちらへ転ぶ日々変化 石庭の風ほのぼのと闇払う 難しい亭主なんよと楽しげに 古稀記念恩師招けばみな童 同姓同名宅配便が迷ってる 一時間が三時過ぎれど声もなし ほたる川柳同好会(大阪) 水野 四郎報 黒兎報 いさむ 美智代 宇乃子 久 弥 寿 高 男 明 視 生 額

> カロリーのハードル軽く口が越え 空咳をすれば顔出す妻がいる それぞれの時計で動く三世代 ストーブが消えれば猫も去って行く

> > 輝

夫朗

西宮北口川柳会(兵庫) 黒田 能子報

今が旬いつも自分に言い聞かせ

泥水を飲んだ茎から蓮の花 菜の花の茎から蝶を呼んでいる 少年の日のオルガンが鳴る母校 あんずればことこと老母のつえの音 ひと雨で茎は強さを見せつける アラセブンしっかり歩く茎である 雑音もたまに聞けばいい薬 幸せの音ですパンがぷうと焼け 音楽葬鳴りやまぬまま天国に ひとり居のドアにも春のノックあり いもの茎食べて育った長寿国 比ろ志 てる 折 早加永 キヨミ 直

胃袋を切られて生きる肚すわる

いたる

コンビニが出来て包丁が錆びだした アマリリス茎の長さにある誇り

帯キリキリ喪主の女が未練切る 微塵切りキャベツたまねぎ妻にたり

整理券一人手前で打ち切られ

風ひかるとうとう春ね柳の芽 温暖化とうとう自然狂わせる

不景気も何処吹く風と犬は寝る とうとうの祝辞へ欠伸噛みころす ああ逆転入れ歯の数と自分の歯 晩成でとうとう咲いた子がやさり とうとうと雪解け神の滝となる 梅林を散歩蕾が笑み呉れる いとおしや残り一本歯が抜ける **肩書は消えてとうとう名前だけ** こだわりもとうとう溶けて春が来る わ 光子 弘 美代子

川柳若葉の会(大阪) 宮﨑シマ子報

酔さめて大風呂敷は何処へやら

初

恵

勝手にせよ父の背中がもう許す 望まぬに勝手に卒寿せまりくる お犬様の勝手について行く散歩 花活ける妻は女だなと思う 雑音と思えぬ大事な事を聞く 雑音にふり回されて今日も暮れ カレー炊く勝手に食べてくれるから 定退後妻は気儘や勝手言う ますみ

シマ子

勝手ながら家出しますと独り言

加津子

家のローン済んで障子が軽くなる 川柳塔鹿野みか月(鳥取) 茶子報

お喋りも至福のひと日老母といる

くに子

陰になり日向になって茎の自負 名声を掴むと花は散り易し

川柳塔おっぱこ吟社(香川)川崎ひかり報

値崩れを心待ちする小市民 春うらら日向ほっこで命干す 老けこんだらあかん笑いの五七五

結局はさもしい人となる総理

正

午前様底が割れてるパパの嘘 出さないで預けていれば貯ります カレンダーどこかに出る日二重丸 美しく老いるやっぱり金が要る 子

気のおけぬ友とディナーをする至福 至福です一日千本梅見茶屋 軍服の足は整列見事だな 七度目の丑に至福の赤えば スウィーツでくすぐられてる血糖値 血圧計外しやれやれいい値 (西)和 孔美子

甘い汁たっぷり吸った天下り 味噌汁に老母の愛情山と盛り 唸ってる汁椀蓋の指角力 折角の熱いお汁も猫舌で

あきら

弘

味噌汁の臭いに孫も起きてくる お汁粉の椀までなめる孫可愛い

よしみ くに子 ふる里で味噌汁の味かみしめる 甘い汁吸った報いはすぐに来る みそ汁の湯気ほっかりと老母偲ぶ

いさむ 八重子

> 幸せをこぼして母の目が笑う 春近しもぐらも出たり入ったり 達者とは至福の光だと思う

両の手に至福を受けて輪を保つ 火燵から焼き芋食べてああ至福 富久江

喜美子

丸かじりイワシに無駄はありません 人を刺し人をくすぐる指である 石花菜

くすぐられなぐられ兵は立ったまま ステテコでビールを飲んでいる至福 これ以上至福求めりゃ罰当る やれこらさ今日も幸せ夕ごはん よく笑うきっと至福の女だろう

きみ子

オシッコをシャーとしたいのに出ない 出どころは母の胎内だと憶う 税金のかからぬ言葉先に出す 出資金だけで信用できません **看想の迷路から出てペン走る** みどり

振り向けば野心が列をなしている 朝市に整列とれたての野菜 雪もまたダルマになっていて至福 こそばゆいギャグでも連発は飽きる 右を見て皆が整列できますか みさ子 かおる

わかあゆ川柳会(島根) 松本はるみ報

運ばれたお金は秘書のせいにされ 幼な児の書ける日の丸世界 ちよえ

-101

エンゲージリング大きいダイヤというスター 再びは会えない今朝の風をのむ もう一度会いたい戦友は浄土なり 生きがいを求めふたたび登る山 原点は高くかかげた日章旗 原点へ最短距離で向かってる 原点を探しに降りた無人駅 はるみ かつ子

柳ささやま(兵庫) 可住報

ピーナツで通天閣は鬼は外 偉大なる心の力を身に受ける 豆撒きは自分の心にもします 腕の力曽孫抱くまで落せない 本物の腕丁稚からたたき上げ 不況風暮し見直すいいチャンス 自分への誕生石を注文す チャンスなどやってはこない掴むもの 力こぶ姑から嫁に引きつがれ よそ行きの顔で注文服を買う 注文を付けられながら腕を上げ **豆絞りはっぴに鉢巻威勢よく** 病が邪魔して力抜けました 多美子 美智子 かほる 美紗子 美緒子 子

尼崎尾浜川柳会(兵庫)

泣いている児をあやすのは苦手です まんじゅうも卒業式に華を添え 政 陶 žΤ.

上司から猫撫で声でこれ頼む

振り出しに戻り裏目をはね返す

同じなら愉快に行こう夫婦ツアー いい日悪い日みんな包んで春を待つ ランドセル蕾が開く春を待つ G7ゴックンワイン恥を知る 世界不況鉄の炎も消しにくる

まんじゅうはこしあんが好き母ゆずり 若かったすがる想いで追っかけた 葬式饅頭それ楽しみについて行く デコポンの形に惚れて絵に残す 名物の回転焼きが消えた駅 カップ酒ポッケに旬の味を追う 七光り追って転んだ元総理 菜々子 亀与子 イサミ

おしくらまんじゅう幼い恋を思い出す 美代子 よし子

追えば逃げ逃げれば追って村雀 納豆は甘納豆しかあきまへん 留守電にはなしするのは苦手です 追伸のたった二行にある本音 夜の川面アバンチュールをけしかける 頭が高いと言ってみたいな妻や子に 春うららうぐいす餅や桜もち かずお 男

目に見えぬコクを追ってる杜氏歌 闘争心煽った鮎のおとり罠 冬眠中ですスッピンですみません 追ってくる孫には負けて連れて行く 比ろ志

エイヤアのかけ声だけの今日終る 毒まんじゅうまだ出回っている永田町

幸せを追って築いた丸い家 冷水で気合をかける二日酔い 独り住む母を見守る鬼互

> 和菓子屋の暖簾にひかれ休む杖 失敗を梃子にしている人もある 酒好きな友がまんじゅう提げてくる 孝

籠 太

川柳クラブわたの花(大阪) 西川 義明報

寒い帰途赤提灯に足が向く 前倒し使っちゃったよ給付金 欲張った偽装すべてを無くすはめ 家計簿の赤鉛筆をまた削る いつふみ

義理チョコの数も不景気知らされる 若いらしいあちこち角を打っている 天にだけ門限が無い七不思議 油売り証城寺からきたらしい

筋道は判っているが見る黄門

外面が良くて家では困り者

ますみ ふりこ

真っ新な夢を見つけに春の靴 遊ぶ知恵泉のように湧いてくる 愛という形見えない荷の重み

呱呱の声まず此の世へのメッセージ はじむ

たえ子

美代子

Ħ

八寿子

-102

南大阪川柳会

きみえ

直 寿美報

持ちすぎた宝は手からこぼれ落ち 老夫婦モデルルームで夢を買う 親類の有って良いやら悪いやら 祝い膳老いて従兄とページ繰る 前向きに生きて心に灯をつける 美はる 司 検察の足のリズムは自信持つ 挨拶はやや軽口でリズミカル 天と地のリズムで眠くなってくる 正直に生きる誇りの自負がある 健康が誇りで今日も腹がへる わたくしを崩さぬ誇りだけは持つ 誇りもつ老いたトンビが笛を吹く

誕生日祝ってくれた親にせず その先を誓い合ってる老夫婦 冬山を侮るなかれ牙を研ぐ

柳塔まつえ吟社(島根)三島

大寒の蕾は凜と春を呼ぶ

仲間はずれてとぼとほとランドセル 旧交を深め仲間と座が笑う 古箪笥死角にひそむ母がいる 献身を信条として母でいる 子の渋をドライアイスで抜いた母 千人針母も昭和も遠くなり 助けあい今日も仲間と夢語る 大小の悩みかかえた古希仲間 楽しそう尻尾隠して仲間入り 夜行性だった昔の飲み仲間 し母のタンスが冷たい部屋に置いてある 亡き母の夢はほめたりしかったり たえこ たけし 玲 ちえこ 和歌子 紅 子 子

> 出発の前夜の酒に酔い痴れる ご詠歌のリズムが好きな仏さま 輪の中のリズムで今日も生きている リズムなどおかまいなしで日が暮れる 桂 日出子

発つ朝の母のひと言反芻し 戦地へと発ったあの日は晴れていた 発つ間際告日された胸の内 ローマへの旅寝てる間に着く時代

大望を秘めて故郷の駅を発つ

川柳茶ばしら(愛知) 板山まみ子報

平等でないと意欲が物を言う お囃子に合わせソーレと山車を引く いい年で雲に乗る夢まだ捨てず お帰りをせかす昆布茶に席を立ち 愚痴を聞くお茶もうんざり薄い味 ウーロン茶同じ会費が気に入らず 迷いつつ一回りするランチどき 由美子 美千代 かつ子 男

自分史に誇る築いた小さい城 百姓の誇り大地の声を聞く

スズコ

卒寿過ぎ茶飲み友達みな冥土

まみ子

酔っ払いあの大臣も二世です

春一番花粉黄砂をのせて来る

ひと言が胸に刺さった雨の夜

とろとろと命もやして共白髪 とろとろと春の足音リズミカル とろとろと者込んだ愛のかくし味 とろとろと愚痴をきくのも人助け 美術館とろとろ見てる春近し たもつ あや子 タカ子

捨てるには惜しい着るにはちょっと派手 躊躇なく貰いますとも給付金 ためらったあげくの女と五十年 ためらわず愛は一直線がよい 千年の杉が支える塔が立つ 生き方は演歌古いと言われても 古本市宝さがしがおもしろい 離婚届ためらいも無く印一つ

黒砂糖みやげ話を語り出し

寿

払い下げカンポの宿に黒い影 ザワワザワワ風が奏でる戦の愚 砂糖へと群がる蟻は総入れ歯 砂糖湯かと笑われながらコーヒ飲む 豊かさの中で人間砂糖漬 ひさ乃

昭

やわらかい日差し一気に桃開花 口に毒嫌われ者の砂糖です なぎさ

半世紀隠忍自重花開く 淋しい日コーヒに砂糖入れすぎる 男と女どちらも好きを待っている リストラで花見どころでない暮らし 幸せを刻んでいたい古時計 点滴の白い時間と会話する 編棒の先に広がる夢があり おそ咲きにようやく春の風が吹く 人よりもいつもおそいが開花する 遅咲きと皆で見守る努力の子 開花日をウエザー三社競い合い 重い荷も我慢で生きた若い頃 我が人生花も開かず散りもせず 胸中に不平不満を溜めている まだいける臭かいでるお母さん 春よ来い開花促す菜種梅雨 溜り場で錆びた命のリフレッシュ いなければいないで不便古女房 傘寿過ぎ残りとろとろ生きていく 支持率が下がる大臣酔っぱらい 煩悩の橋を渡って来た写経 温もりがじんと伝わるかな便り 焼け跡を原風景にして老いる 職引いて 秘めたる才能開花する 会大阪 村上 けい子 \$ ルイ子 憲太郎 正 正 男 読めぬ文字こよなく愛し古書の庫 寒くてもマニア集まる東寺です ああ企業募集リストラ繰り返し 飲み忘れの薬が溜まる回復期 句に詠んで妻の溜め息虹にする もう一度咲かせてみたい古稀の花 溜め込んだ愚痴をはきだす縄のれん 溜めていたヘソクリ妻に召し捕られ 梅一輪咲いていよいよ杉花粉 呑兵衛が開花宣言待ちわびる 決めたのは合格通知髪染める 女房を質に入れてもいいマニア マニアの頃集めた宝今はゴミ プライドが募集欄には飛びつかぬ 底力溜めて稽古は怠らず 生きている限り今日には今日の花 春を待つ蕾にエール今朝の雨 老いの波頭に顔に足もとに 開花待つ今日の命をいとおしむ 琴線に触れてひっそり開く花 リーダーは百年先を見てほしい 人の世も草木も遅速ある開花 ふる里に待つ人のいるありがたさ 書き溜めた妻の日記に居候 柳花の輪(大阪) 重風報 よしお 富美子 たけし やすの たかし 成 風 畔 書くたびに金釘流が悔まれる 孫が書く愛敬のあるまあるい字 達筆の返事逢いたくなってくる 拝啓と背すじのばして書く手紙 礼状を妻に叱られながら書く メールより手紙の方がうれしいな 行間に書きたい事が滲んでる 水平線青の違いを教えてる 青虫が残してくれた菜が旨い 終章でやっと見つけた青い鳥 一生にいくつ名前を書くだろう

気付くまで待ってやるのも思いやり にわか雨に傘が出てくる田舎道 行きづまり妻の情けに生き返る

ミヨノ

章司報

青から赤信号早い老いの足 赤い灯も青い灯も好き酒も好き 何度でもいおう戦争もうごめん 馬耳東風今のくどくどなんやった 百年に一度の不況聞きあきた くどくどに犬も横向き返事せぬ 天は二物読みが当ったバックシャン 風を読むことも仕事という案山子 間違えて読んで総理になる準備 石を投げライバルの腹を読む はびきの市民川柳会(大阪) みつこ 久仁子 美代子 ヨシ枝

りつえ

ちづる

扶美代 いさお

不況でも花は大きく咲いている 宅配の荷から転げる母の愛 夢を書く私を忘れないように 春を呼ぶびんつけ油大相撲 人騙す舌がころころよく回る 人肌の晩酌ほっとサクラサク

あかつき川柳会(大阪) 山本 柳昌報

坂の町尾道芙美子下駄の音

どの国も子らの瞳は宝もの 子や孫の瞳曇らぬ世にしたい 澄んだ子の瞳にちょっと狼狽える 母の声聞きたく坂をかけ上がる 凍てついた線路を守る青ランプ 産声の瞳に写る未来地図 真っ直ぐな瞳の人について来た 学童の瞳かがやく好奇心 もういくつ越えてきたやらおんな坂 ジグザグに騙しだまして坂登る 山坂をいくつも越えた笑い皺 給付金撒いても支持は下り坂 美智子 弘 枝 歩

> 子等の瞳濁らぬ地球残さねば 瞳から熱いホントがこぼれ出る 気象予報士十三歳で胸を張り ガザからは花の便りがまだ来ない 雇用悪化悲痛な叫びきいてんか 手ぶらには入札価格教えない 民主党本心自民と同じかな ふんぷんと傘寿の路に花よ舞え 芬芬と百合は強気で攻めて来る ふんぷんの議論の果てはふり出しに 船頭多しふんぷんとして陸遠し 春野菜みなふんぷんと胃をなだめ 山ゆうこ ルイ子 美世子 昭 甲 子

豊中もくせい川柳会(大阪) 則彦報

外でると他所の主人が良く見える これ以上なにを望むか夫婦傘

あっさりと引き下がる妻何かある

花よりも団子と蕨芹を摘み 鉛筆の竦む日重きスランプよ 阪神Vだカーネルさんが出て来たよ お浄土も梅香るらん亡夫の忌よ 小回りの効かぬ男で邪魔にされ 千枝子 111

逝くときはテールランプを持って行く

諸説紛々火星人に巡り会う ふんぷんが藪の中から臭いだす ひもじさがまた甦るランプの灯 ランプの灯漏れて戦時は非国民

愛着があって箪笥に眠る服 ケセラセラ言うほど度胸坐らない 由緒ある桜も客も杖をつき 今生と来世を繋ぐおくりびと

香りなくひっそり燃えている椿 川柳へ錆びた頭と根比べ 他人とは違う親子の車間距離 すぎ花粉春の序曲に乗ってくる

古本屋店主は時代劇の顔 面倒な話聞えぬふりで逃げ

白状をあっさりとして勘繰られ 給付金あの世へ土産でも買うか 比べれば池の鯉でも金が好き

オンとオフの暮らしになれて怠け癖 諭吉さんお邪魔しますと来てくれた しがらみを気にせず押せる削除キー アメリカの大統領とつい比べ

シンプルな服が一番良く似合う ドタキャンを涼しい顔で告げにくる ホイッスルなんのドラマも無く負ける 赤い椿いっぱい咲いた孫できた みつ子 寅次郎

邪魔くさいことから母は片づける 帽子から靴へ瞬時の女の眼 ひと言に心開けば春の風 オペラ観る給付金をば消費する 女の子を産みたかったと古い雛

川柳さんだ(兵庫) 哲男報

手と金のかからぬ夫つくります 男

-105 -

安土

いい加減な事が嫌いな腹の虫

日の出

かすみ

うちの人円満すぎて頼りない 梅干しが大好き僕はばあちゃんっ子 ほめられて愛の形になるさくら 想い出の桜に逢える通りぬけ 後期です命の色を足して春 この梅も去年の梅もこの木の子 子や孫に続く命を温める 家庭円満の秘訣は妻の家来です 丸洗いしたい男が側にいる グッドバイそろそろ金の切れるころ 三分咲き少女のような梅が好き 弘一 たもつ ルイ子 央 夫

キヨミ

新入りが運ぶお膳は踊ってる 再会に話し足りない半世紀 再会の涙で濡れる地震の跡

路の薹お膳にのぼり苦笑い

文

仏壇に再会約した友笑顔

あの人の笑顔に会える胸さわぐ 日に一つ堪忍袋縫ってます アバウトな親に律儀な子が育ち

美紗子

折角の再会なのに金がない

ことばなどいらぬ涙の無言劇

千代子 婦美子

母さんがしつけの良さに一目惚れ

順

花粉症マスクに紅がもがき出す 尻取りでそろそろ脳を試される

こっそりと置いてきました志 うるさいとカルテの隅にメモがある アメリカの主治医オバマが書くカルテ 円満な家庭にいつもある笑顔 異常なしのカルテお酒を飲みたがる ええ嫁とやたら言うのもおかしいな 価値観のこんな所にある格差 大家族内緒ごととは縁がない じゅんこ とし子 あやめ

鐘三つ鳴らし天狗になった鼻 食品の合格印を疑う日 かくせないお腹羽織を着てかばい 腹に孫今では猫をのせてます 腹帯を締めて妊婦は母の顔 ブランドのお洒落に誰も気がつかぬ 合格し宇宙船のる若田さん 難関を突破苦労はこれからだ しおらしく頷く妻の腹の中 八間に合格をした呱呱の声

花の風気力を出せと言うエール 親の顔見たいと言われ顔を出す 誇らしげに納棺というおくりびと もっくんにして貰いたい納棺を 同期会先ずは訃報の話から 夫との旅の思い出椿咲く 験かつぎ左から描く朝の眉 ストレスを笑い袋に閉じ込める

げんえい

歳ゆえか和装に遇うと気が和む ブランドで飾り淋しさまぎらわす 知

とんがった気持まあるくする地西

ペタンコの靴しか履かぬ岩田帯

楚楚と咲く梅は雑音寄せつけず

雪国の母に届けるよもぎ餅

川柳ねやがわ(大阪)

恵子報

毎日がフリーデーでもある予定

ガソリンが半値になるも騒がない そよ風にコートを脱いで春の歌 長生きも程々と言う生き上手 お膳立てされて春待つ給付金 上げ下げの膳にほろ酔う主婦の旅 お銚子がついて嬉しい昼の騰

この歳でまだこんなこと考える 運掴む手です奇麗に洗っとく

> 子 子

そろり詩人へ土曜の雨がメーキャップ

ただよし

いざ鎌倉へ充電おこたらず 主婦として必要経費非公開 昭

酒が出て円満解決したケンカ 春の陽へエンドウ豆がリズミカル

湯の宿で自作の梅酒老姉妹 子を宿す嫁がだんだん天下取る 色めがねかけたら姐御おばあさん かしましい一団去って宿静か 子の家にたらい回しにされる母 見当たらぬ客を探してバス走る 車座になるとお酒が顔を出す 車庫入れが下手でどうにもなりませぬ 職の無い男が外車に乗っていた 給食費払わずベンツピッカピカ 母乗せた夜の信号きれいだと 救急車行く先々で拒否をされ 新車には別嬪さんがよく似合う 何かあるあの娘見ている色めがね メガネなど要らぬ夫は強がりを めがね越し見合の席でのぞかれる 色眼鏡はずせば世間平和です それなりに見える眼鏡で笑う日々 終りなのか始まりなのか桜の木 太い字で書いて気合を入れ直す とりあえず口惜しさ騙すいちごパフェ 無料だが誰も乗らない口車 本心と違う理由でまだ独り 人車長く使えば部品なし 吉川柳会(鳥取 よしえ かつみ 理 日出子 Œ けいこ 石花菜 喜美子 賀寿恵 昭 恵 友と逢い八十路の幸を確かめる 忍び寄る老いメッタ打ちにする さざ波の枕詞の あらかじめ中味が分る福袋 山頂で海の真っ赤な陽を拝む 白梅が婦系図をまた読ませ 躓いて人生表裏見えてくる 躓いて路傍の石を蹴ってみる メガネ無くてもよく見える空と海 メリハリの利いた御経で眼がさめた メリハリが足りない私の昨日今日 メリハリをつけてピアノを弾いて見る メリハリの無い一日だった四股を踏む コハクチョウ勢いつけて北へ去る メリハリなんか用がないえびす顔 思い出の夫との旅の黒部ダム 団塊は出湯の宿で過去流す 女だけ輝いているお湯の宿 つまずいて足元見てはおどろい メリハリがなくてメタボとなりにけり 宿六はお酒があれば上機嫌 人生の躓きバネに這い上がる ッタリとメリハリだけで生きて来た 日のメリハリつけに先ずゴルフ むらくも川柳会(島根) 毛利 7 かずこ きみ子 美ッチ 俊 瑞 いさお 美津恵 酔芙蓉 幸報 枝 やけくそを宥めなだめて数珠をくる なんだこりゃ孫が平均値にいない 馬鹿馬鹿と言われ人間磨かれる 馬鹿かしらまだ残り火で人を恋う 馬鹿になることも教えた母の背な 平均台運動音痴すぐ落ちた 平均寿命越しても欲は深くなり 母さんは見事家族のヤジロベー 長い長いお伽話のまださ中 親馬鹿で欲の固り苔が生え 幸せは平均寿命越えて生き 幾度も転び平均的となる しなやかに平均寿命越すつもり 小さな地球なぜ平均にくらせない 頑張って平均的な妻でいい 閻魔さま平均寿命過ぎました 若き頃ほんのり抱く恋心 ほんのりと菜の花かおり待ちわびる 雪の下土には芽吹くふきのとう 慎みて天命米寿だ仏間告ぐ 倖せは相談される親であり ストレスを上手に捨ててきた長寿 人柄を筆のはこびで知る賀状 寒いねと一日過ごして桜見る 岩美川柳会(鳥取) 石谷美恵子報

安

ます美 恵美子

美

はるお

きみ子

かつみ

世間体繕う針のメドが拗ね 赤いバラ針を隠そうともしない 秒針のこわさ将棋で思い知る やけくそで貧乏神に抱かれてる やけくそになると心が遠くなる 時計の針戻せど悔いはまだ残る 毒針のようにチクチク派遣切り 点滴の針につながれてる命 追い込まれやけくそになる錆びた脳 やけくそだ見ざる言わざる逆らわず やけくその博打その後の噂聞く 郎 邮 パンドラの箱開けてしまった人のエ 箱代が百円ですに思案する 遠い日の母の手箱を捨て切れぬ たまて箱よろこびあけると目がさめた 捨てるにはおしい空箱たんとある 三歳の夢詰まってるオモチャ箱 箱鮨になにわの味をぎゅうと詰め やがてには手づくり棺で地獄行き マジシャンは空の箱から美女を出す 箱だけとけんそんの菓子差し出して

米子住吉川柳会(鳥取) 渡辺多美子報

ひん曲がり永年勤続表彰状 老いの極みか炬燵ぶとんにひっかかる 手を合せバレンタインでおすそわけ 豆撒きを一人で撒く手弾まない ケータイは携帯してと孫が言う 情念の深みを蹴って春を待つ 多美子 日枝子

川柳塔すみよし(大阪) 岩崎 公誠報

鬼太郎の音頭で町が踊りだす

すみえ

びっくり箱あけたいようなこの不況 捨てるのが惜しい空箱積んである マジックショー覗いて見たい箱の中 目立たない箱へソクリを入れておく ばっは K 籠 П 花 パソコンも私にとってただの箱 作れたらノーベル賞の丸い箱 本棚に色取り取りの薬箱 箱にあと たらい回しの御進物

チエコ

りつえ ノン子

箱書きが箔付けている抹茶碗 白歳で薄桃色の蓋が良い 万札が見えて気になる貯金箱 正太郎

ゴミ箱に事件の鍵がかくされる シマ子 日の出

通帳もハンコも妻の箱の底 子供部屋小箱の中は大宇宙

不況風賽銭箱があくびする 箱寿司に母の想いも醗酵し

(奥)五

外箱はとてもりっぱな引き出物

子が巣立ち静かになった玩具箱 投票の箱にわたしの主義主張

> 箱見ると中味読み取る妻がいる 箱書きのある方欲しい遺産分け ゲタ箱に下駄のないのが気に入らぬ (矢)五 公

八甲川柳会(兵庫)

海峡の向こうに癒す城がある 花開く音は神様だけが聞く 滔滔たる流れ我が身のちさいこと みつ子 いわゑ

海峡を渡る二人に愛の虹 海峡は思い出浸る詩の世界

海峡に沈んだままの宝船 鉛筆で海峡渡る世界地図

春めきて明石海峡活気づく

海峡で思いで深い渦を見た

花よりも人に酔ってる通り抜け 海峡を大橋跨ぎ時が行く

チャレンジが風の通りを変えていく 点滴を通し命の音がする

美恵子

負けが込み通う順路を変えてみる この道をいつかは君と通りたい

カトレアもいつかは通る老いの道 花活けて今はわが城仮住い 賑やかに今朝も元気な通学路 千賀子

弘

散らかっていても安らぐ僕の城 雨の日は雨と仲よく暮らす城 よく言うよ男の城がこの程度

-108

スマイルで憎まれ人生卒業だ 色恋は卒業したと白々し 貧乏を探してすきま風が吹く 棺桶の寝やすいサイズ探してる 派遣切れ暗い世相で職探し 掘り出し物探す欲と二人連れ 新緑と共に目覚めるヘビトカゲ 青い鳥探した先はマイホーム 探し物諦めた頃姿みせる 春を呼ぶ土筆探しに遠出する 躓いた石の下から草萌える グリーンジャンボ当れば記念樹を植える キャンバスに緑を一杯塗れる春 街路樹が緑になれば歌も出る 深夜まで羊数えて朝のうつ 四十年阿吽で妻と通じ合う 峰峰の残雪とかし春の風 温暖化なれど懐寒い春 うだる夏アリは働きわしゃ昼寝 老夫婦あれこれそれで意思通じ 老眼鏡忘れたのでと漢字聞く 口紅をピンクに変えて春を待つ 三枚ペール被せておく本音 本の筋を通しておく誠 川柳塔打吹(鳥取 野口 節子報 みち子 希未子 子 坊 さもしいと妻に取られた給付金 あの日から影をひそめた女帝論 隅っこの善意に神の目が止まる 駅裏で催眠術によくかかる いざと言う時の薬は持っている 駅の裏よりも寂しい寺の裏 卒業証書で目方を計るなよ 水虫と戦している足の裏 裏の裏読んで手すりをつけた家 故郷の土は忘れぬ足の裏 裏表だんだん呆けて丸く住む 送り狼裏街道を遠まわり 裏切りと責めるな弱い過去がある 惚れてます表も裏もきれいだよ 卒業をさせてくれない妻の檄 卒業の友を尻目にまた留年 どこまでも卒業がない五七五 分校で一人卒業赤いバラ 裹大山表は伯耆富士である オレンチの裏にそびえる伯耆富士 裹手から内部事情が流れ出る 大学卒だけど漢字が読めません 女子大の卒業着物晴れ姿 **暴切っても白馬は水に白き影** サークル檸檬(大阪 吉田あずき報 扶美代 美ッ千 きみ子 美代子 くにこ 石花菜 美知江 **芙美子** よしえ 三津子 恵 中 見返りはのぞまぬ母の律儀な手 血税を盗って嗤って無駄にする 生意気な石も苦労で丸くなる 目に余る電車の中の小癪な子 朝一番おいしい空気無税です 馬の負けボートの負けは控除なし 字野千代もさくらもやはり散りました 取られ過ぎでも嬉しいな還付金 申告書判子逆さに押しておく 増税の前菜ですね給付金 神々の芸術ですね夕焼ける 神様と思える母の台所 生意気な僕より多いチョコレート 節税が下手で優良納税者 生意気も何時かは折れる高い 橋桁の一本ボクの税金か 女神まだ届けてくれぬ縁結び 砂時計ゆっくり落ちようれしい日 神様のしいたシナリオ逆らえず 神様もはしごを許す初詣で 余生みな神に委ねている笑顔 神の手の真ん中にいる嬉しい日 恥じらいを忘れぬように顔洗う 輪のばらで華やぐぼくの部屋 堺川柳会(大阪) 河内

みつこ

としお

八千代

公

かりん

月子報

加お里

みつ子

街中が華やいでくる春の風 華やいだ時をねむらせ古箪笥 見栄張らずのんびり暮しリラックス 核兵器あるかないかは内緒です 母さんに心配さすな内緒やで 税金は最少限度納めてる 税金が高いと企業国を捨て 僧は呼ばず陽気にやって僕の葬 時価とあるトロウニアワビ子が叫ぶ 父のようなりたくないという次男 持てもせぬ大きな傘をさしたがり 華やかに見せて家計簿つけている ちょっと金持って生意気言うてはる 生意気な男と顔に書いてある 生意気が詰襟を着た晴れ舞台 税金と道連れ生きている限り 道しるべ残して逝った理想肌 生意気な子が献血を申し出る 振られても振ってやったという女 生意気な女に頭下げさされ 裏金に内緒の封印まだ残す **単やかなチラシの裏の四苦八苦** 億円当たればきっと貝になる JII 大阪 長井 酔 太

世紀子 竜之介 のん子 日の出 明 雑音の中にも学ぶものがある 内緒には出来ない口を持っている 鬼ばばと息子に陰で呼ばれてる 内緒にして一万円で売りはった ドキドキは次のページに残しとく 内定はドキドキとして待ってます ドキドキとそっと手渡すラブレター ビュービューと凄い風吹く春一番 正直な本音左遷に引き込まれ 音を立て麻生内閣急降下 ポケットの中で本音がもがいてる カレンダーまるの印はいい内緒 **音知らぬ手話の子笑顔知っている** 派遣切りもうやめようと声あげる 人垣に受験番号探してる 首階を自分で変えて唄う人

美世子

子

内緒ごと俺だけ知ってる優越感

ヘソクリがとっさの時の助け船

これ以上母をドキドキさせられん 善まさているドキドキドキさせられん 善

逆チョコヘドキドキしてた待ちぼうけドキドキとしながら見たら夫です

ドキドキと桜咲く日を待つ受験

同好の青春切符に花が咲く

ますお

ダン吉

季節の花追って楽しむ人といる父越えたとたん金融危機がくる

ツンドクのままで終った参考書

ええ歳をして追っかけなんかやめてんか追いついた時から相手向き変えるビートルズもカラヤンも追うレコード盤

老い二人どちらも後で逝くつもり さようならのつもりぽつーんと丁寧語 きっと出来るよただ一言にのめり込み 笑顔見せ後を追いたい気にさせる 追いついたまあるい雲に鍵をする 追い焚きを待って昔の風呂が好き 逃げるより追う足取りに力あり 走るのが生き甲斐ですという木馬 逃げた運つもりと覚悟の違い知る おわりにはありがとうだけ言うつもり 真っ直ぐに歩いたつもりの雪の道 寒風にカイロのような思いやり 北風を楽しんでいる野の仏 わたくしは本気のつもりでしたのに ふりこ 比ろ志

まつお

光 子 晩学の傍らに置く参考書
 光 子 晩学の傍らに置く参考書

※考報

 参考にしますとさらり無視される
 参考にしますとさらり無視される

来た道をたどりながらの野辺の道 光北国のタラ カニあてに飲む地酒 満

小さい子内緒の話が大きくて

美義福

第十三回全日本川柳誌上大会

太字は本社同人)

平 一呼吸おいて言葉の棘を抜く 大 留 賞 京都 愛媛 井元由喜子 林

五十年やっと地域の風になる K 長 賞 宮城 太田 良喜 綾子

日本青少年育成協会会長賞 奈良 冷蔵庫を占領してる多国籍 ふるさとに一歩前行く友がいる 阪本 高士

全日本川柳協会会長賞 茨城 とりあえず飴をしゃぶろう自由席 児玉

全日本川柳誌上大会賞

ふるさとで太宰は過去の人ならず 八木田幸子

東京

今井ゆずる

各題

秀句

呈

公

随心院門跡 小野小町ゆかりの寺とし

〇七五一三五一一四一〇九

妻の皺ひとつひとつに僕が居る

石川

坂

百歳へ腹式呼吸して一人

飢えを知る世代物価に動じない 東京

小金沢綏子

連絡先

しなやかに生きて地域の輪にとける 和歌山 福井 菜摘

(秀句—新家完司·三宅保州)

JII 柳 大 会

甲子園川柳社創立60周年記念

۲ き 6月27日 (土) 開場12時 締切13時

ところ 1000円(呈作品集 西宮市民会館(市役所南隣

(各題2句

背のび 曇り 奥山 萩原

西口いわゑ 久保田元紀

暴れる 田頭

う 村上

懇親会 会費 4500円 当日受付 阪神西宮駅 IR西宮駅 步13分市役所南隣 市役所口 北へすぐ

電話0798 (71) 1131 T662-0021 西宮市神原6―17 外村

甲子園 川柳社

第61回 春の吟行句会 京都塔の会

地下鉄東西線「小野」駅改札前 五月二十六日(火)10時30分 小野駅―随心院― (送迎バス)

日

1075-591-9100 京都市山科区勧修寺平田町 魚善(昼食·句会場 椅子席)

「それぞれ」「探す」「作戦」

兼

題

4000円 (当日頂きます) 当日雑感」 各題三句

申込・締切 五月二十日 都倉 求芽あて 用 〒60-88 京都市下京区諏訪町通松原 下ル弁財天町三二八一二〇二

多数。境内前に小町化粧井戸現存。 仏像、屛風、小町像等、重要文化財級 て有名。平安、鎌倉、室町時代の堂、

○沢山科駅または六地蔵駅から地 は六地蔵駅から地下鉄で「小野 下鉄で「小野」〇京阪三条駅また)阪急鳥丸駅から地下鉄一四条 御池」で東西線に乗換え「小野

交

第 24 回 国民文化祭・しずおか2009 川柳作品募集要項

~ 愛鷹に響け川柳 躍動するまち ながいずみ 5

応募受付期間 平成21年4月1日(水)~6月30日(火) (当日消印有効)

応募規定

一人各題二句詠(未発表作品に限る

(4)(3)(2)(1) 応募料 所定の応募用紙及び応募票に必要事項を記入し、郵便振替払込金受領証又はその写しを添えて応募してください。 一人につき1、000円(但し、海外投稿者、身体障害者手帳の写しを添付された方、及び小・中・高校生は無料とします。)

第2回国民文化祭長泉町実行委員会事務局 7411.0943 静岡県駿東郡長泉町下土狩821-1 文芸祭「川柳」係 長泉町文化センター

宿題・選者 お 茶」=長江 〈事前投句〉高校生・一般の部 時子(大 京

3

宏 (広 島 阪 「生き生き」=竹本瓢太郎 東

小・中学生の部 =石井 有人 (北海道

兵 生き生き」 =西來 みわ 東 京 自 由

手」=零石 〈当日投句〉 隆子 宮宮

I

ミ」=佐藤

空

港」=三浦

〈事前投句〉

誤 解 11 村上 氷筆 兵 庫

根

成田

孤 舟

東

京

塩見 草映(愛 風柳 大木 俊秀(神奈川 楽甫 知

賞(予定)文部科学大臣賞・国民文化祭実行委員会会長賞・静岡県知事賞・第 29回国民文化祭静岡県実行委員会会長賞 静岡県教育委員会教育長賞・長泉町長賞・第24回国民文化祭長泉町実行委員会会長賞・長泉町教育委員会教育長賞

社全日本川柳協会会長賞·静岡県川柳協会会長賞 川柳大会(当日投句受付、入選発表、選評、表彰式)

5

4

乱魚 (千葉)

第二次選者

平成21年11月1日(日) 10時30分~16時00分 長泉町文化センター ベルフォーレ

入選作品は、「作品集」として刊行し、応募された方(小・中・高校生は入選者)に無料で配布。

6 問い合わせ先と募集要項の依頼先

7

〒411·0943 静岡県駿東郡長泉町下土狩821-1 長泉町文化センター内

主催者 文化庁・静岡県・静岡県教育委員会・長泉町・長泉町教育委員会・紐全日本川柳協会・静岡県川柳協会 第24回国民文化祭長泉町実行委員会事務局宛 TEL 055(989)0001 FAX 055(989)0500

=松川多賀男

(静

岡

柳

明石アワーズホールにて開 柳祭in明石は20年12月7日)ふれあいの祭典兵庫県川 淋しいなおだやかすぎる 同人特選句

手引きなど要らぬわたし

びに総合順位。 により開催。 ホールに於て約百人の参加 の新日本海新聞社中部本社 大会は4月5日田、 同人の秀句並 倉吉市

丘

小島

氏が就任。

優秀作品當

るシジミ 砂吐いて覚悟を決めてい

砂の城残り時間を考える 玉砂利を踏 む歩幅には嘘

記念碑を囲み誓いの反戦

集『二人三脚』4月3日付

西出 楓楽

> 薬より苦い加齢という処 口にがいから べんちゃらは言わぬあと 歌 村上

▽同人動向

でいく心 せせらぎのリードで澄ん 西内 東京に於て、「落語と川柳 役・西宮市)は3月18日、

手離した愛と手引きした はわたしです 西出楓楽 事は別冊『花音』15号に掲 載される。 氏と対談を行った。この記

天国も地獄も見える風の なる 異分子を除くと酒が旨く 西内

)第9回春はくろぼこ川柳

老父になる 黒田

位河内月子 楽、第二位木本朱夏、 総合順位 第一位西出楓 天笑主幹、楓楽理事長他12 大会へ出席の為、4月5日 ○第9回春はくろぼこ川柳

の通り。総合一位 川柳大会の同人の成績は次 ○第9回川柳明日香社誌上

名鳥取県倉吉市行。

○4月12日田波多野五楽庵

雲南市

眠り 派遣村から帰った影の深 朱夏

○富田美義氏(同人·高棚 は保子夫人との夫婦句 マ出

A6版11頁。 発刊。美研アート印

○奥田みつ子さん(相談

いて、落語家の林家木久扇 のこれまでとこれからにつ 大阪市 豊中市 すむ→自給率四割少子化は すすむ。

さん、名誉会長に宮口笛生 年度より新会長に大内朝子 ○川柳塔なら役員交替。21 大阪市 高槻市 紹介者(右

市原市 大阪狭山市 紹介者

西宮市 和歌山市 紹介者 紹介者

福岡市

家族のみの葬儀が行われた。

▽ご芳志御礼△

中市) 3月29日逝去。85歳。

山門タミさん(同人・曹

尼崎市)から切手拝受。 長浜美籠さん(常任理事

自給率十四割少子化はす ○4月号1頁下段18行目、

▽新誌友紹介△

松田 奥田みつ子

島田千鶴子 次回5月7日水午後1時30

紹介者 一名)西出楓楽 浅田 分~

百井菜々子

任理事2名他1名青森市行。 傘寿記念句会出席の為、

計

常任理事会=4月7日火出 安永

制について継続審議。 ③常任理事の各地句会担当 の選定。②特別常任理事会 席20名①川柳塔85周年及び て―川柳塔85周年の記念品 1000号記念行事につい

菱田加重子 事項⑥その他。 ④定例確認事項⑤各部報告

川柳塔誌は波屋書房 0 0

をしています。 北口店)にて販売取り扱い 国丘店) ジュンク堂 難波)天牛書店 (堺店・二

編集部からお願い

任とさせていただき については編集部 記事の採否と掲載号 へお送り下さい。 情報を川柳塔事務所 この欄への掲載記事、

ます。

句会名	日 時 と 題	会場 と投 句 先
川 柳 ねやがわ	17日(日) PM12時開場 高鷲亜鈍 歿後20周年記念句会 勇気・混乱・純粋・酒・愛	寝屋川市民会館 寝屋川市駅からバス 〒572-0063 寝屋川市春日町 9 - 9 高田博泉 詳細 4月号 113頁
岬川柳会	17日(日)午後1時半締切 好物・テンポ・楽園	(淡輪17区集会所) 〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪3592 八十田洞庵
川柳藤井寺	17日(日)午後2時締切 メロン・追伸	藤井寺市立生涯学習センター・シュラホール 3 F 近鉄南大阪線藤井寺駅下車南徒歩10分 〒583-0023 藤井寺市さくら町2-2-201 高田美代子
豊 中もくせい 川 柳 会	18日(月)午後 1 時50分締切 困る・手本・弱い・自由吟	豊中市中央公民館 阪急曽根駅南東徒歩 5 分 〒561-0801 豊中市曽根西町2-8-4 江見見清
川 柳さんだ	19日(火)午後 1 時開場 馬・意地・ジンクス・自由吟	三田市中央公民館 〒669-1546 三田市弥生が丘5-2-4 堀 正和
川柳クラブ わたの花	22日(金)午前 9 時半から 留守・体操・雑感・自由吟	八尾市生涯学習センター 〒581-0866 八尾市東山本新町9-3-16 吉村一風
川 柳 塔 すみよし	23日(土)午後2時半締切 映る・青・今(いま)	住吉区民ホール 南海高野線沢之町下車3分 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉3-16-8-206 鶴田遠野
和三川柳会	23日(土)午後 1 時から 島・こっそり・蓋	和歌山市商工会議所 4 F 第 2 会議室 〒640-8111 和歌山市新通 7 — 17 古久保和子
東大阪市川 柳同 好 会	23日(土)午後 7 時締切 調子・眺める・近い・女	東大阪市立社会教育センター 3 階 近鉄布施駅北長堂小学校隣 〒578-0925 東大阪市稲葉 3 - 3 - 21 片岡湖風
は が き の 民 会	24日(日)午後 2 時締切 竹・転ぶ・ロボット・ごくり	羽曳野市立陵南の森公民館 近鉄高鷲駅北東徒歩10分 〒583-0882 羽曳野市高鷲8―31―11 塩満 敏
川 柳 ふうもん 吟 社	24日(日)午後1時より 当然だ・ピント・役不足	鳥取駅 2 F シャミネホール 〒680-0874 鳥取市宮長205-45 萩原美雪
南大阪川柳会	25日(月)午後 6 時から 偉い・ノーマーク・弟子・洗う	住まい情報センター (大阪くらしの今昔館・5F) 地下鉄谷町線・堺筋線天神橋筋6丁目駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
松 露川柳会	25日(月)午後7時半締切 自転車・メロン・雑詠	溝口五区集会所 〒689-4201 鳥取県西伯郡伯耆町溝口757-3 小西雄々
京 都 塔 の 会	吟 行 それぞれ・探す・作戦	〒600-8428 京都市下京区諏訪町通松原下ル 弁財天町328―202 都倉求芽 詳細 111頁

[★]日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

句会名	日 時 と 題	会場と投句先				
川柳塔なら	1日(金)午後1時開場 晴れる・美・スマイル	奈良市立中部公民館 4 F 近鉄奈良駅 ④番出口 〒634-0812 橿原市今井町 2 1 24 901 安土理恵				
富柳会	2日(土)午後1時から 補・追い風・自由吟	富田林市中央公民館 (近鉄南大阪線富田林駅下車南へ200m) 〒584-0043 富田林市南大伴町4-1-10 池 森子				
城 北川柳会	2日(土)午後1時開場 侍・もりもり・プライド 自由吟	旭区老人福祉センター 3 F 地下鉄千林大宮3番出口 〒535-0002 大阪市旭区大宮4-10-18 神夏磯典子				
倉 吉川柳会	2日(土)午後2時締切 歩く・結晶・籠る	倉吉市 明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男				
堺川柳会	9日(土)午後1時から 別々・寸前・「やよい(折り句)」	堺市総合福祉会館 〒593-8305 堺市西区堀上緑町2-16-3 河内天笑				
川 柳 塔 みちのく	9日(土)午後5時締切 度胸・辛口・ほのぼの	弘前市桶屋町4-7 居酒屋とんぼ1階「川柳道場」 〒036-0161 平川市杉館宮元53-1 小寺花峯				
川柳塔まつえ	9日(土)午後2時締切 砂・似合う・振る・くねくね	松江市西津田 松江総合文化センター 〒690-0056 松江市雑賀町1388 安達幸子				
川柳塔打吹	9日(土)午後1時から 粒・活気・救う	倉吉市上灘町 9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光				
川柳大阪	9日(土)午後1時から 描く・欲・返事	地下鉄御堂筋線天王寺駅「東研修室」 〒533-0004 大阪市東淀川区小松1-18-24-14 長井善純				
八尾市民 川 柳 会	10日(日)午後 2 時締切 秘密・逃亡・やんわり・雑詠	八尾市民活動支援センターネットワーク 取 072-928-3848 〒581-0086 八尾市陽光園1-3-12-305 宮西弥生				
川 柳 塔 わかやま 吟 社	10日(日)午後1時開場 隠す・財布・すっかり・ 「時間の単位を表す言葉」	近鉄カルチャーセンター2F JR和歌山駅前 〒640-8482 和歌山市六十谷1188―14 川上大輪				
西宮北口川 柳 会	11日(月)午後 1 時開場 雨・石・ささやか・自由吟	西宮市立中央公民館 阪急西宮北口駅南出口歩3分 プレラにしのみや 〒662-0841 西宮市両度町2-19-515 山本義子				
尼 崎 尾 浜 川 柳 会	12日(火)午後 2 時締切 小銭・さて・寝る・自由吟	尼崎女性センター トレビエ 阪急武庫之荘駅南へ200m 事務局 〒661-0953 尼崎市東園田町 2-45-8 山田耕治				
ほたる 川 柳 同好会	12日(火)午後1時半締切 雑・触る・こってり	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール 蛍池駅駅前ビル5F 〒561-0813 豊中市小曽根2-4-1 木野黒兎				
岸和田川柳会	16日(土)午後1時半締切 仮病・こしらえる・雑然 シナリオ	岸和田市立福祉総合センター 〒596-0807 岸和田市東ヶ丘町808-586 井伊東吉				

編

も既に出揃い次号を飾る予 と移ろいを見せました。 くまに新緑鮮やかな季節 ☆特集、父を語る:の原稿 ☆桜を楽しむ季節はまたた

長をされていました。 に引き継がれてからも編集 編集を担当され、『川柳塔』 生路郎主宰『川柳雑誌』の 義父、不二田一三夫氏は麻 ☆本社参与の河井庸佑氏の 定です。ご期待ください。 んな不二田さんを私は心か

多くの漫才コンビによって は今までに放送や舞台で、 れた漫才作家で、その台本 は―不二田一三夫さんは優 寄席』の序文に秋田實氏 51年に出された著書『川柳 **執筆されていました。昭和** プロであり、同40年代には に入社されたという編集の 漫才作家・紫綬褒章受賞 オのディスクジョッキーを **漫才の台本を書かれ、ラジ** 昭和2年映画雑誌編集部

よりもっと特異な才能は標 語作りで天才と言われてい 上演されて来ている。それ

ためていた。みせてもらっ ある。一緒に旅をするとい た。応募した標語はいつも たこともある。そんな時そ ては、思いついた句をした る。不二田さんの本業は つも、こまめに手帳を出し 川柳」であり川柳作家で 位で商品をものにしてい

述べておられます。 ら羨ましいと思った。一と

事務所で作れるようになり

□オンラインが可能になれ

態ではないので、現状はワ されました。オンライン状 ようか。 片肺飛行というところでし ープロ代り、機能としては 事務所にパソコンが導入

それも三月号の分からは、 成、ご自宅から事務所へ送 同人の中原比呂志氏が作 って下さっておりました。 ルは、永年ボランティアで お届けするさいの宛名ラベ 毎月、川柳塔誌を皆様に ております。 ら楽しみと期待を膨らませ 係が築けるのではと、今か ば、よりフレンドリーな関 ールで簡単に交流が出来れ 考えます。 編集の強力な戦力になると □各地の柳壇の皆様ともメ

あるが、この二つの制度に

る。一般市民にはなじみの

薄い作業である。

か、量刑の判断は難題であ

米国や英国には陪審制度が

◇裁判員制度と似たものに

じような事件と比べてどう

は大きな違いがある。

心を呼び覚ましてくれたものと確

まれた私は小学校卒業後、 生を送った。 となり凡そ文芸とはかけ離れた人 大正十一年和歌山県の山村に生 社会人

晩年に誘われて村の川柳サー

がら、曲がりなりにも作句にいそ 受けてから新聞、雑誌を読み漁り のどこかで眠っていた文芸への関 しむようになった。これは私の頭 全く縁のなかった辞書を紐ときな ルに入り、良き師をえて手解きを

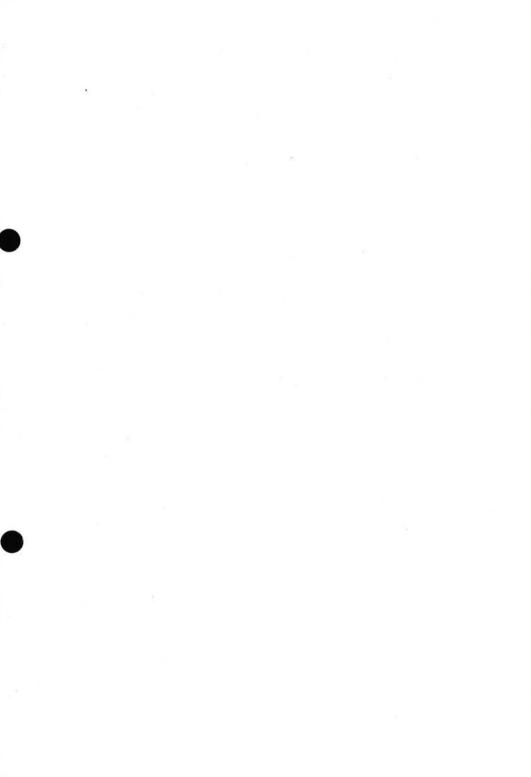
> さに名言であると思う。 ゆくまで実感できるようになった。 句会に出席して川柳の醍醐味を心 信している。 詩である」と言われているが、 麻生路郎師が「川柳は人間陶冶の 勧められて三幸川柳会に入会、

明るい生活のリズムになっている。 って、五七五こそ生き甲斐のある ともすれば沈み勝ちな老境にあ 五七五指折りながら初詣で

◇裁判員制度がいよいよう なる。柳友の中にも裁判員 制度が表舞台にたつことに 含め賛否両論があったこの 月からスタートすることに た方が居られると聞く。 候補者の通知を受け取られ ◇法曹界、学識者、 世論を 猶予をつけるか、過去の同 で判断することである。 無罪かだけでなく、量刑ま 判官が決める。一方、裁判 告の有罪か無罪かを判 ◇陪審員制度は陪審員が被 ◇懲役何年にするか、執行 員制度は、裁判員が有罪か し、有罪の場合の量刑は裁

原稿のメールでの転送等 ば時事用語等、語彙の検索、

同人・誌友 マルで囲んでください。



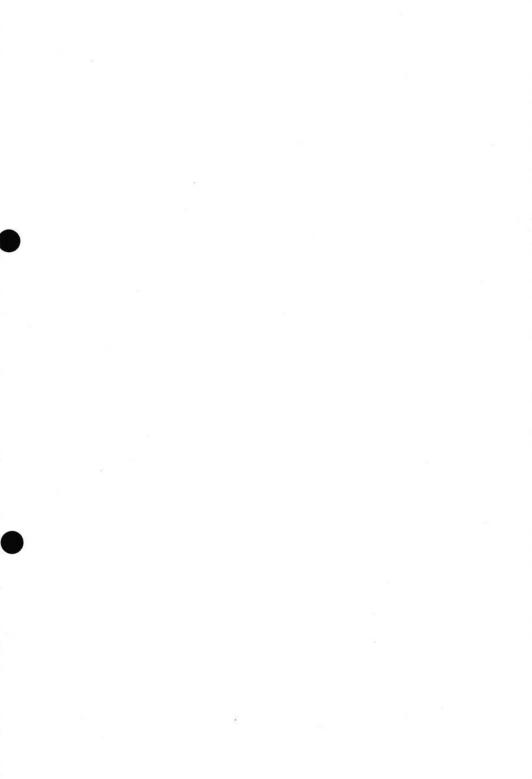
檸檬炒投句用紙

「裁 く」 (5月15日締切)

7月号発表

木本 朱夏 選 ——共選—— 髙瀬 霜石 選

	В	A	۱ ا		В	A
地名				地名		
県 道 姓雅号		8	切らないで下さい	県 道 姓雅号		



◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

紹介者 住 氏 電 所 名 話 ₹ 年 年 月から一年 月から半年 ₹543 -0052 9800円 5000円 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 該当の方に○をつけて下さい 花野ビル201

Ш 柳 塔 社

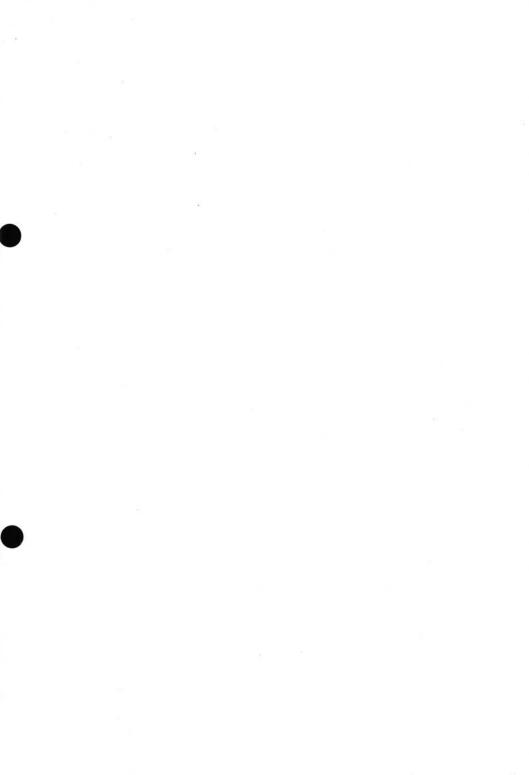
振替 (電話

00980-4-298479 06-6779-3490)

年

月

日



作 品 募 集

檸 愛水 JII 一路集 步教 (3句) 檬 煙 柳 室 2句 抄 抄 塔 7 月号発 ーシャ 裁 3 (8句) (8句) 游 句 傘 2 ぶ」(3. 表 (5月 句 新小 髙 鈴北竹池 15 本 瀬 家 島 内 H 木野信 締 朱 霜 完 蘭 天 切 哲照森 夏石 可 共 担

「保 檸檬抄 険 路集 「乾 < 11 貝 「ほがらか」 初歩教室 「激しい」

選 選

選

選選選

8月号

第27年度 夜市川柳募集

第12回「大 島 幸 1 / 選 ハガキに3句 5月20日締切 投句先 〒593-8305 堺市西区堤上緑町2-16-3 河内天笑方 堺 川 柳

₹543-0052 定 〇〇九年(平成二十 * 年分 年分 価 阪 替〇〇九八〇-編集人 電話(〇六)六七七九-三四 市天王寺区大道一 九千八百円 百 Ш 山河 年)五 研 野ビル20 本内 送 円 7 月 料76 (送料 希 權 py 九〇番 H 同 七九番 1号室 久 発行 共 社 1 子 治

本社5月句会

会

費

0

0

0

投

句

料

5

0

円

切手

(各題2句 0

以

内 미

平川

·日の10時から16時 が塔本社事務所へ

時までにお願いへのご連絡は、

11

11 土・日曜、

たし

ます。

祝日を除く

を

明 11

願

(4)(3)

選 選 選

州

おは ところ なし 天王寺区石ケ辻町19 題 アウィーナ大阪 火 マンス L 暇 Ž 元 7 和 12 4 階 坊板 内 真 柳

催 5 時間 **月**7 日 締切時間にご注意下さい (木) 午後5時半開場 電06.6772.1 6時 * 締 t刀

2

き

本社 6 月句会 9日(火)午後5時半から

兼題 棤 「育 つ」「タ フト 手 「紙 術」 屑

ます してください。 分以 、の投句 上前 Ш 0 納 数および投句締切期日の厳守をお 0 定期購読者) 0 投句

(3)各欄への投句は、必ず氏名と住所(県・ります。初歩教室は誌友のみとします。復愛染帖・檸檬抄・一路集への投句は、同2愛染帖・檸檬抄・一路集への投句は、同句用紙を使用してください。 (本社事務所取り扱い)、 必ず氏名と住所(県・ 水煙抄欄へ につい に限り、 します。 愛染帖・ は、同人・誌友 T 本誌綴込みの投 、棒檬抄は本紙の受染帖・一路の人・誌友に限 市名)

句年川

ホームページアドレス http://www.senryutou.join-us.jp/



医療法人社団

湯川胃腸病院

•日本医療機能評価機構 •ISO9001-2000 認証取得

健康保険取扱 看護2A・緩和ケア病棟

- •消化器科•内科•外科
- 放射線科・ホスピス
- デイサービスセンター

診療時間

月~金 8:30~16:00 8:30~11:00

JR桃谷駅徒歩3分 http://www.yukawa.or.jp

電話 大阪 6771-4861代